

# 未来の水戸をつくる市民1万人アンケート

## 報 告 書

平成 24 年 3 月

水 戸 市



## は じ め に

水戸のまちや人々の暮らしに大きな被害をもたらした東日本大震災から1年が経ちました。水戸市は、一日も早い市民の安心・安全な生活の回復に向け、まちの復旧・復興を最優先に、スピード感を持ち全力で取り組んでいるところです。

このたび実施しました「未来の水戸をつくる市民1万人アンケート」は、震災からの本格的なまちの復興、笑顔にあふれ安心して暮らせる未来の水戸のまちづくりの指針となる新たな総合計画の策定に当たって、市民の皆様の生活環境や市政に対するご意見、ご要望を広く把握し、行政運営に反映させるために行ったものです。

今回のアンケートは、市民と行政との協働によるまちづくりを一層推進していくため、従来の調査対象を拡大し、住民基本台帳から無作為に抽出した満18歳以上の市民及び市政モニター、審議会委員等の皆様10,145人を対象とさせていただきました。その結果、約57.2パーセントと多くの方からご回答をいただいたところであり、市民の皆様の市政に対する関心の高さと期待の大きさの表れと真摯に受け止めております。

今後、このアンケートの結果を踏まえながら、市民と行政との協働により、市民が安心して豊かな生活を送ることのできる快適空間、未来に躍動する先進都市を目指し、精一杯、取り組んでまいります。

最後に、このアンケートの実施に当たりまして、ご協力いただきました市民の皆様、関係各位に対しまして深く感謝いたしますとともに、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

水戸市長 高橋 靖



# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の設計	3
3	調査の内容	3
4	回収結果	4
5	集計に当たって	6
II	調査結果の分析	7
1	住みごころ	9
1-1	水戸市の印象	9
1-2	定住意向	17
1-3	定住を希望する理由	20
1-4	定住を希望しない理由	23
2	これからのまちづくり	26
2-1	住まいへの意識	26
2-2	水戸市の方向性	33
2-3	適正人口規模	36
2-4	施策の満足度	40
2-5	今後優先すべき施策	47
2-6	生活環境の評価	52
2-7	生活環境の満足度	60
2-8	施設整備の地域要望	63
3	主要課題	69
3-1	水戸市の魅力ある資産	69
3-2	中心市街地活性化	73
3-3	子育て支援	85
3-4	高齢者福祉	87
3-5	防災対策	91
3-6	環境問題	100
3-7	市民と行政との協働	105
3-8	市役所本庁舎等のあり方	118
4	市政についての意見・要望	124
III	分析結果の概要	125
	<b>資 料 編</b>	131



# I 調査の概要





## 1 調査の目的

笑顔にあふれ安心して暮らせる未来の水戸のまちづくりの指針となる新総合計画の策定に向けて、震災復興、市役所庁舎のあり方を含め、市民の生活環境や市政に対する評価・意見等を多面的に把握し、行政運営に反映させることを目的とする。

## 2 調査の設計

- (1) 調査地域 水戸市全体
- (2) 調査対象 ・水戸市在住の満18歳以上の個人  
・市政モニター、審議会等の委員となっている個人
- (3) 標本数 10,145人
- (4) 抽出方法 水戸市在住の満18歳以上の個人については、住民基本台帳から等間隔無作為抽出
- (5) 調査方法 郵便配布一郵送回収法
- (6) 調査期間 平成23年12月5日～12月20日

## 3 調査の内容

- (1) 住みごころ
  - 水戸市の印象（問1）
  - 定住意向（問2）
  - 定住を希望する理由（問2-1）
  - 定住を希望しない理由（問2-2）
- (2) これからのまちづくり
  - 住まいへの意識（問3）
  - 水戸市の方向性（問4）
  - 適正人口規模（問5）
  - 施策の満足度（問6）
  - 今後優先すべき施策（問7）
  - 生活環境の評価（問8）
  - 生活環境の満足度（問9）
  - 施設整備の地域要望（問10）
- (3) 主要課題
  - 水戸市の魅力ある資産（問11）
  - 中心市街地への来訪頻度（問12）
  - 中心市街地への来訪目的（問12-1）
  - 中心市街地に行かない理由（問12-2）
  - 子育て支援施策への要望（問13）
  - 高齢者福祉施策への要望（問14）
  - 家庭での防災対策（問15）
  - 市の防災対策（問16）
  - 環境問題対策への要望（問17）
  - まちづくりや地域活動への参加状況（問18）

- まちづくりや地域活動への参加意向（問 19）
- 市民と行政との協働（問 20）
- 市役所本庁舎等の改修又は建替えに当たっての優先事項（問 21）

## 4 回収結果

### （1）市全体の回収結果

内訳	標本数 (A)	回収総数	有効回収数 (B)	回収率 (%) (B) / (A)
市全体	10,145	5,809	5,801	57.2%

※回収総数と有効回収数の差（8）は、白紙無効件数等を示す。

### （2）属性別回収結果

#### ①性別

内訳 区分	標本数 (A)	有効回収数 (B)		回収率 (%) (B) / (A)
			構成比 (%)	
市全体	10,145	5,801	100.0	57.2
男性	4,959	2,509	43.3	50.6
女性	5,186	3,204	55.2	61.8
無回答	-	88	1.5	-

#### ②年齢別

内訳 区分	標本数 (A)	有効回収数 (B)		回収率 (%) (B) / (A)
			構成比 (%)	
市全体	10,145	5,801	100.0	57.2
20歳未満	216	90	1.6	41.7
20歳代	1,355	496	8.6	36.6
30歳代	1,816	856	14.8	47.1
40歳代	1,731	952	16.4	55.0
50歳代	1,537	951	16.4	61.9
60歳代	1,618	1,163	20.0	71.9
70歳代	1,156	840	14.5	72.7
80歳以上	716	371	6.4	51.8
無回答	-	82	1.4	-

#### ③未既婚別

内訳 区分	内訳	有効回収数	
			構成比 (%)
市全体		5,801	100.0
未婚		1,098	18.9
既婚		4,260	73.4
その他		304	5.2
無回答		139	2.4

#### ④家族構成別

内訳 区分	内訳	有効回収数	
			構成比 (%)
市全体		5,801	100.0
単身（一人暮らし）		547	9.4
夫婦のみ		1,471	25.4
親と子（2世代）		2,756	47.5
親と子と孫（3世代）		676	11.7
その他		254	4.4
無回答		97	1.7

#### ⑤65歳以上の家族の有無別

内訳 区分	内訳	有効回収数	
			構成比 (%)
市全体		5,801	100.0
いる		2,296	39.6
いない		3,398	58.6
無回答		107	1.8

⑥職業別

区分	内訳	有効回収数	
			構成比 (%)
市全体		5,801	100.0
	農林漁業	135	2.3
	商工サービス業	243	4.2
	自由業	68	1.2
	農林漁業の家族従事者	4	0.1
	商工サービス業、自由業の家族従事者	56	1.0
	管理職	292	5.0
	専門技能職	415	7.2
	事務職	539	9.3
	教育職	145	2.5
	販売サービス職	581	10.0
	労務職	336	5.8
	保安職	48	0.8
	専業主婦	1,029	17.7
	学生	161	2.8
	無職	1,260	21.7
	その他	347	6.0
	無回答	142	2.4

⑦居住年数別

区分	内訳	有効回収数	
			構成比 (%)
市全体		5,801	100.0
	3年未満	285	4.9
	3～5年未満	163	2.8
	5～10年未満	393	6.8
	10～20年未満	662	11.4
	20～30年未満	943	16.3
	30年以上	3,262	56.2
	無回答	93	1.6

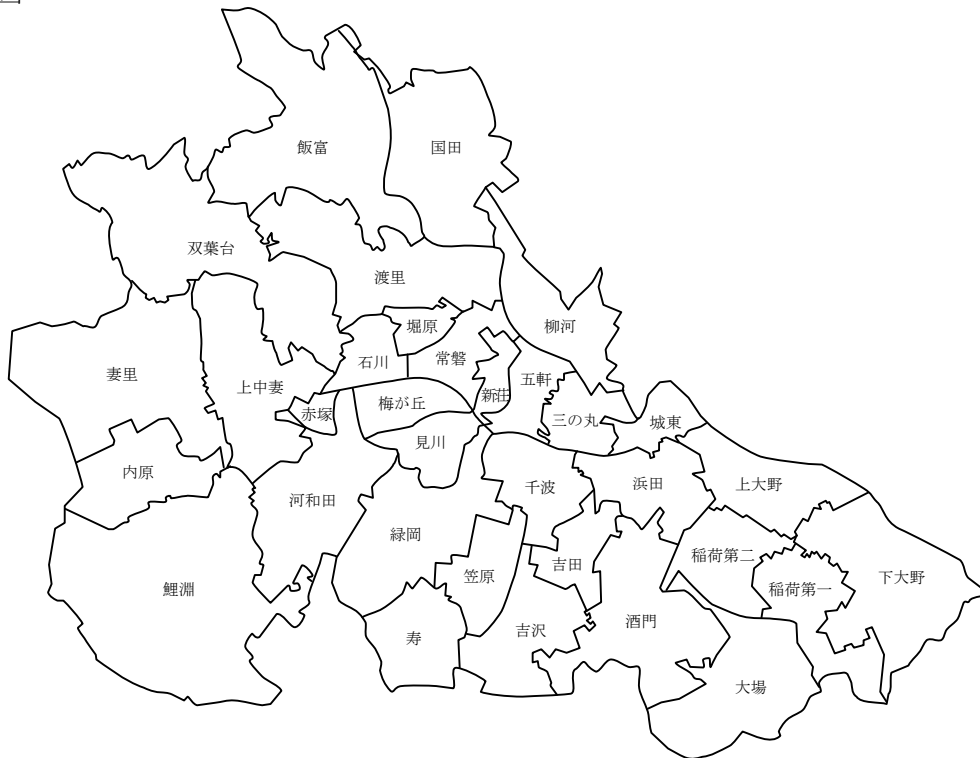
⑧住居形態別

区分	内訳	有効回収数	
			構成比 (%)
市全体		5,801	100.0
	持ち家（一戸建）	4,064	70.1
	持ち家（マンションなどの集合住宅）	263	4.5
	民間の借家、アパート、賃貸マンション	914	15.8
	市営住宅、県営住宅、公団住宅	276	4.8
	社宅、寮、官舎	120	2.1
	下宿、間借り、住込み	15	0.3
	その他	56	1.0
	無回答	93	1.6

⑨地区（小学校区）別

区分	内訳	標本数 (A)	有効回収数 (B)		回収率 (%) (B) / (A)
				構成比 (%)	
市全体		10,145	5,801	100.0	57.2
	三の丸	337	208	3.6	61.7
	五軒	262	141	2.4	53.8
	新荘	269	166	2.9	61.7
	城東	336	187	3.2	55.7
	浜田	499	263	4.5	52.7
	常磐	437	238	4.1	54.5
	緑岡	546	258	4.4	47.3
	寿	320	170	2.9	53.1
	上大野	82	52	0.9	63.4
	柳河	146	78	1.3	53.4
	渡里	496	260	4.5	52.4
	吉田	495	304	5.2	61.4
	酒門	397	231	4.0	58.2
	石川	446	218	3.8	48.9
	飯富	133	77	1.3	57.9
	国田	127	66	1.1	52.0
	河和田	298	197	3.4	66.1
	上中妻	230	121	2.1	52.6
	見川	359	236	4.1	65.7
	千波	676	440	7.6	65.1
	梅が丘	592	309	5.3	52.2
	双葉台	412	242	4.2	58.7
	笠原	332	191	3.3	57.5
	赤塚	207	108	1.9	52.2
	吉沢	349	178	3.1	51.0
	堀原	256	146	2.5	57.0
	下大野	108	67	1.2	62.0
	稲荷第一	192	96	1.7	50.0
	稲荷第二	120	79	1.4	65.8
	大場	83	40	0.7	48.2
	妻里	199	86	1.5	43.2
	鯉淵	199	99	1.7	49.7
	内原	205	131	2.3	63.9
	無回答	-	118	2.0	-

## 水戸市管内図



## 5 集計に当たって

- (1) 「N」(Number of Cases の略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 質問の種類を示す記号として「M. A.」(Multiple Answer の略) として記入してあるのは、1回答者が2つ以上の回答をすることができる質問である。このときの回答の計は、回答者数(100%)を超える。
- (3) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入している。そのため、百分比の合計が100%を前後する場合がある。
- (4) 表中、「/」は、2つ以上の回答が同率であることを示している。
- (5) 図表及び文章中、選択肢を一部省略している。

※各質問の回答選択肢の数値の単位は%とする。なお、無回答比率は「N. A.」(Not Applicable の略)として表示した。

## II 調査結果の分析



# 1 住みごころ

## 1-1 水戸市の印象

約5割の人が「全体として住みやすい」

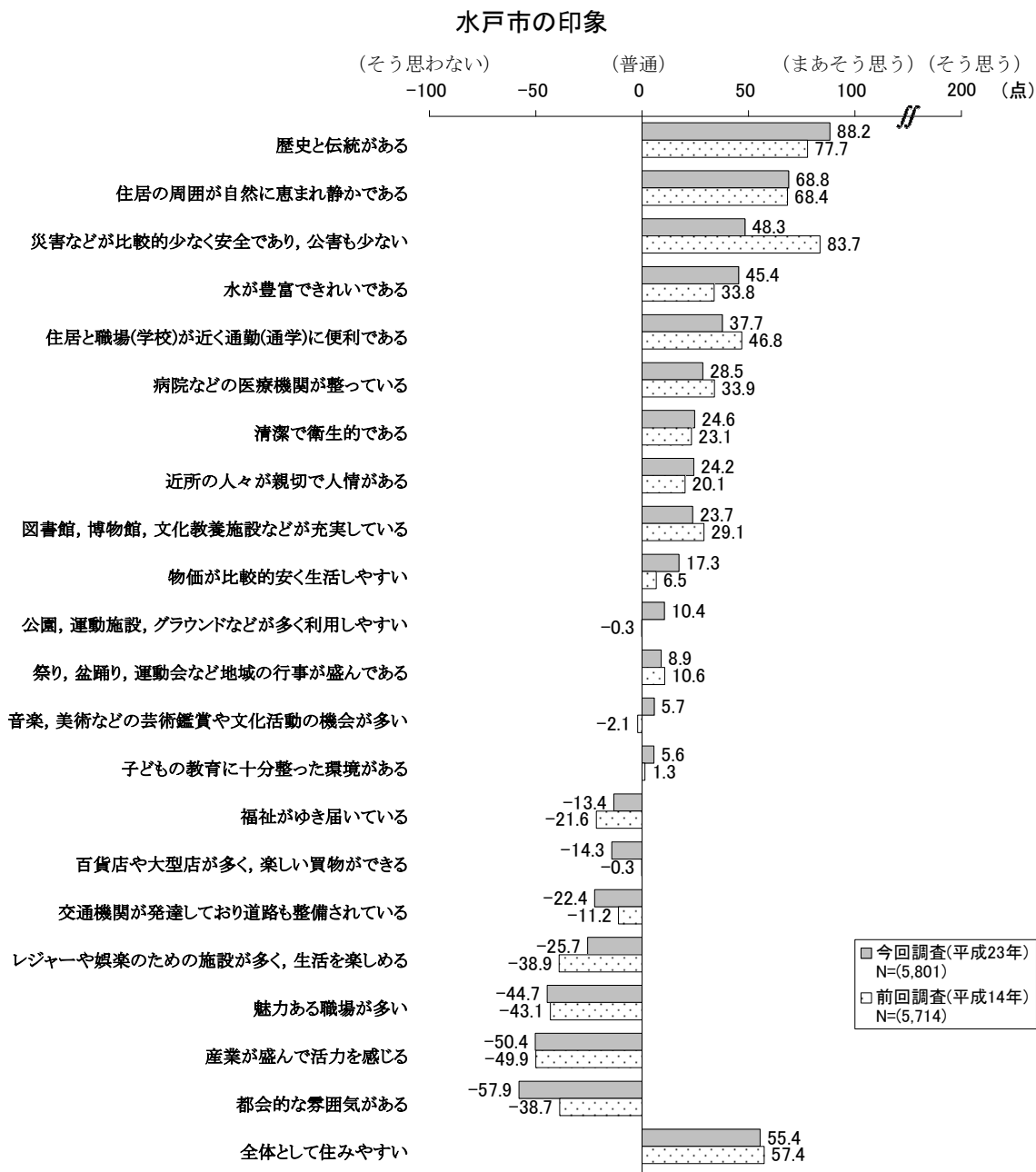
問1 あなたは、水戸市をどのように感じていますか。各項目について、「1 そう思う」「2 まあそう思う」「3 普通」「4 そう思わない」「5 わからない」の中から1つずつ選んで、番号に○をつけてください。(N=5,801)

(単位：%)

	1 そう 思う	2 まあ そう 思う	3 普 通	4 そ う 思 わ な い	5 わ か ら な い	N. A.
(1) 住居の周囲が自然に恵まれ静かである	25.1	29.9	29.8	11.4	0.2	3.5
(2) 水が豊富できれいである	16.3	26.4	39.5	13.7	1.1	3.1
(3) レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる	3.3	11.4	37.5	43.6	1.4	2.9
(4) 百貨店や大型店が多く、楽しい買物ができる	5.3	15.6	35.7	40.4	0.6	2.3
(5) 都会的な雰囲気がある	1.1	5.1	24.5	65.1	1.4	2.8
(6) 交通機関が発達しており道路も整備されている	3.8	12.3	38.5	42.3	0.6	2.5
(7) 災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない	14.3	33.9	33.9	14.2	1.4	2.4
(8) 清潔で衛生的である	5.8	23.7	56.0	10.6	1.3	2.7
(9) 福祉がゆき届いている	2.4	9.1	48.2	27.3	10.3	2.6
(10) 病院などの医療機関が整っている	8.8	26.2	45.5	15.3	1.9	2.2
(11) 子どもの教育に十分整った環境がある	3.6	16.6	49.8	18.2	9.0	2.8
(12) 音楽、美術などの芸術鑑賞や文化活動の機会が多い	5.2	19.1	42.4	23.8	6.7	2.8
(13) 図書館、博物館、文化教養施設などが充実している	8.2	23.7	45.4	16.3	3.8	2.6
(14) 歴史と伝統がある	26.0	40.3	24.4	4.2	2.5	2.6
(15) 公園、運動施設、グラウンドなどが多く利用しやすい	6.8	19.6	44.2	22.7	4.3	2.5
(16) 住居と職場(学校)が近く通勤(通学)に便利である	13.7	25.6	38.5	15.4	3.3	3.5
(17) 物価が比較的安く生活しやすい	5.9	21.5	52.0	16.1	2.0	2.6
(18) 産業が盛んで活力を感じる	0.7	3.7	32.1	55.5	5.3	2.7
(19) 魅力ある職場が多い	0.4	2.6	33.4	48.1	12.4	3.2
(20) 祭り、盆踊り、運動会など地域の行事が盛んである	5.6	15.9	53.4	18.3	4.4	2.3
(21) 近所の人々が親切で人情がある	7.7	22.6	50.6	13.8	3.0	2.3
(22) 全体として住みやすい	12.8	35.8	42.7	5.9	0.7	2.1

水戸市の居住環境について、22項目にわたり市民に評価してもらった。その結果を点数化すると次のとおりである。

$$\blacksquare \text{ 評価点} = \frac{\begin{matrix} \text{「そう思う」} \times 2 \text{ 点} & + & \text{「まあそう思う」} \times 1 \text{ 点} \\ + & \text{「普通」} \times 0 \text{ 点} & + & \text{「そう思わない」} \times (-1 \text{ 点}) \end{matrix}}{\text{回 答 数}} \times 100$$





市民から高く評価されている生活分野は、「歴史と伝統がある」88.2点、「住居の周囲が自然に恵まれ静かである」68.8点、「災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない」48.3点、「水が豊富できれいである」45.4点などで、全22項目の半分以上の15項目でプラス評価となっている。

一方、逆に市民から低い評価を受けた分野は、「都会的な雰囲気がある」-57.9点、「産業が盛んで活力を感じる」-50.4点、「魅力ある職場が多い」-44.7点などとなっている。

総合的にみた「全体として住みやすい」かどうかという問に対しては、55.4点と高く評価されている。こうしたことから、歴史と伝統があり、自然にも恵まれ、比較的安全で、利便性も高い住みやすいまちと評価されている一方、都会的な雰囲気に乏しく、産業の活力や魅力的な職場には乏しいと考えられていることがわかる。

### 前回との比較 水戸市の印象（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 （平成23年）  （N=5,801）		歴史と伝統がある  (88.2)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである  (68.8)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない  (48.3)	水が豊富できれいである  (45.4)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である  (37.7)
前回調査 （平成14年）  （N=5,714）		災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない  (83.7)	歴史と伝統がある  (77.7)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである  (68.4)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である  (46.8)	病院などの医療機関が整っている  (33.9)

### 前回との比較 水戸市の印象（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 （平成23年）  （N=5,801）		都会的な雰囲気がある  (-57.9)	産業が盛んで活力を感じる  (-50.4)	魅力ある職場が多い  (-44.7)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる  (-25.7)	交通機関が発達しており道路も整備されている  (-22.4)
前回調査 （平成14年）  （N=5,714）		産業が盛んで活力を感じる  (-49.9)	魅力ある職場が多い  (-43.1)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる  (-38.9)	都会的な雰囲気がある  (-38.7)	福祉がゆき届いている  (-21.6)

前回の調査と比較すると、評価の高いものの中で、前回83.7点で第1位を占めていた「災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない」が、今回48.3点と大きく評価が下がっているのが特徴的である。また、「歴史と伝統がある」、「住居の周囲が自然に恵まれ静かである」、「住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である」については、前回同様に上位を占めている。

一方、評価の低いものとしては、前回-38.7点で第4位となっていた「都会的な雰囲気がある」が、今回-57.9点と大きく評価を下げて、最も低い評価となっているほか、「魅力ある職場が多い」の評価も低下している。

性別 水戸市の印象（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		歴史と伝統がある (89.8)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (69.9)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (52.2)	水が豊富できれいである (46.3)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (36.9)
女性		歴史と伝統がある (87.7)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (68.8)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (45.5)	水が豊富できれいである (44.6)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (38.6)

性別 水戸市の印象（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		都会的な雰囲気がある (-56.8)	産業が盛んで活力を感じる (-52.8)	魅力ある職場が多い (-46.2)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-27.5)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-22.2)
女性		都会的な雰囲気がある (-59.0)	産業が盛んで活力を感じる (-48.7)	魅力ある職場が多い (-43.9)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-24.4)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-22.9)

性別で見ると、評価の高いものについては、男女とも「歴史と伝統がある」が最も高く、次いで、「住居の周囲が自然に恵まれ静かである」、「災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない」、「水が豊富できれいである」、「住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である」の順となっており、上位項目の順位は男女同様となっている。

一方、評価の低いものについては、「都会的な雰囲気がある」が最も低く、次いで、「産業が盛んで活力を感じる」、「魅力ある職場が多い」、「レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる」、「交通機関が発達しており道路も整備されている」の順となっており、男女の評価はほぼ一致している。

### 年齢別 水戸市の印象（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満	(N=90)	歴史と伝統がある (101.1)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (52.2)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (51.1)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (46.7)	病院などの医療機関が整っている (41.1)
20～29歳	(N=496)	歴史と伝統がある (85.5)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (51.8)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (41.7)	病院などの医療機関が整っている (29.2)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (28.0)
30～39歳	(N=856)	歴史と伝統がある (85.2)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (62.5)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (47.2)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (30.7)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (29.9)
40～49歳	(N=952)	歴史と伝統がある (96.0)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (69.1)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (48.5)	水が豊富できれいである (42.0)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (39.7)
50～59歳	(N=951)	歴史と伝統がある (90.3)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (79.3)	水が豊富できれいである (52.6)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (46.2)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (35.9)
60～69歳	(N=1,163)	歴史と伝統がある (86.1)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (70.8)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (63.8)	水が豊富できれいである (50.6)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (32.7)
70歳以上	(N=1,211)	歴史と伝統がある (86.5)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (73.0)	水が豊富できれいである (64.2)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (64.0)	病院などの医療機関が整っている (39.3)

### 年齢別 水戸市の印象（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満	(N=90)	都会的な雰囲気がある (-61.1)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-38.9)	魅力ある職場が多い (-34.4)	産業が盛んで活力を感じる (-31.1)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-7.8)
20～29歳	(N=496)	都会的な雰囲気がある (-65.9)	魅力ある職場が多い (-44.8)	産業が盛んで活力を感じる (-41.1)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-32.3)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-27.0)
30～39歳	(N=856)	都会的な雰囲気がある (-65.4)	産業が盛んで活力を感じる (-47.1)	魅力ある職場が多い (-44.5)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-33.6)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-29.9)
40～49歳	(N=952)	都会的な雰囲気がある (-65.0)	産業が盛んで活力を感じる (-50.9)	魅力ある職場が多い (-45.4)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-36.7)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-25.1)
50～59歳	(N=951)	都会的な雰囲気がある (-63.7)	産業が盛んで活力を感じる (-59.4)	魅力ある職場が多い (-51.0)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-34.0)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-26.0)
60～69歳	(N=1,163)	都会的な雰囲気がある (-58.2)	産業が盛んで活力を感じる (-54.9)	魅力ある職場が多い (-46.8)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-23.6)	百貨店や大型店が多く、楽しい買物ができる (-20.2)
70歳以上	(N=1,211)	産業が盛んで活力を感じる (-46.3)	都会的な雰囲気がある (-39.1)	魅力ある職場が多い (-39.0)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-21.7)	百貨店や大型店が多く、楽しい買物ができる (-7.4)

年齢別で見ると、評価の高いものとしては、すべての年齢層を通じて、「歴史と伝統がある」が第1位となっている。また、「住居の周囲が自然に恵まれ静かである」が第2位を占めている。

一方、評価の低いものとしては、70歳以上を除く各年齢層で、「都会的な雰囲気がある」が最も低くなっているほか、「産業が盛んで活力を感じる」、「魅力ある職場が多い」の評価が各年齢層共通して低くなっている。

### 居住年数別 水戸市の印象（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
3年未満 (N=285)		歴史と伝統がある (97.2)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (58.2)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (50.9)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (40.0)	音楽、美術などの芸術鑑賞や文化活動の機会が多い (35.8)
3～5年未満 (N=163)		歴史と伝統がある (83.4)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (66.3)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (39.3)	病院などの医療機関が整っている (33.7)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (31.3)
5～10年未満 (N=393)		歴史と伝統がある (89.6)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (73.0)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (45.5)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (35.1)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (33.3)
10～20年未満 (N=662)		歴史と伝統がある (91.7)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (59.4)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (43.1)	図書館、博物館、文化教養施設などが充実している (34.4)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (32.6)
20～30年未満 (N=943)		歴史と伝統がある (87.6)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (69.5)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (43.2)	水が豊富できれいである (39.1)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (34.9)
30年以上 (N=3,262)		歴史と伝統がある (87.6)	住居の周囲が自然に恵まれ静かである (72.0)	災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない (58.7)	水が豊富できれいである (54.9)	住居と職場（学校）が近く通勤（通学）に便利である (35.6)

居住年数別 水戸市の印象（評価の低いもの）

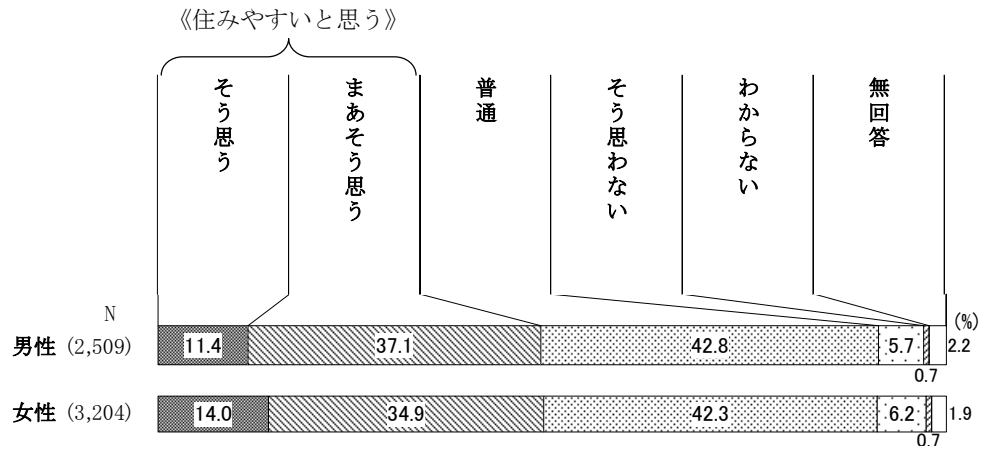
（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
3年未満 (N=285)		都会的な雰囲気がある (-48.1)	産業が盛んで活力を感じる (-34.0)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-29.5)	魅力ある職場が多い (-28.4)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-7.4)
3～5年未満 (N=163)		都会的な雰囲気がある (-55.8)	産業が盛んで活力を感じる (-46.0)	魅力ある職場が多い (-35.6)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-27.6)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-17.8)
5～10年未満 (N=393)		都会的な雰囲気がある (-62.3)	産業が盛んで活力を感じる (-40.7)	魅力ある職場が多い (-40.5)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-33.8)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-24.2)
10～20年未満 (N=662)		都会的な雰囲気がある (-58.6)	産業が盛んで活力を感じる (-48.8)	魅力ある職場が多い (-42.3)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-29.0)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-24.2)
20～30年未満 (N=943)		都会的な雰囲気がある (-65.7)	産業が盛んで活力を感じる (-52.4)	魅力ある職場が多い (-48.7)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-29.2)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-27.5)
30年以上 (N=3,262)		都会的な雰囲気がある (-56.2)	産業が盛んで活力を感じる (-53.1)	魅力ある職場が多い (-46.7)	レジャーや娯楽のための施設が多く、生活を楽しめる (-28.0)	交通機関が発達しており道路も整備されている (-17.3)

居住年数別で評価の高いものをみると、居住年数にかかわらず、「歴史と伝統がある」が最も高く、次いで、「住居の周囲が自然に恵まれ静かである」となっているが、「災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない」については、20年～30年未満、30年以上では比較的評価が高いのに対して、3年未満から3年～5年未満では低くなっており、居住年数によって評価が分かれている。

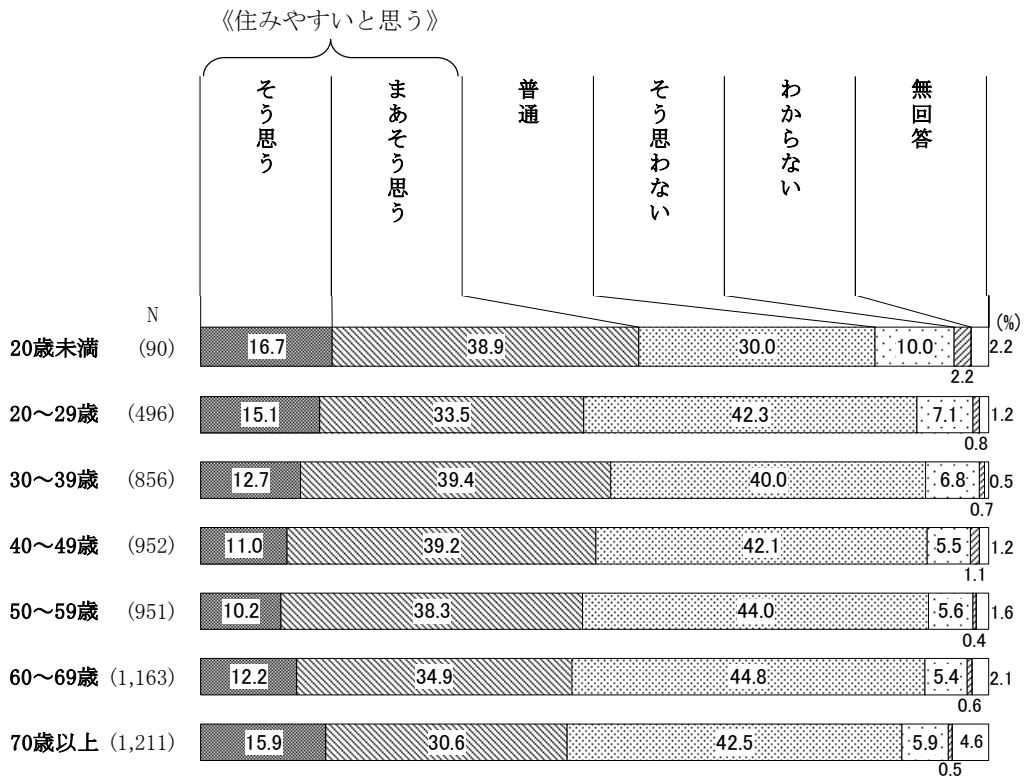
一方、評価が低いものとしては、居住年数にかかわらず、「都会的な雰囲気がある」が最も低くなっているほか、「産業が盛んで活力を感じる」、「魅力ある職場が多い」の評価が低くなっている。

### 性別 全体としての住みやすさ



全体としての住みやすさの評価を性別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた《住みやすいと思う》は男性48.5%、女性48.9%となっている。

### 年齢別 全体としての住みやすさ

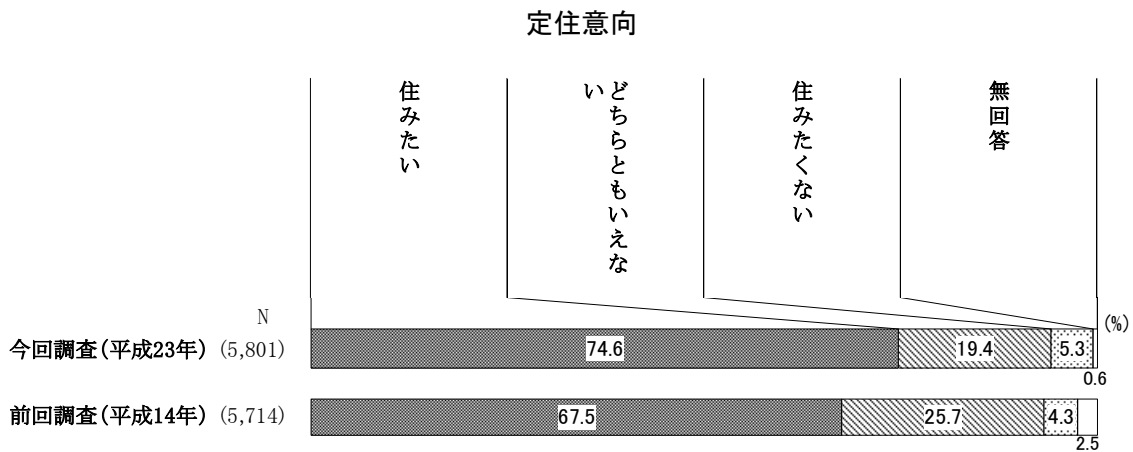


年齢別でみると、《住みやすいと思う》との評価は、すべての年齢層で、4割台半ばから5割台半ばとなっており、大きな差はみられない。

## 1-2 定住意向

### 「住みたい」が大きく増加

問2 あなたは、今後とも水戸市に住みたいと思いますか。(○は1つだけ) (N=5,801)  
 (単位：%)  
 1 住みたい 74.6 2 どちらともいえない 19.4 3 住みたくない 5.3 無回答 0.6



今後とも水戸市に住みたいかどうかたずねたところ、「住みたい」が最も多く74.6%、次いで「どちらともいえない」19.4%、「住みたくない」5.3%となっている。「住みたい」と答えた人が全体の7割を超えているのに対して、「住みたくない」と答えた人は5%強と極めて低比率にとどまっている。

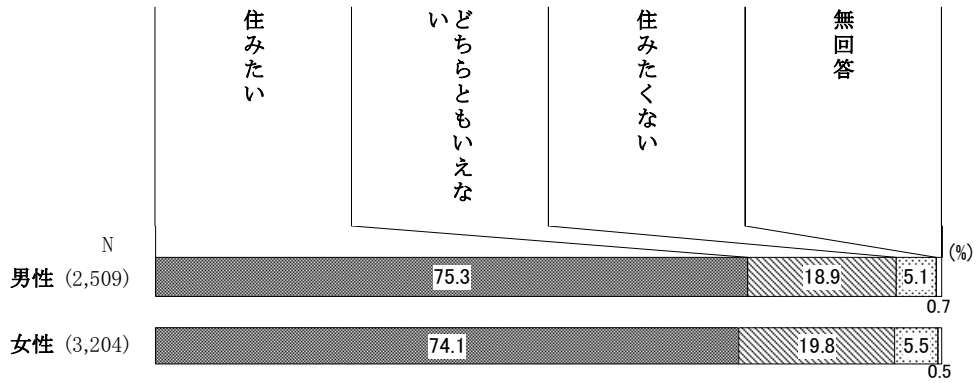
### 前回との比較 定住意向

(単位：%)

調査年度	住みたい	どちらともいえない	住みたくない	無回答
今回調査(平成23年) (N=5,801)	(74.6)	(19.4)	(5.3)	(0.6)
前回調査(平成14年) (N=5,714)	(67.5)	(25.7)	(4.3)	(2.5)

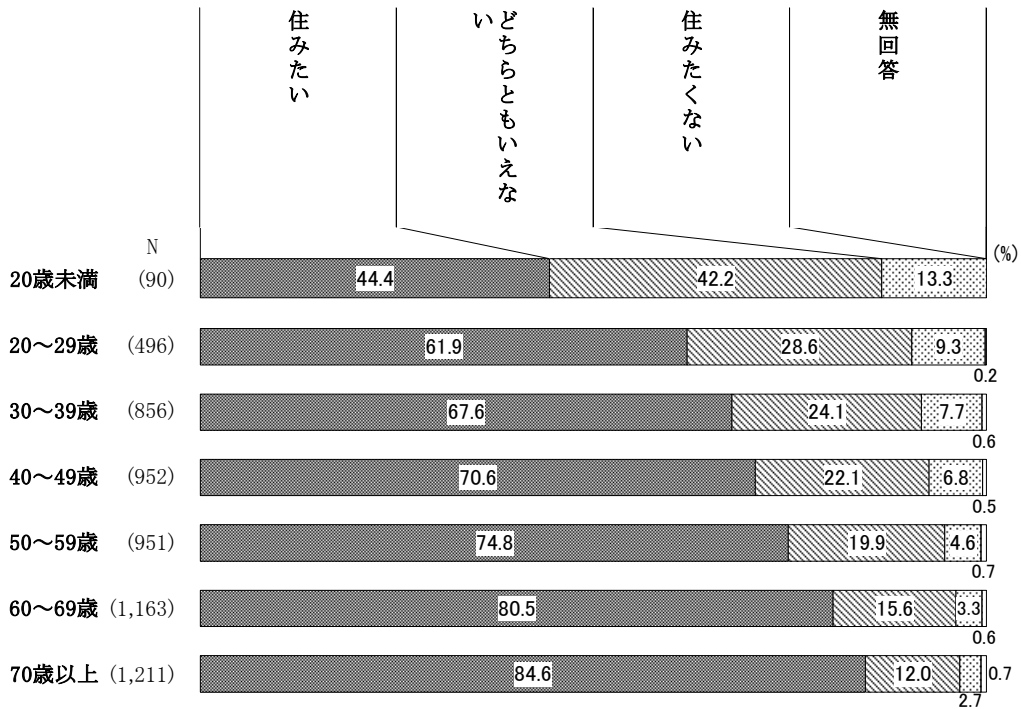
今回と前回を比較すると、「住みたい」と答えた人が増加している。

### 性別 定住意向



性別で見ると、「住みたい」は男性75.3%、女性74.1%となっており、性別による大きな差はみられない。

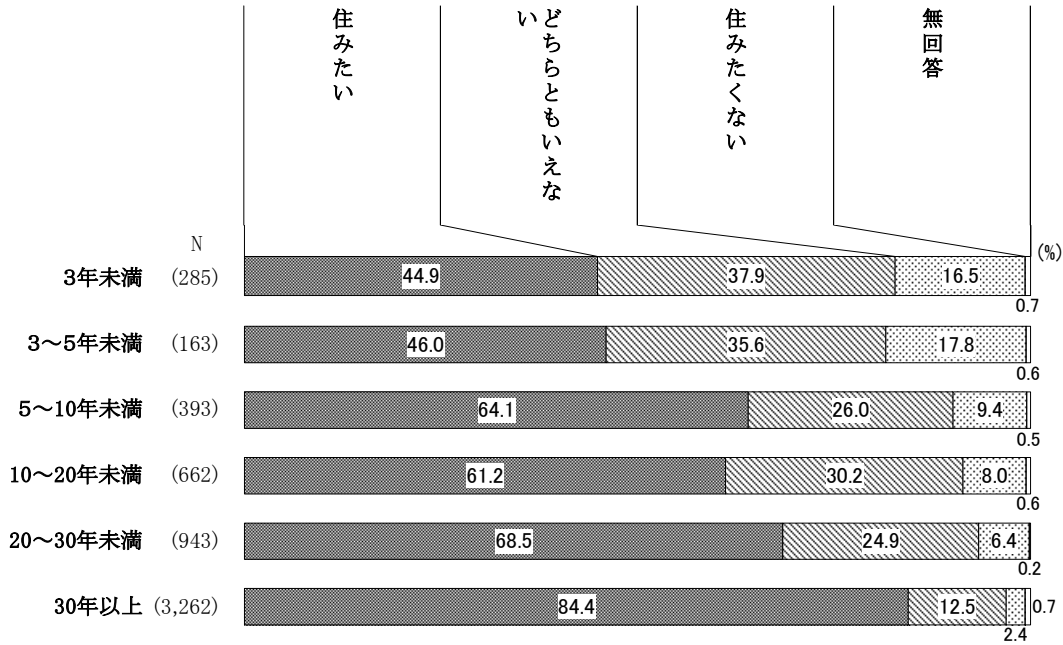
### 年齢別 定住意向



年齢別で見ると、「住みたい」と答えた人の割合は、年齢が高くなるにつれて増加し、若年層と高齢層で定住意向に差があることがわかる。また、「どちらともいえない」と答えた人は、20歳未満は4割を超えているが、60歳代以上では1割台と少なくなっている。

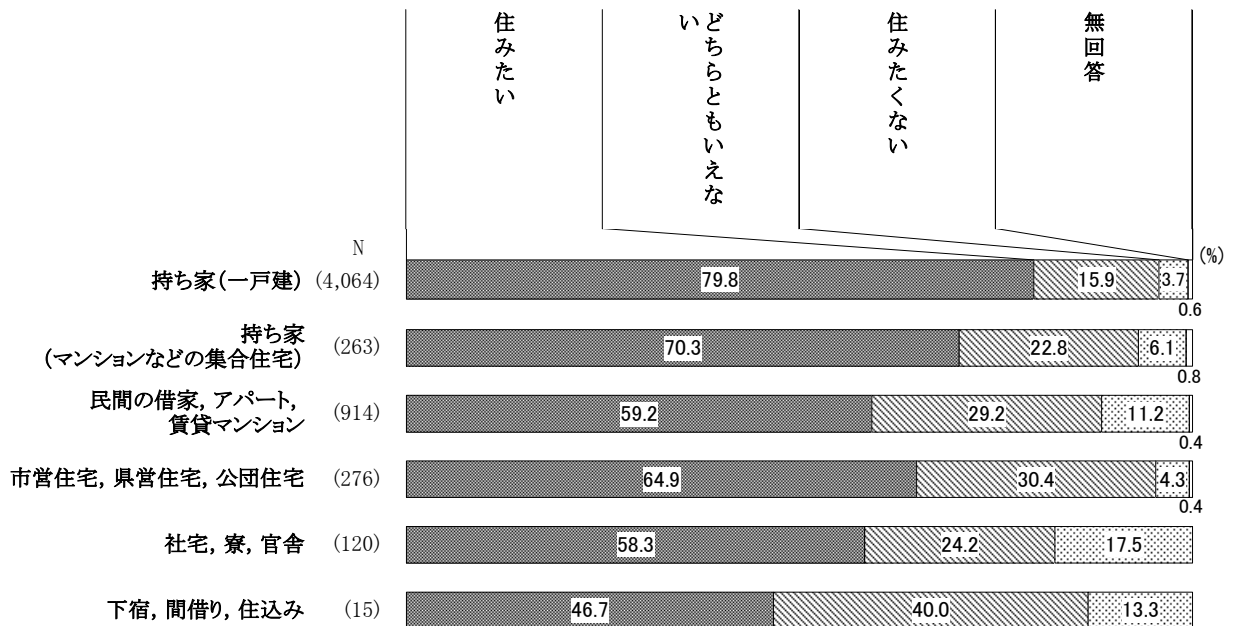


### 居住年数別 定住意向



居住年数別でみると、「住みたい」は3年未満で44.9%であるが、年数が長くなるにつれて増加し、20年～30年未満では68.5%、30年以上では84.4%となっており、居住年数が長くなるにつれて、定住意向が高くなる傾向が顕著にあらわれている。一方、居住年数の短い人ほど「住みたくない」と答えた人が多くなっており、「住みたくない」は3～5年未満では17.8%、3年未満では16.5%となっている。

### 住居形態別 定住意向



住居形態別でみると、持ち家（一戸建）では「住みたい」が79.8%と最も多くなっており、次いで持ち家（マンションなどの集合住宅）70.3%、市営住宅・県営住宅・公団住宅64.9%の順となっている。こうしたことから、持ち家の人の定住意向が高いことがわかる。

### 1-3 定住を希望する理由

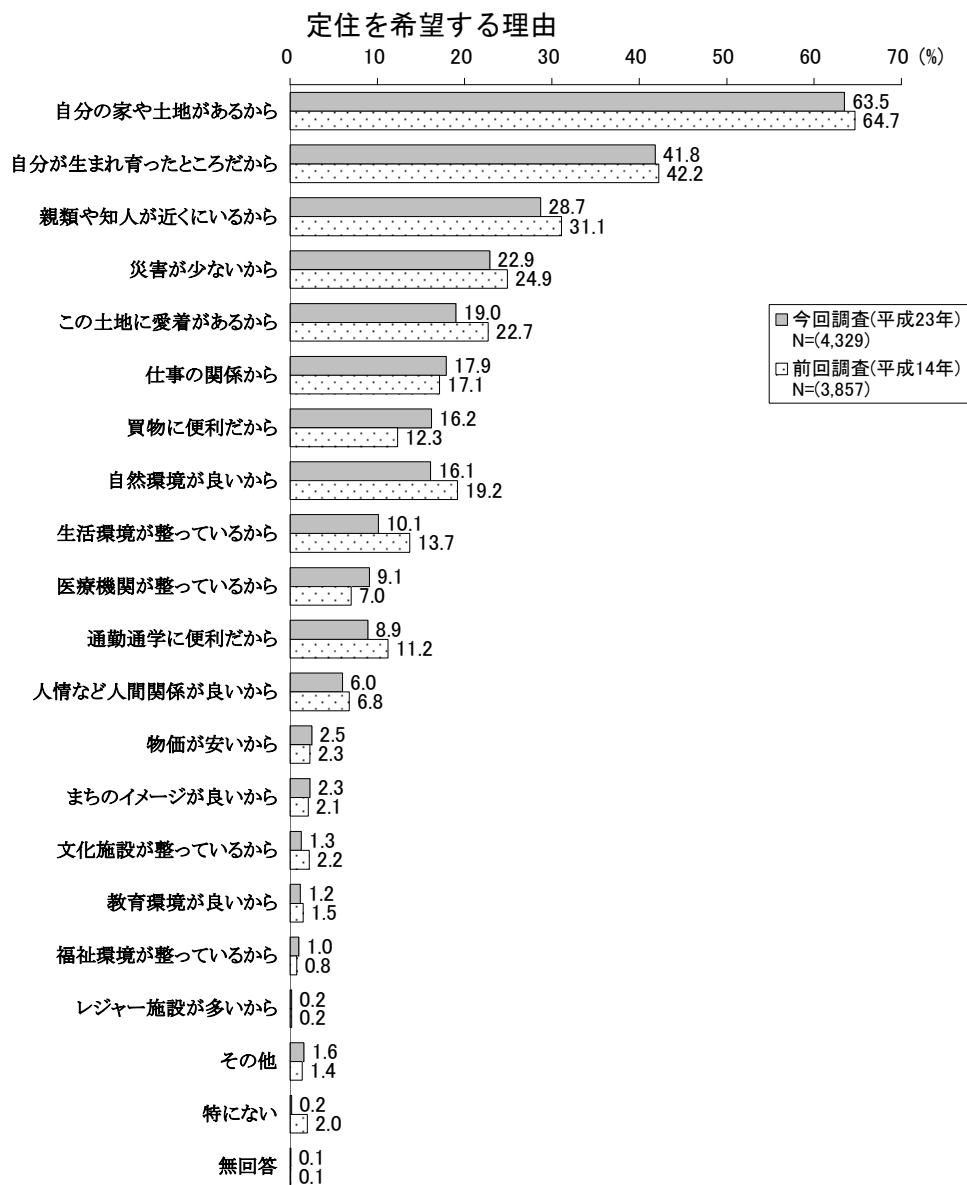
#### 定住を希望する主な理由は地縁・血縁

(問2で「1 住みたい」とお答えの方)

問2-1 住みたい理由は主にどのようなことですか。(〇は3つまで) (N=4,329) M.A.

(単位：%)

1	自分が生まれ育ったところだから	41.8	2	自分の家や土地があるから	63.5
3	親類や知人が近くにいるから	28.7	4	人情など人間関係が良いから	6.0
5	この土地に愛着があるから	19.0	6	自然環境が良いから	16.1
7	仕事の関係から	17.9	8	文化施設が整っているから	1.3
9	生活環境が整っているから	10.1	10	通勤通学に便利だから	8.9
11	買物に便利だから	16.2	12	災害が少ないから	22.9
13	物価が安いから	2.5	14	教育環境が良いから	1.2
15	医療機関が整っているから	9.1	16	福祉環境が整っているから	1.0
17	まちのイメージが良いから	2.3	18	レジャー施設が多いから	0.2
19	その他	1.6	20	特にない	0.2
	無回答	0.1			



定住を希望する理由をたずねたところ、「自分の家や土地があるから」が63.5%で最も多く、以下「自分が生まれ育ったところだから」41.8%、「親類や知人が近くにいるから」28.7%、「災害が少ないから」22.9%の順で続いている。定住要因としては、自然的要因が上位を占めている。

### 前回との比較 定住を希望する理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年) (N=4,329)		自分の家や土地があるから (63.5)	自分が生まれ育ったところだから (41.8)	親類や知人が近くにいるから (28.7)	災害が少ないから (22.9)	この土地に愛着があるから (19.0)
前回調査 (平成14年) (N=3,857)		自分の家や土地があるから (64.7)	自分が生まれ育ったところだから (42.2)	親類や知人が近くにいるから (31.1)	災害が少ないから (24.9)	この土地に愛着があるから (22.7)

今回と前回を比較すると、定住希望の理由の上位項目は、前回と同様である。

### 性別 定住を希望する理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,890)		自分の家や土地があるから (64.4)	自分が生まれ育ったところだから (46.8)	親類や知人が近くにいるから (25.1)	災害が少ないから (22.1)	仕事の関係から (21.4)
女性 (N=2,375)		自分の家や土地があるから (62.5)	自分が生まれ育ったところだから (38.2)	親類や知人が近くにいるから (31.7)	災害が少ないから (23.3)	買物に便利だから (18.7)

性別にみると、男性も女性も、「自分の家や土地があるから」、「自分が生まれ育ったところだから」、「親類や知人が近くにいるから」、「災害が少ないから」という理由が上位4位までを占めている。ただし、女性では「買物に便利だから」が第5位となっているのに対して、男性では「仕事の関係から」が第5位となっており、性別による違いが若干みられる。

## 年齢別 定住を希望する理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=40)		自分が生まれ育ったところだから (67.5)	自分の家や土地があるから／親類や知人が近くにいるから (45.0)	この土地に愛着があるから (30.0)	災害が少ないから (17.5)	
20～29歳 (N=307)		自分が生まれ育ったところだから (57.3)	親類や知人が近くにいるから (40.7)	自分の家や土地があるから (35.5)	この土地に愛着があるから (26.7)	仕事の関係から (23.1)
30～39歳 (N=579)		自分が生まれ育ったところだから／自分の家や土地があるから (46.5)	親類や知人が近くにいるから (37.1)	仕事の関係から (26.9)	この土地に愛着があるから (19.3)	
40～49歳 (N=672)		自分の家や土地があるから (56.7)	自分が生まれ育ったところだから (45.7)	親類や知人が近くにいるから (30.8)	仕事の関係から (28.9)	この土地に愛着があるから (19.8)
50～59歳 (N=711)		自分の家や土地があるから (69.8)	自分が生まれ育ったところだから (41.8)	親類や知人が近くにいるから (24.3)	仕事の関係から (23.5)	災害が少ないから (22.8)
60～69歳 (N=936)		自分の家や土地があるから (72.2)	自分が生まれ育ったところだから (36.3)	災害が少ないから (34.4)	親類や知人が近くにいるから (21.9)	自然環境が良いから (20.3)
70歳以上 (N=1,024)		自分の家や土地があるから (73.6)	自分が生まれ育ったところだから (36.9)	災害が少ないから (30.5)	親類や知人が近くにいるから (27.8)	自然環境が良いから (20.5)

年齢別で見ると、年齢にかかわらず、「自分の家や土地があるから」、「自分が生まれ育ったところだから」、「親類や知人が近くにいるから」が上位を占めているが、年齢が高くなるにつれて「自分の家や土地があるから」が増加し、逆に年齢が若くなるにつれて、「自分が生まれ育ったところだから」が多くなる傾向がある。また、60歳代、70歳以上では「災害が少ないから」が、それぞれ34.4%、30.5%を占め、第3位となっている。

## 1-4 定住を希望しない理由

「買物に不便だから」が前回から大きく増加

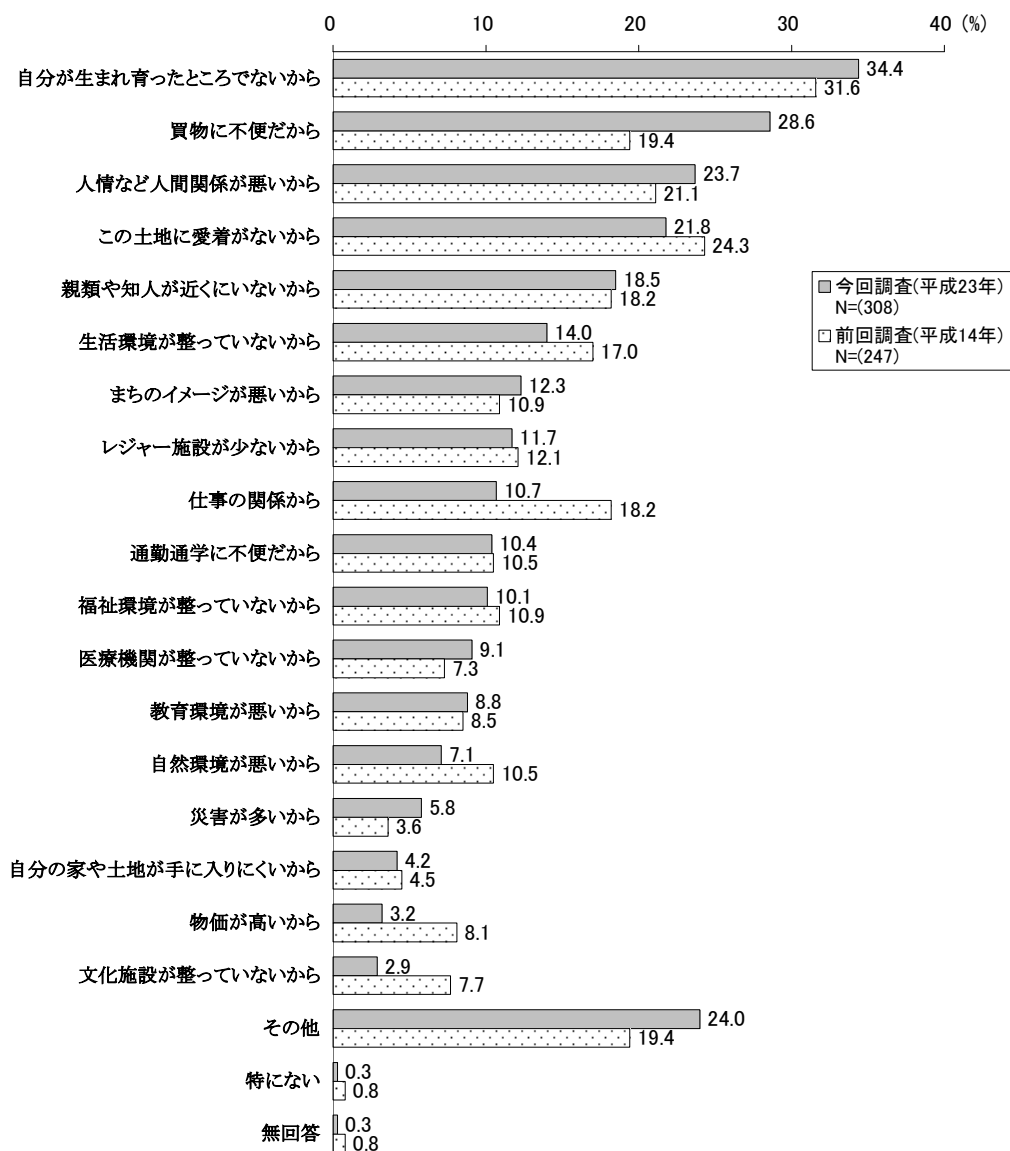
(問2で「3 住みたくない」とお答えの方)

問2-2 住みたくない理由は主にどのようなことですか。(○は3つまで) (N=308) M. A.

(単位：%)

1 自分が生まれ育ったところでないから	34.4	2 自分の家や土地が手に入りにくいから	4.2
3 親類や知人が近くにいないから	18.5	4 人情など人間関係が悪いから	23.7
5 この土地に愛着がないから	21.8	6 自然環境が悪いから	7.1
7 仕事の関係から	10.7	8 文化施設が整っていないから	2.9
9 生活環境が整っていないから	14.0	10 通勤通学に不便だから	10.4
11 買物に不便だから	28.6	12 災害が多いから	5.8
13 物価が高いから	3.2	14 教育環境が悪いから	8.8
15 医療機関が整っていないから	9.1	16 福祉環境が整っていないから	10.1
17 まちのイメージが悪いから	12.3	18 レジャー施設が少ないから	11.7
19 その他	24.0	20 特にない	0.3
無回答	0.3		

定住を希望しない理由



定住を希望しない理由をたずねたところ、「自分が生まれ育ったところでないから」が34.4%で最も多く、以下「買物に不便だから」28.6%、「人情など人間関係が悪いから」23.7%、「この土地に愛着がないから」21.8%、「親類や知人が近くにいないから」18.5%の順で続いている。定住を希望しない要因としては、個人の地縁や人間関係の要因が上位を占めている。

### 前回との比較 定住を希望しない理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年) (N=308)		自分が生まれ育ったところでないから (34.4)	買物に不便だから (28.6)	人情など人間関係が悪いから (23.7)	この土地に愛着がないから (21.8)	親類や知人が近くにいないから (18.5)
前回調査 (平成14年) (N=247)		自分が生まれ育ったところでないから (31.6)	この土地に愛着がないから (24.3)	人情など人間関係が悪いから (21.1)	買物に不便だから (19.4)	親類や知人が近くにいないから／仕事の関係から (18.2)

今回と前回は比較すると、今回も前回も「自分が生まれ育ったところでないから」が最も多くなっている。一方、前回第4位だった「買物に不便だから」が、今回は第2位となっているのが特徴的である。

### 性別 定住を希望しない理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=127)		買物に不便だから (27.6)	自分が生まれ育ったところでないから (26.0)	人情など人間関係が悪いから (20.5)	生活環境が整っていないから (15.7)	この土地に愛着がないから／通勤通学に不便だから／まちのイメージが悪いから (15.0)
女性 (N=177)		自分が生まれ育ったところでないから (40.7)	買物に不便だから (29.4)	この土地に愛着がないから (27.1)	人情など人間関係が悪いから (26.0)	親類や知人が近くにいないから (23.2)

性別で見ると、男性では「買物に不便だから」が最も多く、これに「自分が生まれ育ったところでないから」が次いでいるが、女性では「自分が生まれ育ったところでないから」が40.7%で第1位となっており、「買物に不便だから」は第2位となっている。また、女性では「この土地に愛着がないから」が第3位を占め、男性より多くなっているのが特徴的である。

### 年齢別 定住を希望しない理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=12)		仕事の関係から (33.3)	レジャー施設が少ないから (25.0)	自分が生まれ育ったところでないから／親類や知人が近くにい ないから (16.7)		
20～29歳 (N=46)		自分が生まれ育ったところでないから／買物に不便だから (39.1)	親類や知人が近くにい ないから (21.7)	仕事の関係から (17.4)		
30～39歳 (N=66)		自分が生まれ育ったところでないから (39.4)	この土地に愛着がないから (27.3)	買物に不便だから (24.2)	親類や知人が近くにい ないから (21.2)	人情など人間関係が悪いから／レジャー施設が少ないから (16.7)
40～49歳 (N=65)		自分が生まれ育ったところでないから (38.5)	買物に不便だから (27.7)	人情など人間関係が悪いから (21.5)	この土地に愛着がないから (20.0)	親類や知人が近くにい ないから (18.5)
50～59歳 (N=44)		自分が生まれ育ったところでないから (34.1)	人情など人間関係が悪いから (29.5)	買物に不便だから (25.0)	まちのイメージが悪いから (18.2)	
60～69歳 (N=38)		人情など人間関係が悪いから (39.5)	買物に不便だから (31.6)	自分が生まれ育ったところでないから (28.9)	この土地に愛着がないから (21.1)	親類や知人が近くにい ないから／医療機関が整っていないから／まちのイメージが悪いから (18.4)
70歳以上 (N=33)		人情など人間関係が悪いから (36.4)	生活環境が整っていないから／買物に不便だから (30.3)	自分が生まれ育ったところでないから (24.2)	自然環境が悪いから (21.2)	

年齢別で見ると、20歳代から50歳代では、いずれの年代でも「自分が生まれ育ったところでないから」が第1位となっているが、60歳代、70歳以上では「人情など人間関係が悪いから」が最も多くなっており、年齢による相違があらわれている。

## 2 これからのまちづくり

### 2-1 住まいへの意識

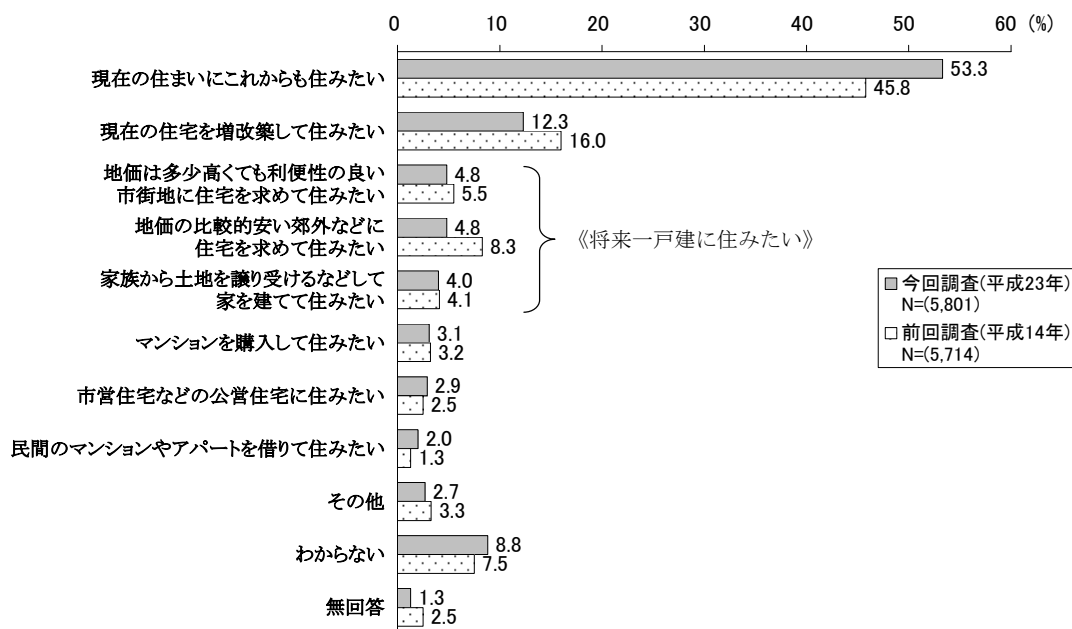
「現在の住まいにこれからも住みたい」が増加傾向

問3 住まいへの意識についてお伺いします。あなたは、ご自分の住まいを今後どのようにしたいと考えていますか。(〇は1つだけ) (N=5,801)

(単位：%)

1	現在の住まいにこれからも住みたい	53.3
2	現在の住宅を増改築して住みたい	12.3
3	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい	4.0
4	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい	4.8
5	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい	4.8
6	マンションを購入して住みたい	3.1
7	民間のマンションやアパートを借りて住みたい	2.0
8	市営住宅などの公営住宅に住みたい	2.9
9	その他	2.7
10	わからない	8.8
	無回答	1.3

住まいへの意識



住まいに対する意識についてたずねたところ、「現在の住まいにこれからも住みたい」が53.3%と最も多く、これに「現在の住宅を増改築して住みたい」が12.3%で次いでいる。これらを合わせた現在の住まいに対する定住意向は65.6%と高くなっている。また、《将来一戸建に住みたい》等の一戸建持ち家志向は13.6%となっている。

一方、民間や公営の賃貸住宅を希望している人は極めて少なくなっている。



### 前回との比較 住まいへの意識

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年)		現在の住まいにこれからも住みたい (53.3)	現在の住宅を増改築して住みたい (12.3)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい／地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (4.8)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (4.8)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (4.0)
前回調査 (平成14年)		現在の住まいにこれからも住みたい (45.8)	現在の住宅を増改築して住みたい (16.0)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (8.3)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (5.5)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (4.1)

今回と前回の調査を比較すると、いずれの調査でも「現在の住まいにこれからも住みたい」が最も多く、次いで「現在の住宅を増改築して住みたい」となっており、現在の住まいに対する定住意向の高さに変化はない。ただ前回の調査と比べて今回の調査では「現在の住まいにこれからも住みたい」が約8%増えているのに対して、「現在の住宅を増改築して住みたい」は約4%減少している。

### 性別 住まいへの意識

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		現在の住まいにこれからも住みたい (55.8)	現在の住宅を増改築して住みたい (12.2)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (5.1)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (4.3)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (4.2)
女性		現在の住まいにこれからも住みたい (51.0)	現在の住宅を増改築して住みたい (12.5)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (5.2)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (4.7)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (3.9)

性別で見ると、住まいへの意識については、性別による順位、比率の差はほとんどなく、男女とも「現在の住まいにこれからも住みたい」が最も多く、次いで「現在の住宅を増改築して住みたい」となっている。

## 年齢別 住まいへの意識

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		現在の住まいにこれからも住みたい (36.7)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (10.0)	現在の住宅を増改築して住みたい (6.7)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい／民間のマンションやアパートを借りて住みたい (5.6)	
20～29歳 (N=496)		現在の住まいにこれからも住みたい (27.4)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (12.5)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (9.1)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (8.5)	現在の住宅を増改築して住みたい／民間のマンションやアパートを借りて住みたい (7.9)
30～39歳 (N=856)		現在の住まいにこれからも住みたい (39.4)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (9.8)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (9.6)	現在の住宅を増改築して住みたい／地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (8.2)	
40～49歳 (N=952)		現在の住まいにこれからも住みたい (46.3)	現在の住宅を増改築して住みたい (13.8)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (5.8)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (5.6)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (4.8)
50～59歳 (N=951)		現在の住まいにこれからも住みたい (50.9)	現在の住宅を増改築して住みたい (18.9)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (4.5)	マンションを購入して住みたい (4.4)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (3.2)
60～69歳 (N=1,163)		現在の住まいにこれからも住みたい (64.6)	現在の住宅を増改築して住みたい (13.1)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (3.2)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (3.0)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (2.5)
70歳以上 (N=1,211)		現在の住まいにこれからも住みたい (70.9)	現在の住宅を増改築して住みたい (10.8)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (4.1)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (2.6)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (1.7)

年齢別で見ると、いずれの年代においても、「現在の住まいにこれからも住みたい」が第1位となっている。また、50歳代では「現在の住宅を増改築して住みたい」が18.9%と多くなっているほか、20歳未満から30歳代では、いずれの年代でも「地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい」「地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい」が多くなっている。

## 家族構成別 住まいへの意識

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
単身(一人暮らし) (N=547)		現在の住まいにこれからも住みたい (48.3)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (7.3)	マンションを購入して住みたい (6.4)	現在の住宅を増改築して住みたい (5.1)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (4.0)
夫婦のみ (N=1,471)		現在の住まいにこれからも住みたい (60.8)	現在の住宅を増改築して住みたい (11.4)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (4.5)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (4.0)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (2.9)
親と子(2世代) (N=2,756)		現在の住まいにこれからも住みたい (50.0)	現在の住宅を増改築して住みたい (12.6)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (5.9)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (5.8)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (5.6)
親と子と孫(3世代) (N=676)		現在の住まいにこれからも住みたい (58.6)	現在の住宅を増改築して住みたい (19.2)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (3.1)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (2.5)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (2.4)
その他 (N=254)		現在の住まいにこれからも住みたい (40.9)	現在の住宅を増改築して住みたい (13.0)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (5.5)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (4.7)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (4.3)

家族構成別でみると、すべての世帯で、「現在の住まいにこれからも住みたい」が最も多くなっており、現在の住まいに対する愛着の強さがうかがわれる。しかし、単身(一人暮らし)を除く世帯では「現在の住宅を増改築して住みたい」が1割を超えており、現在の住まいの広さや状態に対して満足していない人がいることがわかる。

## 居住年数別 住まいへの意識

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
3年未満 (N=285)	順位	現在の住まいにこれからも住みたい (28.1)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい／地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (10.2)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (7.7)	民間のマンションやアパートを借りて住みたい (5.6)	
3～5年未満 (N=163)	順位	現在の住まいにこれからも住みたい (36.8)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (12.3)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (9.2)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (7.4)	現在の住宅を増改築して住みたい／マンションを購入して住みたい／民間のマンションやアパートを借りて住みたい (4.3)
5～10年未満 (N=393)	順位	現在の住まいにこれからも住みたい (45.3)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (9.2)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (7.9)	現在の住宅を増改築して住みたい (6.6)	マンションを購入して住みたい (4.8)
10～20年未満 (N=662)	順位	現在の住まいにこれからも住みたい (44.7)	現在の住宅を増改築して住みたい (9.8)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (6.6)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (5.6)	マンションを購入して住みたい (4.5)
20～30年未満 (N=943)	順位	現在の住まいにこれからも住みたい (41.7)	現在の住宅を増改築して住みたい (12.3)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (7.2)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (6.0)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (5.7)
30年以上 (N=3,262)	順位	現在の住まいにこれからも住みたい (62.1)	現在の住宅を増改築して住みたい (14.8)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (3.2)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (2.9)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (2.6)

居住年数別でみると、居住年数にかかわらず、「現在の住まいにこれからも住みたい」が第1位となっている。また、居住年数が長くなるにつれて、「現在の住まいにこれからも住みたい」、「現在の住宅を増改築して住みたい」が増加する傾向があり、居住年数と現在の住まいに対する定住意向との間には顕著な相関関係があることがわかる。これに対して、居住年数が10年未満の人では、「地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい」「地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい」が多くなっており、新たな住まいに対する要望が高いことがわかる。

## 住居形態別 住まいへの意識

(単位：%)

区分 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
持ち家（一戸建） (N=4,064)	現在の住まいにこれからも住みたい (63.5)	現在の住宅を増改築して住みたい (16.4)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (3.0)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (2.4)	マンションを購入して住みたい (1.8)
持ち家（マンションなどの集合住宅） (N=263)	現在の住まいにこれからも住みたい (69.2)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい／地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (4.6)		地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (4.2)	現在の住宅を増改築して住みたい (3.8)
民間の借家，アパート，賃貸マンション (N=914)	現在の住まいにこれからも住みたい (15.4)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (12.8)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (11.9)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (10.6)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (9.0)
市営住宅，県営住宅，公団住宅 (N=276)	現在の住まいにこれからも住みたい (29.0)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (12.7)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (12.0)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (8.7)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (6.2)
社宅，寮，官舎 (N=120)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (22.5)	現在の住まいにこれからも住みたい (15.8)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (10.8)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (8.3)	民間のマンションやアパートを借りて住みたい (6.7)
下宿，間借り，住込み (N=15)	現在の住まいにこれからも住みたい (20.0)	現在の住宅を増改築して住みたい (13.3)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい／地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい／市営住宅などの公営住宅に住みたい (6.7)		

住居形態別でみると、持ち家（一戸建）、持ち家（マンションなどの集合住宅）では「現在の住まいにこれからも住みたい」が、それぞれ63.5%、69.2%にのぼり、満足度の高いことがわかる。また、民間の借家・アパート・賃貸マンション及び市営住宅・県営住宅・公団住宅では、それぞれ「現在の住まいにこれからも住みたい」が第1位となっているが、地価が比較的安い郊外などに持ち家を求める意識も比較的高いことがわかる。

### 65歳以上の家族の有無別 住まいへの意識

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
いる		現在の住まいにこれからも住みたい (60.4)	現在の住宅を増改築して住みたい (16.1)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (3.4)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (2.6)	市営住宅などの公営住宅に住みたい (2.2)
いない		現在の住まいにこれからも住みたい (48.2)	現在の住宅を増改築して住みたい (9.9)	地価の比較的安い郊外などに住宅を求めて住みたい (6.4)	地価は多少高くても利便性の良い市街地に住宅を求めて住みたい (5.8)	家族から土地を譲り受けるなどして家を建てて住みたい (5.4)

65歳以上の家族の有無別でみると、「現在の住まいにこれからも住みたい」は65歳以上の家族がいる人の方が多くなっている。

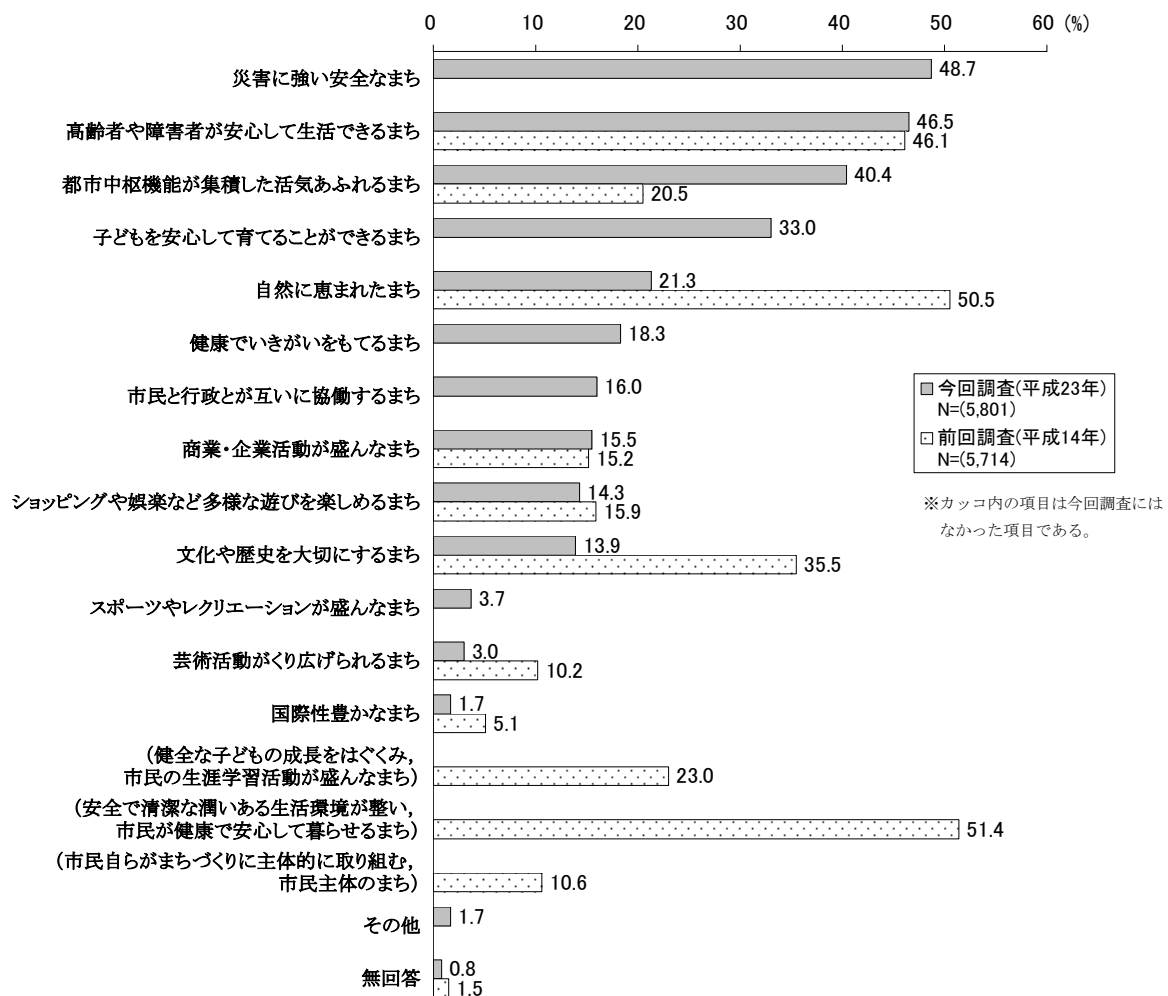
## 2-2 水戸市の方向性

### 「災害に強い安全なまち」が第1位

問4 あなたは、これから水戸市がどのようなまちを目指していくのが望ましいと考えますか。  
(○は3つまで) (N=5,801) M. A.

	(単位：%)
1 災害に強い安全なまち	48.7
2 自然に恵まれたまち	21.3
3 都市中枢機能（行政、商業、業務、教育、文化、医療など）が集積した活気あふれるまち	40.4
4 商業・企業活動が盛んなまち	15.5
5 ショッピングや娯楽など多様な遊びを楽しめるまち	14.3
6 高齢者や障害者が安心して生活できるまち	46.5
7 子どもを安心して育てることができるまち	33.0
8 健康でいきがいをもてるまち	18.3
9 文化や歴史を大切にすまち	13.9
10 芸術活動がくり上げられるまち	3.0
11 国際性豊かなまち	1.7
12 スポーツやレクリエーションが盛んなまち	3.7
13 市民と行政とが互いに協働するまち	16.0
14 その他	1.7
無回答	0.8

水戸市の方向性



これからの水戸市の方向性を決めていく上での参考として、市民に今後水戸市がどのようなまちを目指していくのが望ましいと思うかたずねたところ、「災害に強い安全なまち」が48.7%で最も多く、以下「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」46.5%、「都市中枢機能が集積した活気あふれるまち」40.4%、「子どもを安心して育てることができるまち」33.0%の順で続いている。これらによると、これからのまちづくりの方向としては、市民の多くが災害に強く、高齢者や障害者も安心して生活できるとともに、都市の中核機能が集積したまちづくりを希望していることがわかる。

### 前回との比較 水戸市の方向性

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年) (N=5,801)		災害に強い安全なまち (48.7)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (46.5)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (40.4)	子どもを安心して育てることができるまち (33.0)	自然に恵まれたまち (21.3)
前回調査 (平成14年) (N=5,714)		(安全で清潔な潤いある生活環境が整い、市民が健康で安心して暮らせるまち) (51.4)	自然に恵まれたまち (50.5)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (46.1)	文化や歴史を大切にす るまち (35.5)	(健全な子どもの成長をはぐくみ、市民の生涯学習活動が盛んなまち) (23.0)

前回の調査と比較すると、今回、新たに選択肢として加わった「災害に強い安全なまち」が最も多くなっているほか、「都市中枢機能が集積した活気あふれるまち」が約20%増加して、第3位となっていることが特徴的である。

### 性別 水戸市の方向性

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=2,509)		災害に強い安全なまち (43.6)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (43.4)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (42.6)	子どもを安心して育てることができるまち (29.3)	自然に恵まれたまち (23.4)
女性 (N=3,204)		災害に強い安全なまち (52.7)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (48.7)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (39.0)	子どもを安心して育てることができるまち (36.2)	自然に恵まれたまち (19.6)

性別でみると、上位項目に男女差はなく、男女とも「災害に強い安全なまち」「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」「都市中枢機能が集積した活気あふれるまち」が、上位3位を占めており、地震等への災害に強いまちづくりが強く求められている。また、男女とも、「子どもを安心して育てることができるまち」が第4位、「自然に恵まれたまち」が第5位となっており、男女の求める水戸市のまちづくりの方向性はほぼ一致している。



## 年齢別 水戸市の方向性

(単位：%)

区分 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)	災害に強い安全なまち／ショッピングや娯楽など多様な遊びを楽しめるまち (44.4)	子どもを安心して育てることができるまち (44.4)	子どもを安心して育てることができるまち (34.4)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (31.1)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (23.3)
20～29歳 (N=496)	子どもを安心して育てることができるまち (44.0)	災害に強い安全なまち (42.9)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (40.1)	ショッピングや娯楽など多様な遊びを楽しめるまち (35.1)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (23.0)
30～39歳 (N=856)	子どもを安心して育てることができるまち (60.0)	災害に強い安全なまち (44.2)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (40.3)	ショッピングや娯楽など多様な遊びを楽しめるまち (26.2)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (25.9)
40～49歳 (N=952)	災害に強い安全なまち (45.5)	子どもを安心して育てることができるまち (42.6)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (41.7)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (40.4)	自然に恵まれたまち (20.8)
50～59歳 (N=951)	災害に強い安全なまち (45.7)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (45.6)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (43.4)	子どもを安心して育てることができるまち (26.0)	自然に恵まれたまち (22.8)
60～69歳 (N=1,163)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (58.4)	災害に強い安全なまち (51.7)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (40.5)	子どもを安心して育てることができるまち (25.6)	市民と行政とが互いに協働するまち (22.4)
70歳以上 (N=1,211)	高齢者や障害者が安心して生活できるまち (65.9)	災害に強い安全なまち (56.6)	都市中枢機能が集積した活気あふれるまち (38.9)	健康でいきがいをもてるまち (23.0)	市民と行政とが互いに協働するまち (22.0)

年齢別でみると、20歳未満では「災害に強い安全なまち」と並んで「ショッピングや娯楽など多様な遊びを楽しめるまち」が最も多くなっている。20歳代から30歳代では「子どもを安心して育てることができるまち」が、40歳代、50歳代では「災害に強い安全なまち」が、60歳代、70歳以上になると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」が第1位となっており、年齢によって、市民の求める水戸市の方向性に違いがあることがわかる。

## 2-3 適正人口規模

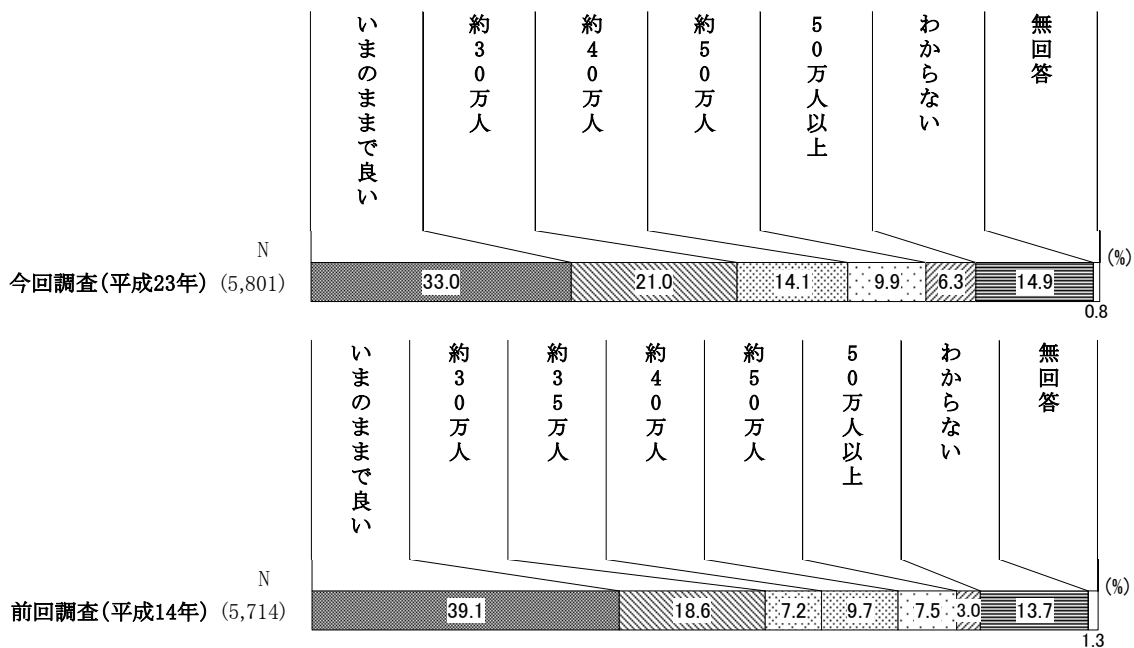
### 5割強が約30万人までを希望

問5 水戸市は現在、約27万人の特例市で、人口はここ数年、わずかに増加しています。今後、水戸市を住みやすく、また魅力あるまちにしていくためには、どのくらいの人口規模が良いと思いますか。(〇は1つだけ) (N=5,801)

(単位：%)

1	いまのままで良い	33.0	2	約30万人	21.0	3	約40万人	14.1
4	約50万人	9.9	5	50万人以上	6.3	6	わからない	14.9
	無回答	0.8						

適正人口規模



水戸市の適正人口規模についてたずねたところ、「いまのままで良い」と答えた人が33.0%と最も多く、次いで「約30万人」が21.0%となっており、合わせると市民の約5割強が現状程度(約27万人)から30万人程度を水戸市の適正人口規模と考えていることがわかる。

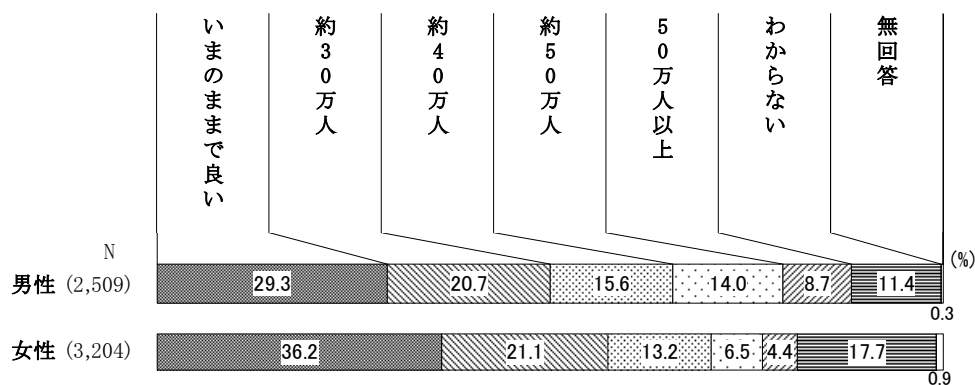
前回との比較 適正人口規模

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年) (N=5,801)	1位	いまのままで良い (33.0)	約30万人 (21.0)	約40万人 (14.1)	約50万人 (9.9)	50万人以上 (6.3)
	2位					
前回調査 (平成14年) (N=5,714)	1位	いまのままで良い (39.1)	約30万人 (18.6)	約40万人 (9.7)	約50万人 (7.5)	約35万人 (7.2)
	2位					

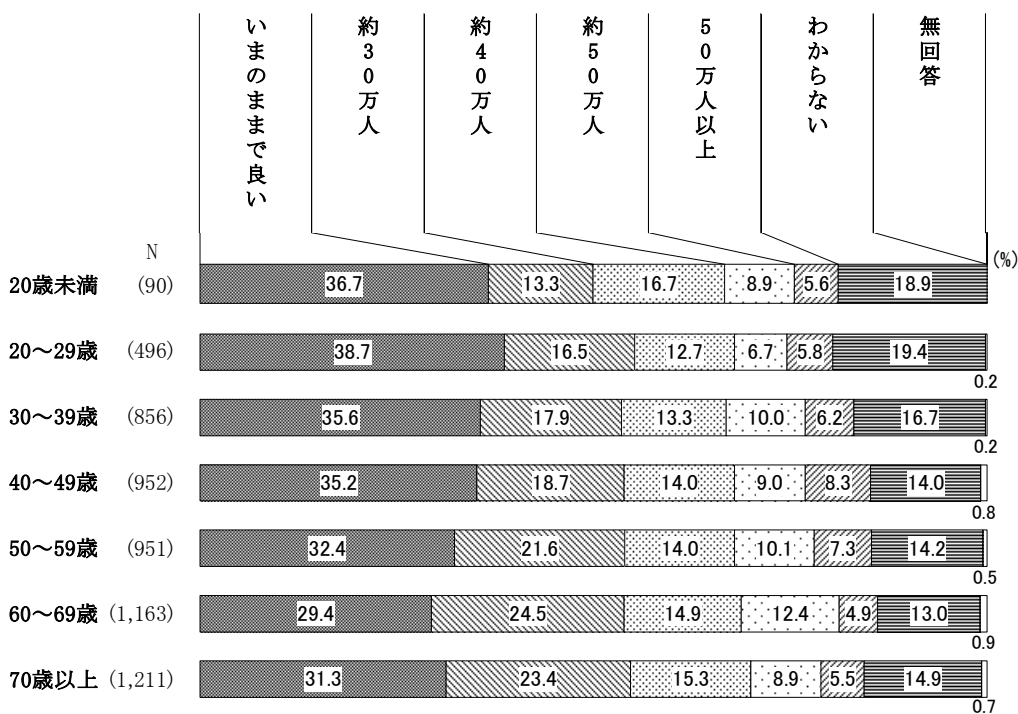
今回と前回の調査を比較すると、今回「いまのままで良い」が約6%減少したのに対して、「約40万人」が約4%増加している。全体として40万人以上を適正人口と考える人の割合は約10%増の30.3%まで増加している。

### 性別 適正人口規模



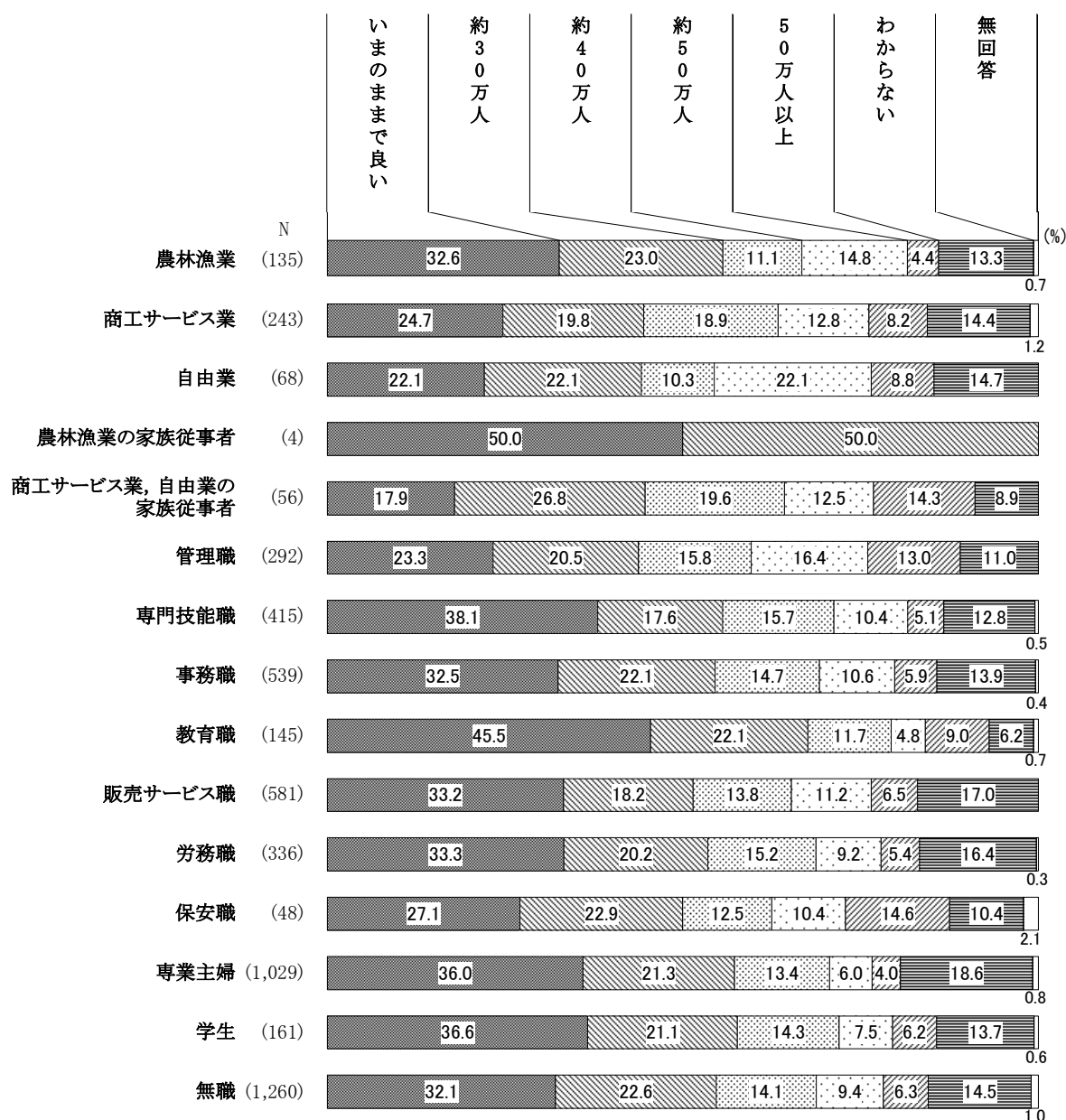
性別で見ると、女性で「いまのままで良い」と答えた人が36.2%と男性29.3%より約7%多くなっているが、「約40万人」以上を適正人口規模と考える人は男性がやや多くなっており、男女の意識の違いがあらわれている。

### 年齢別 適正人口規模



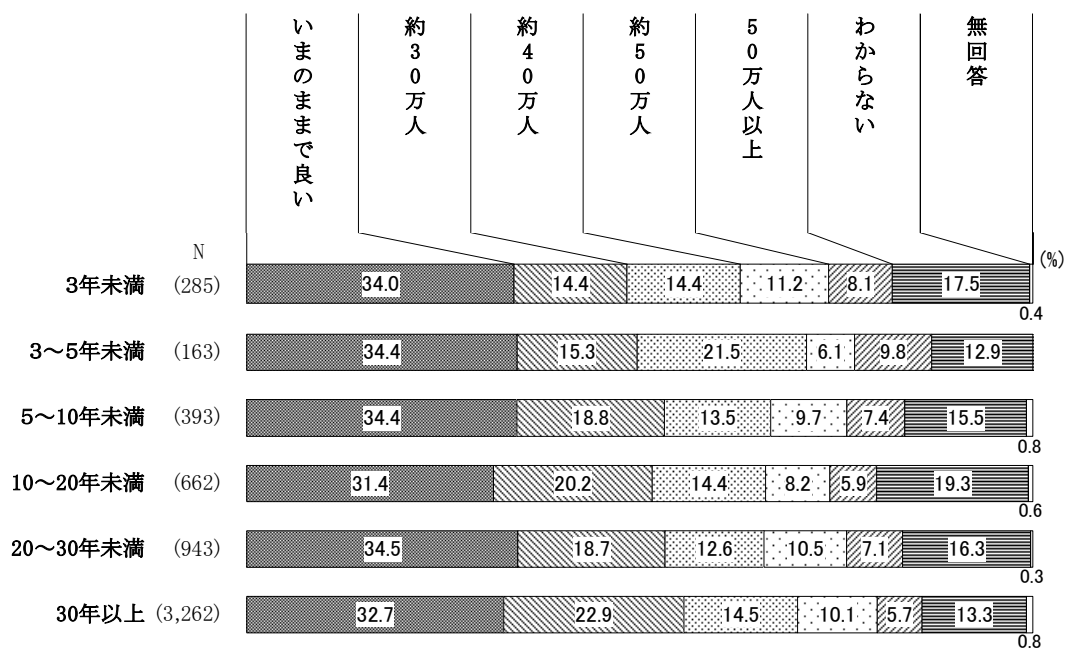
年齢別で見ると、20歳未満から40歳代では、いずれの年代も「いまのままで良い」が3割台半ばを超えて最も多くなっているが、50歳代以上では3割前後とやや低くなっている。また、「約30万人」を適正人口と考える人は、年齢とともに微増し、50歳代以上では2割を超えている。

### 職業別 適正人口規模



職業別でみると、農林漁業、専門技能職、事務職、教育職、販売サービス職、労務職、専業主婦、学生、無職では「いままままで良い」がいずれも3割を超え、特に教育職では45.5%を占めている。また、商工サービス業、商工サービス業・自由業の家族従事者では「約40万人」を適正人口規模と考える人がやや多くなっている。

### 居住年数別 適正人口規模



居住年数別でみると、いずれの層でも「今のままで良い」が3割を超えている。

## 2-4 施策の満足度

雇用や商業、観光、道路整備などの生活基盤への不満が強い

問6 あなたは、次にあげる生活環境の整備、行政サービスなどの「現状に対する満足度」について、どのように感じていますか。各項目について、「1 満足している」「2 どちらかといえば満足である」「3 どちらともいえない」「4 どちらかといえば不満である」「5 不満である」の中から1つずつ選んで、番号に○をつけてください。(N=5,801)

(単位：%)

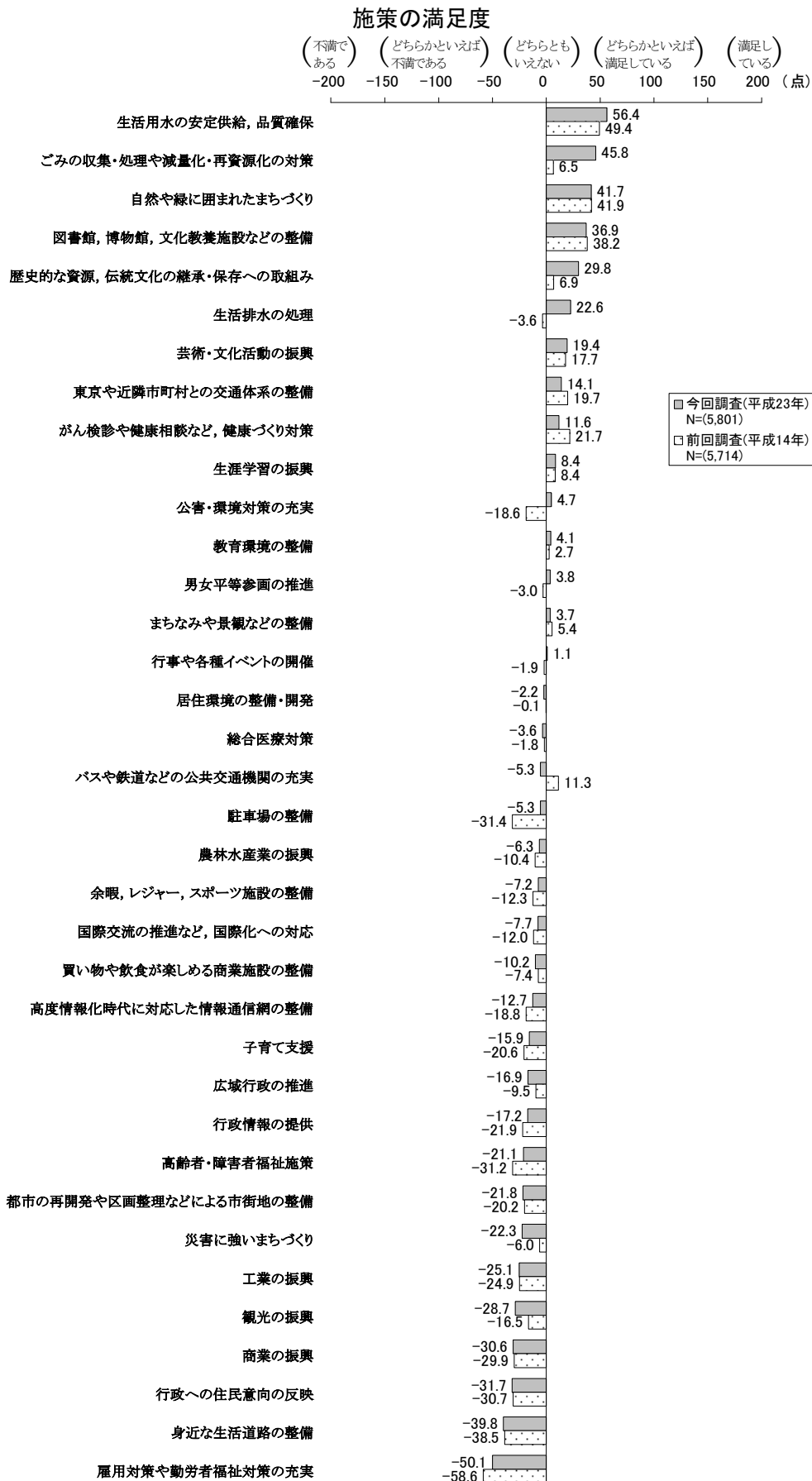
設問 項目		現状に対する満足度					N. A.
		1 満足している	2 どちらか といえば 満足である	3 どちらとも いえない	4 どちらか といえば 不満である	5 不満である	
交通・まちづくり・環境	(1) バスや鉄道などの公共交通機関の充実	6.4	25.3	31.5	22.7	10.3	3.8
	(2) 東京や近隣市町村との交通体系の整備 (幹線道路や橋など)	5.4	31.2	37.3	16.0	5.9	4.1
	(3) 身近な生活道路の整備 (拡幅、舗装や照明、歩道などの交通安全施設整備)	2.7	16.5	30.0	34.0	13.8	3.1
	(4) 都市の再開発や区画整理などによる市街地の整備	1.3	10.5	55.9	21.7	6.6	4.0
	(5) 駐車場の整備	3.3	20.5	45.4	21.0	5.7	4.1
	(6) 災害に強いまちづくり(地震、水害対策など)	1.7	13.3	49.9	24.2	7.4	3.6
	(7) 自然や緑に囲まれたまちづくり (公園、緑地、広場などの整備)	8.1	40.1	36.3	9.8	2.4	3.4
	(8) まちなみや景観などの整備	3.3	23.0	48.0	18.0	3.9	3.7
	(9) 買い物や飲食が楽しめる商業施設の整備	3.5	22.6	38.1	25.1	7.3	3.4
	(10) 居住環境の整備・開発 (市営住宅の整備や住宅団地の造成など)	2.3	12.9	64.6	12.7	3.5	3.9
	(11) 生活用水(飲み水など)の安定供給、品質確保	12.6	42.3	32.8	7.2	1.9	3.2
	(12) 生活排水の処理 (下水道や農業集落排水処理施設などの整備)	9.0	31.5	36.5	12.9	7.0	3.1
	(13) ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策	10.6	39.0	35.4	9.2	2.6	3.1
	(14) 公害・環境対策の充実 (川や湖などの水質浄化や大気汚染の防止など)	3.1	19.7	56.4	13.6	3.9	3.3
	(15) 高度情報化時代に対応した情報通信網の整備	1.4	10.2	62.8	17.2	4.2	4.2
保健・福祉	(16) 高齢者・障害者のための施設の整備など、高齢者・障害者福祉施策	1.7	11.6	53.4	24.3	5.9	3.0
	(17) 幼稚園・保育所の整備や放課後児童対策など、子育て支援	1.9	12.9	54.8	20.6	6.0	3.9
	(18) がん検診や健康相談など、健康づくり対策	3.8	24.2	51.6	13.8	3.2	3.3
	(19) 病院、診療所などの医療施設の整備や緊急時の医療体制の整備など、総合医療対策	3.8	22.7	42.9	21.7	6.1	2.9

(単位：%)

設問 項目		現状に対する満足度					N. A.
		1 満足している	2 どちらかといえば満足である	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不満である	5 不満である	
教育・文化	(20) 教育環境の整備 (教育施設の整備や教育内容の充実など)	2.1	17.4	61.2	11.3	3.1	4.9
	(21) 生涯学習の振興 (市民の学習活動の推進など)	2.2	17.6	63.9	10.0	1.8	4.4
	(22) 芸術・文化活動の振興	3.7	24.8	55.7	9.7	1.5	4.6
	(23) 図書館, 博物館, 文化教養施設などの整備	6.6	36.2	42.0	9.8	1.3	4.1
	(24) 余暇, レジャー, スポーツ施設の整備	2.5	16.4	51.9	20.7	4.1	4.4
	(25) 男女平等参画の推進	2.0	11.7	71.9	7.7	2.1	4.6
	(26) 国際交流の推進など, 国際化への対応	1.5	8.2	69.5	13.3	2.8	4.8
	(27) 歴史的な資源, 伝統文化の継承・保存への取組み	5.6	31.7	47.3	9.2	1.9	4.2
産業振興・雇用対策	(28) 農林水産業の振興	1.7	10.5	65.8	14.0	3.1	4.8
	(29) 商業の振興	1.0	7.2	54.0	26.4	6.7	4.6
	(30) 工業の振興	0.9	5.5	61.4	22.2	5.2	4.9
	(31) 観光の振興	1.9	13.6	43.8	26.3	9.9	4.4
	(32) 雇用対策 (雇用機会の創出など) や 勤労者福祉対策の充実	0.7	3.8	47.2	31.8	11.7	4.8
その他	(33) 行事や各種イベントの開催	2.4	17.2	58.4	14.3	3.3	4.5
	(34) 行政への住民意向の反映	0.7	6.0	57.8	22.2	8.5	4.9
	(35) 行政情報の提供	1.5	11.9	56.3	19.1	6.5	4.8
	(36) 広域行政の推進 (都市間連携の取組など)	0.8	5.7	67.1	14.9	4.6	7.0

生活環境の整備や行政サービスなどの現状に対する満足度について、36項目にわたり市民に評価してもらった。その結果を点数化すると次のとおりである。

■評価点 = 
$$\frac{\text{「満足している」} \times 2 \text{点} + \text{「どちらかという満足している」} \times 1 \text{点} + \text{「どちらともいえない」} \times 0 \text{点} + \text{「どちらかといえば不満である」} \times (-1 \text{点}) + \text{「不満である」} \times (-2 \text{点})}{\text{回答数}} \times 100$$





市民から高い満足度を得ている項目は「生活用水の安定供給，品質確保」56.4点，「ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策」45.8点，「自然や緑に囲まれたまちづくり」41.7点，「図書館，博物館，文化教養施設などの整備」36.9点，「歴史的な資源，伝統文化の継承・保存への取組み」29.8点となっている。一方，満足度の低い項目としては，「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」-50.1点，「身近な生活道路の整備」-39.8点，「行政への住民意向の反映」-31.7点，「商業の振興」-30.6点，「観光の振興」-28.7点となっている。

こうしたことから，市民の多くは，生活用水やごみ処理などの生活環境が整い，自然にも恵まれた歴史と文化のあるまちとして，市の生活環境に満足している一方で，雇用や商業・観光などの面や道路といった生活基盤には不満を抱いていることがわかる。

### 前回との比較 施策の満足度（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 （平成23年） （N=5,801）		生活用水の安定供給， 品質確保 (56.4)	ごみの収集・処理や減 量化・再資源化の対策 (45.8)	自然や緑に囲まれたま ちづくり (41.7)	図書館，博物館，文化 教養施設などの整備 (36.9)	歴史的な資源，伝統文 化の継承・保存への取 組み (29.8)
前回調査 （平成14年） （N=5,714）		生活用水の安定供給， 品質確保 (49.4)	自然や緑に囲まれたま ちづくり (41.9)	図書館，博物館，文化 教養施設などの整備 (38.2)	がん検診や健康相談な ど，健康づくり対策 (21.7)	東京や近隣市町村との 交通体系の整備 (19.7)

### 前回との比較 施策の満足度（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 （平成23年） （N=5,801）		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-50.1)	身近な生活道路の整備 (-39.8)	行政への住民意向の反 映 (-31.7)	商業の振興 (-30.6)	観光の振興 (-28.7)
前回調査 （平成14年） （N=5,714）		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-58.6)	身近な生活道路の整備 (-38.5)	駐車場の整備 (-31.4)	高齢者・障害者福祉施 策 (-31.2)	行政への住民意向の反 映 (-30.7)

### 性別 施策の満足度（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 （N=2,509）		生活用水の安定供給， 品質確保 (62.9)	ごみの収集・処理や減 量化・再資源化の対策 (47.8)	自然や緑に囲まれたま ちづくり (41.9)	図書館，博物館，文化 教養施設などの整備 (36.5)	歴史的な資源，伝統文 化の継承・保存への取 組み (29.5)
女性 （N=3,204）		生活用水の安定供給， 品質確保 (51.6)	ごみの収集・処理や減 量化・再資源化の対策 (44.1)	自然や緑に囲まれたま ちづくり (42.0)	図書館，博物館，文化 教養施設などの整備 (37.7)	歴史的な資源，伝統文 化の継承・保存への取 組み (30.2)

### 性別 施策の満足度（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=2,509)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-52.8)	行政への住民意向の反映 (-36.4)	身近な生活道路の整備 (-35.9)	商業の振興 (-35.5)	観光の振興 (-32.6)
女性 (N=3,204)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-48.2)	身近な生活道路の整備 (-43.0)	行政への住民意向の反映 (-28.5)	商業の振興 (-27.1)	観光の振興 (-26.0)

性別でみると、満足度の高い項目として、男女とも、「生活用水の安定供給、品質確保」が最も高く、次いで「ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策」、「自然や緑に囲まれたまちづくり」、「図書館、博物館、文化教養施設などの整備」、「歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み」の順となっており、上位5位は共通している。特に、男性では「生活用水の安定供給、品質確保」が62.9点と女性よりも11.3点高くなっているのが特徴的である。

一方、満足度の低い項目としては、男女とも「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」、「身近な生活道路の整備」、「行政への住民意向の反映」が上位に挙げられており、特に、男性では「行政への住民意向の反映」が-36.4点と女性より7.9点低くなっている。

### 年齢別 施策の満足度（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (66.7)	自然や緑に囲まれたまちづくり (63.3)	生活用水の安定供給、品質確保／歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み (52.2)		ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (50.0)
20～29歳 (N=496)		自然や緑に囲まれたまちづくり (48.8)	生活用水の安定供給、品質確保 (46.8)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (43.3)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み (43.1)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (40.3)
30～39歳 (N=856)		生活用水の安定供給、品質確保 (45.6)	自然や緑に囲まれたまちづくり (45.0)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (40.4)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み (35.5)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (32.6)
40～49歳 (N=952)		生活用水の安定供給、品質確保 (47.7)	自然や緑に囲まれたまちづくり (43.5)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (37.6)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (36.4)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み (33.1)
50～59歳 (N=951)		生活用水の安定供給、品質確保 (55.3)	自然や緑に囲まれたまちづくり (42.6)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (35.0)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (31.4)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み (21.8)
60～69歳 (N=1,163)		生活用水の安定供給、品質確保 (67.9)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (54.1)	自然や緑に囲まれたまちづくり (40.9)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (33.4)	東京や近隣市町村との交通体系の整備 (24.1)
70歳以上 (N=1,211)		生活用水の安定供給、品質確保 (65.4)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (64.2)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (37.4)	自然や緑に囲まれたまちづくり (34.6)	がん検診や健康相談など、健康づくり対策 (32.5)

年齢別 施策の満足度（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		身近な生活道路の整備 (-36.7)	雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-25.6)	観光の振興 (-23.3)	余暇、レジャー、スポ ーツ施設の整備 (-18.9)	広域行政の推進 (-16.7)
20～29歳 (N=496)		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-49.4)	身近な生活道路の整備 (-47.4)	観光の振興 (-33.5)	行政への住民意向の反 映 (-33.1)	行政情報の提供 (-25.6)
30～39歳 (N=856)		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-47.3)	身近な生活道路の整備 (-43.2)	子育て支援 (-40.7)	観光の振興 (-37.7)	行政への住民意向の反 映 (-36.2)
40～49歳 (N=952)		身近な生活道路の整備／雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-52.1)	行政への住民意向の反 映 (-37.7)	観光の振興 (-33.4)	商業の振興 (-32.7)	
50～59歳 (N=951)		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-64.0)	身近な生活道路の整備 (-48.4)	行政への住民意向の反 映 (-40.0)	商業の振興 (-39.6)	観光の振興 (-35.8)
60～69歳 (N=1,163)		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-55.3)	身近な生活道路の整備 (-38.9)	商業の振興 (-33.6)	行政への住民意向の反 映 (-31.4)	工業の振興 (-30.8)
70歳以上 (N=1,211)		雇用対策や勤労者福祉 対策の充実 (-37.2)	商業の振興 (-22.9)	工業の振興 (-22.0)	行政への住民意向の反 映 (-19.9)	身近な生活道路の整備 (-19.7)

年齢別で見ると、満足度の高いものとしては、「生活用水の安定供給、品質確保」、「自然や緑に囲まれたまちづくり」、「図書館、博物館、文化教養施設などの整備」が上位を占めている。特に、「生活用水の安定供給、品質確保」と「ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策」については、年齢が高くなるにつれて、満足度が高くなる傾向が顕著にあらわれている。

一方、満足度の低い項目としては、「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」と「身近な生活道路の整備」がほぼすべての年齢層にわたって上位を占めている。特に、40歳代から60歳代では「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が-50.0点より低くなっているほか、40歳代、50歳代では「行政への住民意向の反映」についても厳しい評価がなされている。

居住年数別 施策の満足度（評価の高いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
3年未満 (N=285)		自然や緑に囲まれたまちづくり (48.8)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取り組み (46.7)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (38.2)	芸術・文化活動の振興 (30.9)	生活排水の処理 (29.5)
3～5年未満 (N=163)		自然や緑に囲まれたまちづくり (52.8)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取り組み (51.5)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (49.7)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (46.0)	生活排水の処理 (36.8)
5～10年未満 (N=393)		自然や緑に囲まれたまちづくり (45.5)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (43.5)	生活用水の安定供給、品質確保 (42.5)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (36.4)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取り組み (35.6)
10～20年未満 (N=662)		生活用水の安定供給、品質確保 (47.3)	自然や緑に囲まれたまちづくり (46.8)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (39.6)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策／歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取り組み (34.4)	
20～30年未満 (N=943)		生活用水の安定供給、品質確保 (54.3)	自然や緑に囲まれたまちづくり (45.6)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (38.1)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (36.9)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取り組み (31.7)
30年以上 (N=3,262)		生活用水の安定供給、品質確保 (65.1)	ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策 (52.9)	自然や緑に囲まれたまちづくり (38.6)	図書館、博物館、文化教養施設などの整備 (35.5)	歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取り組み (25.2)

居住年数別 施策の満足度（評価の低いもの）

（単位：点）

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
3年未満 (N=285)		身近な生活道路の整備 (-48.1)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-33.0)	観光の振興 (-28.4)	バスや鉄道などの公共交通機関の充実 (-25.6)	災害に強いまちづくり (-24.9)
3～5年未満 (N=163)		身近な生活道路の整備 (-55.8)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-36.2)	商業の振興／観光の振興 (-33.1)		行政への住民意向の反映 (-31.3)
5～10年未満 (N=393)		身近な生活道路の整備 (-49.9)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-43.3)	行政への住民意向の反映 (-31.3)	災害に強いまちづくり (-30.8)	商業の振興 (-28.2)
10～20年未満 (N=662)		身近な生活道路の整備 (-43.7)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-41.5)	行政への住民意向の反映 (-28.2)	災害に強いまちづくり (-25.7)	観光の振興 (-25.1)
20～30年未満 (N=943)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-56.3)	身近な生活道路の整備 (-43.9)	行政への住民意向の反映 (-38.5)	商業の振興 (-35.8)	観光の振興 (-35.5)
30年以上 (N=3,262)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (-53.3)	身近な生活道路の整備 (-35.3)	商業の振興／行政への住民意向の反映 (-31.7)		観光の振興 (-28.3)

居住年数別でみると、市民から高い満足度を得ている分野としては、居住年数にかかわらず、「自然や緑に囲まれたまちづくり」、「図書館、博物館、文化教養施設などの整備」などが上位を占めている。特に、「生活用水の安定供給、品質確保」と「ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策」については、居住年数が長くなるにつれて、満足度が高くなる傾向がある。

一方、満足度の低いものとしては、居住年数にかかわらず、「身近な生活道路の整備」と「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が上位に挙げられているが、特に20年～30年未満、30年以上では「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が、いずれも-50.0点より低くなっており、雇用面への不満が高くなっている。

## 2-5 今後優先すべき施策

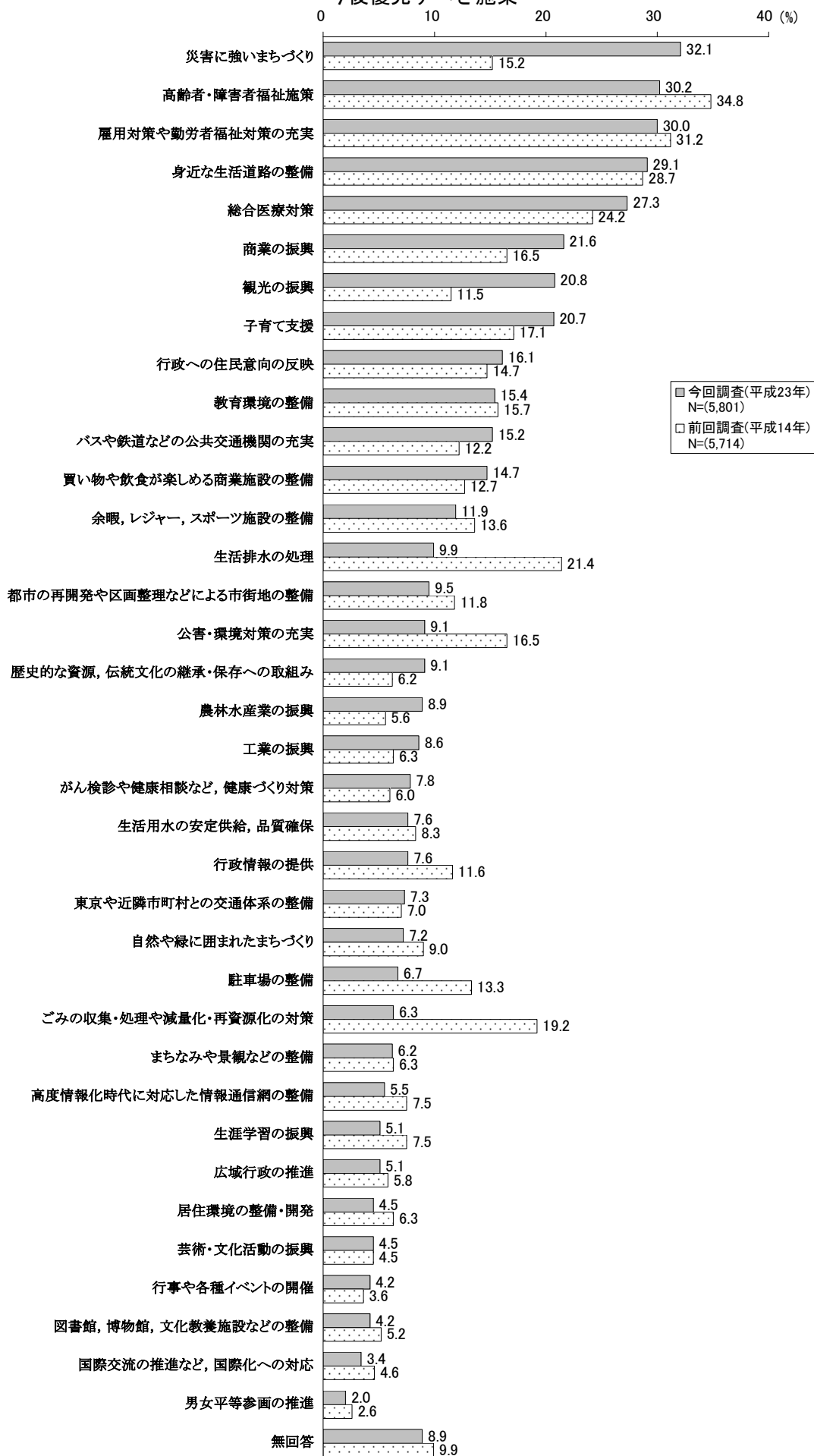
### 「災害に強いまちづくり」が前回から倍増

問7 あなたが水戸市において、今後優先すべきだと思う施策は何ですか。問6に示した生活環境の整備、行政サービスなど、(1)～(36)の中から5つまで選んで、下記の回答欄に記入してください。(N=5,801) M.A.

(単位：%)

交通・まちづくり・環境	(1) バスや鉄道などの公共交通機関の充実	15.2
	(2) 東京や近隣市町村との交通体系の整備(幹線道路や橋など)	7.3
	(3) 身近な生活道路の整備(拡幅, 舗装や照明, 歩道などの交通安全施設整備)	29.1
	(4) 都市の再開発や区画整理などによる市街地の整備	9.5
	(5) 駐車場の整備	6.7
	(6) 災害に強いまちづくり(地震, 水害対策など)	32.1
	(7) 自然や緑に囲まれたまちづくり(公園, 緑地, 広場などの整備)	7.2
	(8) まちなみや景観などの整備	6.2
	(9) 買い物や飲食が楽しめる商業施設の整備	14.7
	(10) 居住環境の整備・開発(市営住宅の整備や住宅団地の造成など)	4.5
	(11) 生活用水(飲み水など)の安定供給, 品質確保	7.6
	(12) 生活排水の処理(下水道や農業集落排水処理施設などの整備)	9.9
	(13) ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策	6.3
	(14) 公害・環境対策の充実(川や湖などの水質浄化や大気汚染の防止など)	9.1
	(15) 高度情報化時代に対応した情報通信網の整備	5.5
保健・福祉	(16) 高齢者・障害者のための施設の整備など, 高齢者・障害者福祉施策	30.2
	(17) 幼稚園・保育所の整備や放課後児童対策など, 子育て支援	20.7
	(18) がん検診や健康相談など, 健康づくり対策	7.8
	(19) 病院, 診療所などの医療施設の整備や緊急時の医療体制の整備など, 総合医療対策	27.3
教育・文化	(20) 教育環境の整備(教育施設の整備や教育内容の充実など)	15.4
	(21) 生涯学習の振興(市民の学習活動の推進など)	5.1
	(22) 芸術・文化活動の振興	4.5
	(23) 図書館, 博物館, 文化教養施設などの整備	4.2
	(24) 余暇, レジャー, スポーツ施設の整備	11.9
	(25) 男女平等参画の推進	2.0
	(26) 国際交流の推進など, 国際化への対応	3.4
	(27) 歴史的な資源, 伝統文化の継承・保存への取組み	9.1
産業振興・雇用対策	(28) 農林水産業の振興	8.9
	(29) 商業の振興	21.6
	(30) 工業の振興	8.6
	(31) 観光の振興	20.8
	(32) 雇用対策(雇用機会の創出など)や勤労者福祉対策の充実	30.0
その他	(33) 行事や各種イベントの開催	4.2
	(34) 行政への住民意向の反映	16.1
	(35) 行政情報の提供	7.6
	(36) 広域行政の推進(都市間連携の取組など)	5.1
無回答		8.9

### 今後優先すべき施策



今後の市政の重点施策について、たずねたところ、「災害に強いまちづくり」が32.1%で最も多く、以下「高齢者・障害者福祉施策」30.2%、「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」30.0%、「身近な生活道路の整備」29.1%、「総合医療対策」27.3%、「商業の振興」21.6%の順で続いている。

東日本大震災の経験などから災害に強いまちづくりを望む声が高くなっているほか、高齢化の進行や長期化する不況への対策が強く求められており、現在の社会状況を反映した結果となっている。

### 前回との比較 今後優先すべき施策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年) (N=5,801)		災害に強いまちづくり (32.1)	高齢者・障害者福祉施策 (30.2)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (30.0)	身近な生活道路の整備 (29.1)	総合医療対策 (27.3)
前回調査 (平成14年) (N=5,714)		高齢者・障害者福祉施策 (34.8)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (31.2)	身近な生活道路の整備 (28.7)	総合医療対策 (24.2)	生活排水の処理 (21.4)

前回の調査と比較すると、今回、「災害に強いまちづくり」が前回より約17%も増加しており、市民の防災に対する危機意識が高くなっているのが特徴的である。また、前回同様、雇用対策、医療の充実を求める人が多くなっている。

### 性別 今後優先すべき施策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=2,509)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (29.6)	身近な生活道路の整備 (29.3)	高齢者・障害者福祉施策 (28.4)	災害に強いまちづくり (27.5)	総合医療対策 (25.8)
女性 (N=3,204)		災害に強いまちづくり (36.0)	高齢者・障害者福祉施策 (31.5)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (30.6)	身近な生活道路の整備 (28.9)	総合医療対策 (28.5)

性別で見ると、男性では「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が29.6%で最も多く、次いで「身近な生活道路の整備」「高齢者・障害者福祉施策」「災害に強いまちづくり」となっている。一方、女性では「災害に強いまちづくり」が36.0%と、男性27.5%を約9%上回って第1位となっているほか、「高齢者・障害者福祉施策」が第2位を占めている。こうしたことから、男性では雇用対策に対する関心が高いのに対して、女性では防災や福祉への関心が高いことがわかる。

## 年齢別 今後優先すべき施策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		災害に強いまちづくり／雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (32.2)		買い物や飲食が楽しめる商業施設の整備／教育環境の整備 (23.3)		身近な生活道路の整備 (22.2)
20～29歳 (N=496)		災害に強いまちづくり (33.9)	子育て支援 (29.8)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (29.6)	身近な生活道路の整備 (28.4)	観光の振興 (23.8)
30～39歳 (N=856)		子育て支援 (39.7)	災害に強いまちづくり (31.4)	身近な生活道路の整備 (27.6)	総合医療対策 (25.8)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (25.4)
40～49歳 (N=952)		災害に強いまちづくり (34.5)	総合医療対策 (31.3)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (30.8)	身近な生活道路の整備 (28.8)	高齢者・障害者福祉施策 (26.4)
50～59歳 (N=951)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (39.7)	高齢者・障害者福祉施策 (34.6)	災害に強いまちづくり (33.9)	身近な生活道路の整備 (29.5)	総合医療対策 (28.5)
60～69歳 (N=1,163)		高齢者・障害者福祉施策 (35.8)	災害に強いまちづくり (33.0)	身近な生活道路の整備／雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (32.6)		総合医療対策 (28.6)
70歳以上 (N=1,211)		高齢者・障害者福祉施策 (35.8)	災害に強いまちづくり (28.5)	身近な生活道路の整備 (27.5)	総合医療対策 (26.5)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (23.1)

年齢別で見ると、20歳未満では「災害に強いまちづくり」と並んで「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が最も多く、20歳代、40歳代でも「災害に強いまちづくり」が第1位を占めている。また、30歳代では「子育て支援」が、50歳代では「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が多く、60歳代、70歳以上になると「高齢者・障害者福祉施策」が第1位となっており、年齢によって、今後優先すべき施策は変化していくことがわかる。



## 居住年数別 今後優先すべき施策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
3年未満 (N=285)		災害に強いまちづくり (33.3)	身近な生活道路の整備 (29.8)	子育て支援 (26.3)	観光の振興 (26.0)	バスや鉄道などの公共交通機関の充実 (22.5)
3～5年未満 (N=163)		災害に強いまちづくり (33.1)	子育て支援 (31.9)	観光の振興 (31.3)	身近な生活道路の整備 (30.7)	商業の振興 (26.4)
5～10年未満 (N=393)		災害に強いまちづくり (35.9)	身近な生活道路の整備 (31.6)	子育て支援 (29.3)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (25.4)	総合医療対策 (25.2)
10～20年未満 (N=662)		災害に強いまちづくり (33.8)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (30.4)	身近な生活道路の整備 (28.9)	総合医療対策 (27.3)	高齢者・障害者福祉施策 (26.0)
20～30年未満 (N=943)		雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (34.5)	災害に強いまちづくり (32.2)	高齢者・障害者福祉施策 (28.0)	身近な生活道路の整備 (27.4)	子育て支援 (25.7)
30年以上 (N=3,262)		高齢者・障害者福祉施策 (34.8)	災害に強いまちづくり (31.4)	雇用対策や勤労者福祉対策の充実 (30.8)	身近な生活道路の整備 (29.3)	総合医療対策 (29.1)

居住年数別でみると、3年未満から10年～20年未満の各層では、いずれも「災害に強いまちづくり」が最も多くなっているが、20～30年未満では、「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」が、30年以上になると、「高齢者・障害者福祉施策」が「災害に強いまちづくり」を僅かながら上回り、第1位となっている。また、3～5年未満、5～10年未満では「子育て支援」が3割前後を占めており、居住年数の少ない層には子育て世代が多く含まれることがうかがわれる。

## 2-6 生活環境の評価

生活環境の快適性への評価は高く、生活基盤や子どもの遊び場の整備に対する評価は低い

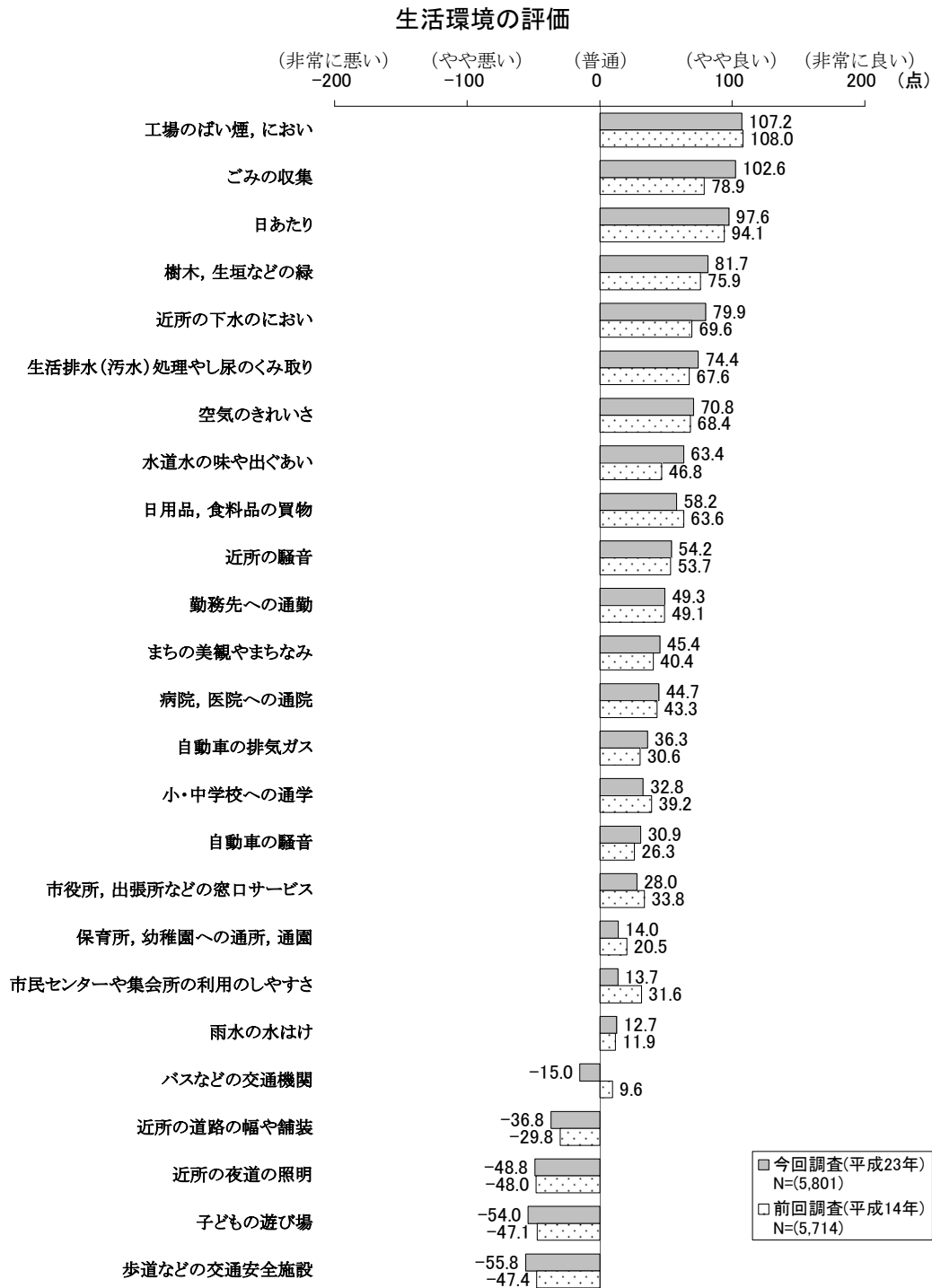
問8 あなたは、お住まいの周囲の生活環境について、どのように思いますか。各項目について、「非常に（良い）…1」「やや（良い）…2」「やや（悪い）…3」「非常に（悪い）…4」の中から1つずつ選んで番号に○をつけてください。（N=5,801）

（単位：％）

		1 非常に 良い	2 やや 良い	3 やや 悪い	4 非常に 悪い	N. A
衛生	(1) ごみの収集	30.9	53.3	9.6	1.4	4.8
	(2) 生活排水（汚水）処理やし尿のくみ取り	23.7	51.8	14.4	5.1	5.0
	(3) 雨水の水はけ	13.8	39.9	29.6	12.6	4.2
	(4) 水道水の味や出ぐあい	19.2	53.0	19.8	4.1	4.0
安全	(5) 近所の道路の幅や舗装	6.3	30.2	39.4	20.1	4.0
	(6) 近所の夜道の照明	5.2	26.8	42.2	21.9	3.9
	(7) 歩道などの交通安全施設	3.4	26.0	43.8	22.4	4.4
利便	(8) 子どもの遊び場	2.9	25.9	45.1	20.3	5.8
	(9) 保育所、幼稚園への通所、通園	7.6	46.6	31.8	7.9	6.1
	(10) 小・中学校への通学	12.8	48.0	27.2	6.8	5.2
	(11) 日用品、食料品の買物	20.5	49.9	19.5	6.6	3.5
	(12) 勤務先への通勤	14.9	49.9	20.2	5.1	9.9
	(13) 病院、医院への通院	13.2	53.4	24.5	5.3	3.6
	(14) 市民センターや集会所の利用のしやすさ	8.4	45.6	34.1	7.2	4.7
	(15) バスなどの交通機関	9.7	35.2	32.1	18.7	4.3
快適	(16) 市役所、出張所などの窓口サービス	9.3	51.9	27.2	7.7	3.8
	(17) 空気のきれいさ	18.0	58.0	17.3	2.9	3.8
	(18) 近所の騒音	20.2	48.4	21.3	6.6	3.5
	(19) 自動車の騒音	15.3	44.9	27.8	8.4	3.6
	(20) 自動車の排気ガス	15.3	46.4	27.5	6.7	4.2
	(21) 工場のばい煙、におい	39.2	43.3	9.6	2.4	5.6
	(22) 近所の下水のにおい	29.9	44.8	16.7	4.0	4.6
	(23) 日あたり	39.2	40.3	12.5	4.3	3.6
	(24) 樹木、生垣などの緑	26.3	50.8	16.7	2.5	3.7
(25) まちの美観やまちなみ	11.6	55.3	25.9	3.6	3.7	

水戸市の生活環境について、25項目にわたり市民に評価してもらった。その結果を点数化すると次のとおりである。

$$\blacksquare \text{ 評価点} = \frac{\text{「非常に良い」} \times 2 \text{ 点} + \text{「やや良い」} \times 1 \text{ 点} + \text{「やや悪い」} \times (-1 \text{ 点}) + \text{「非常に悪い」} \times (-2 \text{ 点})}{\text{回 答 数}} \times 100$$



最も評価の高い項目としては、「工場のばい煙，におい」107.2点、「ごみの収集」102.6点、「日あたり」97.6点、「樹木，生垣などの緑」81.7点、「近所の下水のにおい」79.9点などが上位を占めている。25項目中20項目でプラス評価されている。

一方，評価の低い項目としては、「歩道などの交通安全施設」-55.8点、「子どもの遊び場」-54.0点、「近所の夜道の照明」-48.8点となっている。

こうしたことから，工場や下水のにおいもなく，空気がきれい日あたりがよく，緑の豊かな生活環境が高く評価されているが，その一方，歩道や夜間の照明などの生活基盤や子どもの遊び場の整備不足に対する不満が強いことがわかる。

### 前回との比較 生活環境の評価（評価の高いもの）

（単位：点）

区分 \ 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 （平成23年） （N=5,801）	工場のばい煙，におい (107.2)	ごみの収集 (102.6)	日あたり (97.6)	樹木，生垣などの緑 (81.7)	近所の下水のにおい (79.9)
前回調査 （平成14年） （N=5,714）	工場のばい煙，におい (108.0)	日あたり (94.1)	ごみの収集 (78.9)	樹木，生垣などの緑 (75.9)	近所の下水のにおい (69.6)

### 前回との比較 生活環境の評価（評価の低いもの）

（単位：点）

区分 \ 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 （平成23年） （N=5,801）	歩道などの交通安全施設 (-55.8)	子どもの遊び場 (-54.0)	近所の夜道の照明 (-48.8)	近所の道路の幅や舗装 (-36.8)	バスなどの交通機関 (-15.0)
前回調査 （平成14年） （N=5,714）	近所の夜道の照明 (-48.0)	歩道などの交通安全施設 (-47.4)	子どもの遊び場 (-47.1)	近所の道路の幅や舗装 (-29.8)	バスなどの交通機関 (9.6)

前回調査と比べると，評価の高い項目としては，今回も「工場のばい煙，におい」，「ごみの収集」，「日あたり」，「樹木，生垣などの緑」，「近所の下水のにおい」が上位を占めている。また，項目別にみると，「ごみの収集」や「近所の下水のにおい」などが，前回に比べて大きく評価を上げている。一方，評価の低い項目として，今回，「歩道などの交通安全施設」と「子どもの遊び場」が-50.0点より低くなっており，前回に比べて大きく評価を下げている。

## 地区別 生活環境の評価

(単位：点)

生活環境		地区名	三の丸 (N=208)	五軒 (N=141)	新荘 (N=166)	城東 (N=187)	浜田 (N=263)	常磐 (N=238)	緑岡 (N=258)	寿 (N=170)	
衛生	(1) ごみの収集	◎	1.22	1.11	1.10	1.00	1.01	0.97	1.05	1.09	
	(2) 生活排水(汚水)処理やし尿のくみ取り		1.01	1.10	1.06	0.97	0.70	0.96	0.74	0.74	
	(3) 雨水の水はけ		0.22	0.56	0.48	0.28	-0.08	0.27	0.09	-0.01	
	(4) 水道水の味や出ぐあい		0.67	0.83	0.68	0.57	0.64	0.67	0.73	0.56	
	合計		3.12	3.60	3.32	2.82	2.27	2.87	2.61	2.38	
安全	(5) 近所の道路の幅や舗装		-0.41	-0.21	-0.27	-0.28	-0.52	-0.47	-0.38	-0.37	
	(6) 近所の夜道の照明		-0.40	◎	-0.11	-0.32	-0.21	-0.43	-0.51	-0.39	
	(7) 歩道などの交通安全施設		-0.35	-0.43	-0.50	-0.34	-0.61	-0.68	-0.77	-0.51	
	合計		-1.16	-0.75	-1.09	-0.83	-1.56	-1.72	-1.66	-1.27	
利便	(8) 子どもの遊び場		-0.71	-0.58	-0.68	-0.28	-0.43	-0.69	-0.72	-0.36	
	(9) 保育所、幼稚園への通所、通園		0.15	0.43	0.11	◎	0.50	0.22	0.32	0.27	
	(10) 小・中学校への通学		0.60	0.53	0.66	0.52	0.45	0.40	0.47	0.25	
	(11) 日用品、食料品の買物		0.19	0.20	0.35	0.47	0.79	0.90	0.92	0.91	
	(12) 勤務先への通勤		0.68	0.55	0.63	0.51	0.64	0.66	0.64	0.48	
	(13) 病院、医院への通院		0.62	0.49	0.28	0.62	0.59	0.43	0.52	0.57	
	(14) 市民センターや集会所の利用のしやすさ		0.11	0.15	0.10	0.27	0.06	0.26	0.27	0.25	
	(15) バスなどの交通機関		0.41	0.43	◎	0.64	0.17	0.02	0.55	-0.04	-0.09
	(16) 市役所、出張所などの窓口サービス		0.32	0.23	0.20	0.33	0.41	0.29	0.29	0.26	
合計		2.37	2.43	2.29	3.11	2.75	2.97	2.67	2.54		
快適	(17) 空気のきれいさ		0.50	0.57	0.46	0.51	0.71	0.63	0.74	0.75	
	(18) 近所の騒音	●	0.15	0.49	0.25	0.34	0.44	0.39	0.59	0.58	
	(19) 自動車の騒音		0.07	0.35	0.22	0.07	0.16	0.11	0.32	0.36	
	(20) 自動車の排気ガス	●	0.00	0.30	0.13	0.11	0.13	0.09	0.48	0.45	
	(21) 工場のばい煙、におい		1.13	1.20	1.13	0.93	1.00	1.03	1.08	1.12	
	(22) 近所の下水のにおい		0.96	1.00	0.98	0.65	0.70	0.85	0.81	0.71	
	(23) 日あたり	●	0.75	0.82	0.76	0.86	0.87	0.84	1.03	0.99	
	(24) 樹木、生垣などの緑		0.47	0.64	●	0.36	0.55	0.60	0.71	0.96	0.83
	(25) まちの美観やまちなみ		0.31	0.41	0.24	0.30	0.33	0.29	0.61	0.51	
	合計		4.34	5.78	4.53	4.32	4.94	4.94	6.62	6.30	

(注) ◎印は33地区中最も評価点の高いもの  
●印は33地区中最も評価点の低いもの

$$\text{地区別評価点} = \frac{\text{地区別点数合計値}}{\text{地区別回答数}}$$

(単位：点)

生活環境		地区名	上大野 (N=52)	柳河 (N=78)	渡里 (N=260)	吉田 (N=304)	酒門 (N=231)	石川 (N=218)	飯富 (N=77)	国田 (N=66)
衛生	(1) ごみの収集		1.13	0.90	● 0.85	0.95	1.06	1.13	1.14	1.05
	(2) 生活排水（汚水）処理や し尿のくみ取り		0.29	0.38	0.45	0.70	0.47	0.77	◎ 1.26	0.41
	(3) 雨水の水はけ		0.06	-0.08	-0.15	0.00	-0.01	0.10	0.32	0.12
	(4) 水道水の味や出ぐあい		0.58	0.76	0.68	0.59	0.61	0.60	0.71	0.71
	合計		2.06	1.96	1.83	2.24	2.13	2.60	3.43	2.29
安全	(5) 近所の道路の幅や舗装		-0.71	-0.69	-0.41	-0.42	-0.52	-0.55	-0.48	-0.47
	(6) 近所の夜道の照明	●	-1.02	-0.78	-0.77	-0.36	-0.61	-0.50	-0.48	-0.77
	(7) 歩道などの交通安全施設		-1.02	-0.68	-0.74	-0.69	-0.58	-0.76	-0.13	-0.52
	合計		-2.75	-2.15	-1.92	-1.47	-1.71	-1.81	-1.09	-1.76
利便	(8) 子どもの遊び場	●	-1.12	-0.91	-0.76	-0.38	-0.54	-0.48	-0.43	-0.76
	(9) 保育所、幼稚園への通所、 通園		-0.71	● -0.88	0.14	0.25	0.00	0.27	-0.21	-0.18
	(10) 小・中学校への通学		-0.46	-0.55	0.46	0.44	0.13	0.53	0.12	0.03
	(11) 日用品、食料品の買物		-0.27	● -0.83	0.77	0.88	0.68	0.21	-0.55	-0.39
	(12) 勤務先への通勤		0.08	-0.04	0.33	0.51	0.38	0.45	● -0.16	-0.12
	(13) 病院、医院への通院		-0.15	-0.05	0.30	0.43	0.32	0.49	-0.21	● -0.39
	(14) 市民センターや集会所の 利用のしやすさ		-0.13	0.09	0.04	0.22	-0.01	0.18	0.08	0.21
	(15) バスなどの交通機関		-0.85	-1.35	-0.17	-0.21	-0.85	0.20	-0.91	-1.24
	(16) 市役所、出張所などの窓 口サービス		0.27	0.05	0.22	0.28	0.38	0.38	0.16	0.11
合計		-3.34	-4.47	1.33	2.42	0.49	2.23	-2.11	-2.73	
快適	(17) 空気のきれいさ		0.85	0.97	0.75	0.61	0.70	0.79	1.17	◎ 1.20
	(18) 近所の騒音		0.75	0.78	0.65	0.42	0.44	0.70	0.95	◎ 1.02
	(19) 自動車の騒音		0.60	0.35	0.42	0.12	0.16	0.50	0.60	◎ 0.77
	(20) 自動車の排気ガス		0.56	0.50	0.54	0.26	0.32	0.50	◎ 0.87	0.70
	(21) 工場のばい煙、におい		0.94	1.14	1.16	1.06	0.88	1.27	1.22	◎ 1.29
	(22) 近所の下水のにおい		0.58	0.58	0.62	0.73	0.55	0.70	◎ 1.08	0.85
	(23) 日あたり	◎	1.56	1.10	0.91	0.89	0.93	1.02	1.42	1.35
	(24) 樹木、生垣などの緑	◎	1.38	0.90	0.68	0.57	0.90	0.67	1.32	1.27
	(25) まちの美観やまちなみ		0.52	0.46	● 0.24	0.34	0.55	0.31	0.81	0.61
	合計		7.74	6.78	5.97	5.00	5.43	6.46	9.44	9.06

(単位：点)

生活環境		地区名	河和田	上中妻	見川	千波	梅が丘	双葉台	笠原	赤塚
			(N=197)	(N=121)	(N=236)	(N=440)	(N=309)	(N=242)	(N=191)	(N=108)
衛生	(1) ごみの収集		1.01	1.06	1.09	1.04	1.04	1.07	1.03	1.06
	(2) 生活排水(汚水)処理やし尿のくみ取り		0.51	0.57	0.85	1.05	1.03	0.88	0.72	0.92
	(3) 雨水の水はけ		0.11	0.02	0.31	0.15	0.18	◎ 0.56	● -0.20	0.27
	(4) 水道水の味や出ぐあい		0.46	0.62	0.66	0.75	0.64	◎ 0.86	0.53	0.54
	合計		2.09	2.27	2.91	2.99	2.89	3.37	2.08	2.79
安全	(5) 近所の道路の幅や舗装		-0.33	-0.56	-0.21	-0.30	-0.39	◎ 0.13	-0.36	-0.09
	(6) 近所の夜道の照明		-0.55	-0.60	-0.36	-0.45	-0.45	-0.43	-0.50	-0.40
	(7) 歩道などの交通安全施設		-0.52	-0.70	-0.52	-0.48	-0.67	◎ -0.07	-0.48	-0.45
	合計		-1.40	-1.86	-1.09	-1.23	-1.51	-0.37	-1.34	-0.94
利便	(8) 子どもの遊び場		-0.43	-0.53	-0.56	-0.55	-0.69	-0.11	-0.62	-0.44
	(9) 保育所、幼稚園への通所、通園		-0.05	0.04	0.10	0.08	0.23	0.31	0.07	0.36
	(10) 小・中学校への通学		-0.02	-0.10	0.47	0.21	0.32	0.62	0.52	0.65
	(11) 日用品、食料品の買物		0.57	0.40	0.92	0.32	0.99	0.71	◎ 1.02	0.82
	(12) 勤務先への通勤		0.42	0.23	0.70	0.63	0.55	0.46	◎ 0.75	0.41
	(13) 病院、医院への通院		0.55	0.31	0.59	0.53	0.54	◎ 0.86	0.60	0.49
	(14) 市民センターや集会所の利用のしやすさ		0.23	0.07	0.18	-0.06	0.02	◎ 0.57	-0.09	0.16
	(15) バスなどの交通機関		-0.12	-0.62	0.19	-0.20	0.05	-0.40	-0.32	0.18
	(16) 市役所、出張所などの窓口サービス		0.25	0.32	0.26	0.24	0.32	◎ 0.48	0.04	0.34
合計		1.40	0.12	2.85	1.20	2.33	3.50	1.97	2.97	
快適	(17) 空気のきれいさ		0.69	0.97	0.73	0.76	0.75	0.95	0.51	0.58
	(18) 近所の騒音		0.44	0.86	0.45	0.60	0.53	0.84	0.29	0.19
	(19) 自動車の騒音		0.11	0.60	0.39	0.35	0.41	0.72	0.05	0.06
	(20) 自動車の排気ガス		0.22	0.58	0.36	0.37	0.33	0.71	0.07	0.22
	(21) 工場のばい煙、におい		1.06	1.28	1.13	1.20	1.21	1.28	1.12	1.11
	(22) 近所の下水のにおい		0.78	1.05	0.85	1.06	0.98	1.05	0.71	0.69
	(23) 日あたり		1.08	1.26	0.97	0.95	0.93	1.06	0.90	1.05
	(24) 樹木、生垣などの緑		0.92	1.16	0.83	0.96	0.69	1.17	0.70	0.76
	(25) まちの美観やまちなみ		0.46	0.58	0.49	0.55	0.47	0.86	0.34	0.36
	合計		5.76	8.34	6.20	6.80	6.30	8.64	4.69	5.02

(単位：点)

生活環境		地区名	吉沢 (N=178)	堀原 (N=146)	下大野 (N=67)	稲荷第一 (N=96)	稲荷第二 (N=79)	大場 (N=40)	妻里 (N=86)	鯉淵 (N=99)	内原 (N=131)
衛生	(1) ごみの収集		0.95	1.10	0.96	0.93	1.04	1.10	0.90	0.88	0.87
	(2) 生活排水(汚水)処理やし尿のくみ取り		0.55	0.88	0.12	0.27	0.61	0.68	0.10	● -0.03	0.49
	(3) 雨水の水はけ		-0.08	0.22	0.24	0.14	0.22	-0.15	-0.12	0.00	-0.16
	(4) 水道水の味や出ぐあい		0.58	0.85	0.85	0.43	0.58	0.43	0.34	● 0.28	0.37
	合計		2.00	3.05	2.17	1.77	2.45	2.06	1.22	1.13	1.57
安全	(5) 近所の道路の幅や舗装		-0.46	-0.33	-0.43	-0.17	-0.22	● -0.73	-0.28	-0.63	-0.55
	(6) 近所の夜道の照明		-0.53	-0.32	-0.78	-0.64	-0.68	-0.85	-0.62	-0.82	-0.69
	(7) 歩道などの交通安全施設		-0.79	-0.43	-0.75	-0.29	-0.65	● -1.10	-0.42	-0.76	-0.69
	合計		-1.78	-1.08	-1.96	-1.10	-1.55	-2.68	-1.32	-2.21	-1.93
利便	(8) 子どもの遊び場		-0.70	◎ -0.03	-0.99	-0.17	-0.44	-1.05	-0.49	-0.91	-0.39
	(9) 保育所、幼稚園への通所、通園		-0.04	0.40	-0.43	0.17	0.29	-0.65	0.17	-0.21	0.34
	(10) 小・中学校への通学		0.02	◎ 0.76	-0.27	0.40	0.09	● -0.83	0.10	-0.45	0.44
	(11) 日用品、食料品の買物		0.78	0.98	-0.01	0.41	0.90	-0.25	0.58	-0.17	0.77
	(12) 勤務先への通勤		0.49	0.67	0.27	0.18	0.51	-0.13	0.47	0.10	0.68
	(13) 病院、医院への通院		0.48	0.60	-0.15	0.14	0.70	-0.25	0.34	0.05	0.52
	(14) 市民センターや集会所の利用のしやすさ		0.16	0.43	0.22	-0.20	0.38	0.18	0.17	● -0.24	0.14
	(15) バスなどの交通機関		-0.43	0.53	-0.55	-0.40	-0.85	● -1.38	-0.70	-1.05	-0.58
	(16) 市役所、出張所などの窓口サービス		0.28	0.41	0.42	0.19	0.35	0.28	0.15	● 0.00	0.20
	合計		1.04	4.75	-1.49	0.72	1.93	-4.08	0.79	-2.88	2.12
快適	(17) 空気のきれいさ		0.67	0.84	1.07	0.67	0.92	1.03	0.63	0.69	● 0.29
	(18) 近所の騒音		0.62	0.73	0.90	0.30	0.84	0.95	0.74	0.72	0.64
	(19) 自動車の騒音		0.23	0.66	0.40	● -0.06	0.52	0.35	0.50	0.37	0.31
	(20) 自動車の排気ガス		0.34	0.62	0.61	0.29	0.70	0.73	0.67	0.54	0.37
	(21) 工場のばい煙、におい		1.03	1.29	0.99	0.77	1.20	0.93	0.52	0.80	● 0.27
	(22) 近所の下水のにおい		0.62	1.01	0.81	0.63	0.92	0.68	● 0.41	0.67	0.44
	(23) 日あたり		1.06	0.90	1.46	1.09	1.14	0.93	0.99	1.11	1.12
	(24) 樹木、生垣などの緑		0.80	0.75	1.31	0.94	1.28	1.10	1.16	1.23	1.02
	(25) まちの美観やまちなみ		0.40	0.40	0.91	0.53	◎ 0.95	0.28	0.62	0.45	0.37
	合計		5.77	7.20	8.46	5.16	8.47	6.98	6.24	6.58	4.83



地区別に評価点を算出し、衛生、安全、利便、快適の各分野に分けてみたところ、まず、衛生面では「ごみの収集」、「生活排水（汚水）処理やし尿のくみ取り」、「雨水の水はけ」、「水道水の味や出ぐあい」の合計が全地区においてプラス評価されており、総合的に高い評価を受けている分野となっている。

安全面では、「近所の道路の幅や舗装」、「近所の夜道の照明」、「歩道などの交通安全施設」についての合計が全地区においてマイナス評価となっており、全体的に低い評価となっている。

利便性については、まず、「市役所、出張所などの窓口サービス」が全地区でプラス評価となっている。その一方で、9項目中5項目以上でマイナス評価を受けているのが7地区あり、特に、「子どもの遊び場」については全地区でマイナス評価となっている。このような中、双葉台地区では、9項目中3項目で、全地区中最高点となっている。

快適面では、すべての項目が概ね全地区においてプラス評価されており、全体的に高い評価を受けている分野となっている。特に国田地区では、9項目中4項目で全地区中最も高く評価されている。また、9項目中3項目で全地区中最も低く評価された項目があるのが三の丸地区、2項目あるのが内原地区となっている。

各分野を通じて最高評価点の最も多かった地区が双葉台地区で、25項目中7項目で、全地区中の最高評価点を得ており、特に「病院、医院への通院」「市民センターや集会所の利用のしやすさ」等の利便性や、衛生面、安全面の評価が高くなっている。

## 2-7 生活環境の満足度

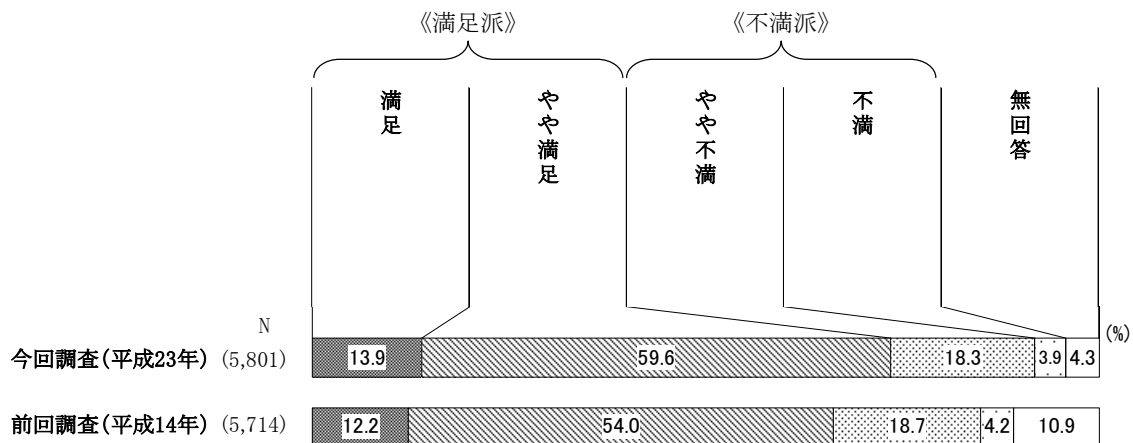
### “満足派”が7割強

問9 あなたは、問8のお答えを総合すると、お住まいの周囲の環境に満足していますか。(○は1つだけ) (N=5,801)

(単位：%)

1 満足 13.9 2 やや満足 59.6 3 やや不満 18.3 4 不満 3.9 無回答 4.3

#### 生活環境の満足度



市民を取り巻く生活環境を総合的にみた満足度をみると、「満足」が13.9%で、これに「やや満足」59.6%を合わせた《満足派》が73.5%を占めている。一方、「やや不満」は18.3%、これに「不満」3.9%を合わせた《不満派》が22.2%となっている。このように《満足派》は、《不満派》の3倍以上となっている。

#### 前回との比較 生活環境の満足度

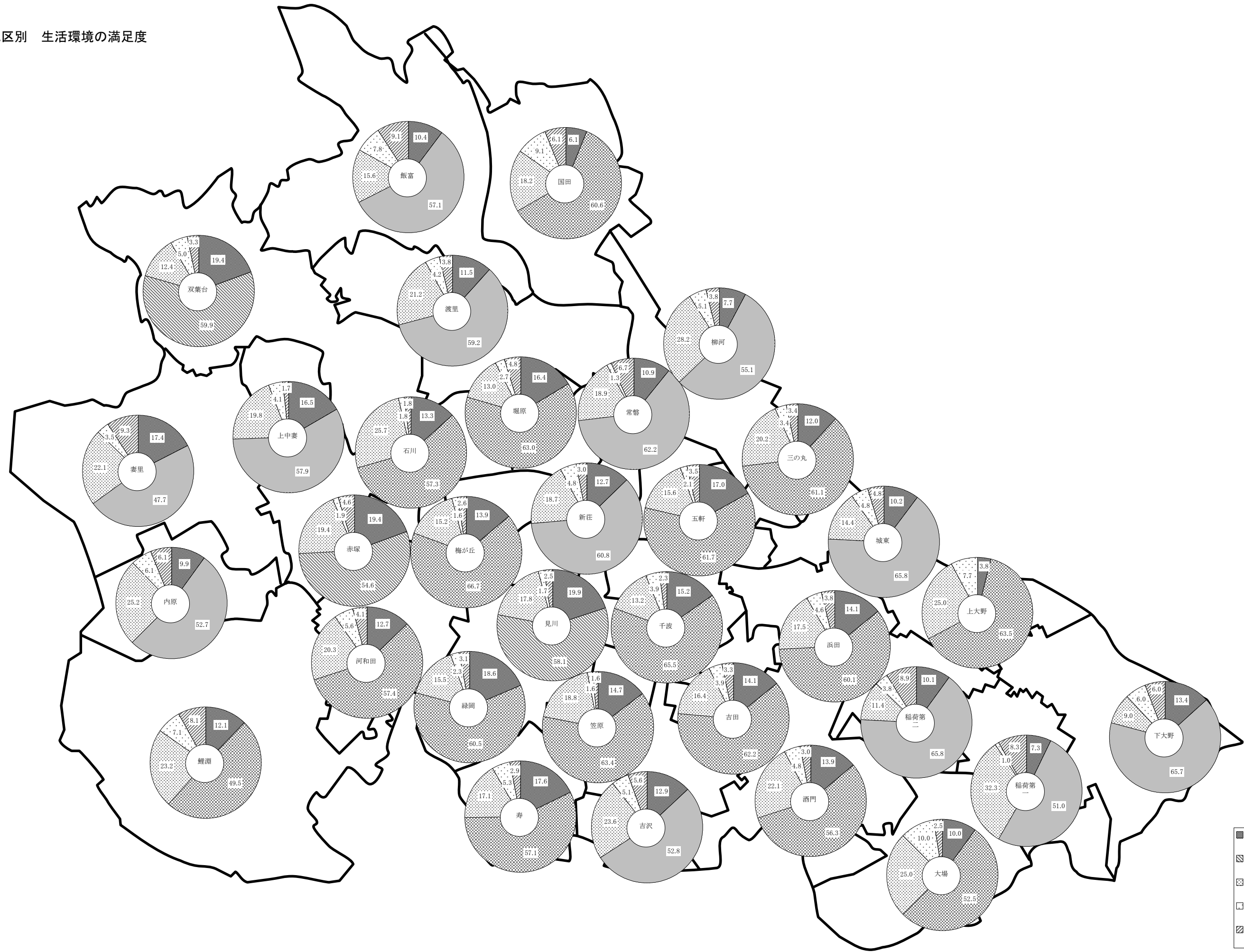
(単位：%)

調査年度	満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
今回調査 (平成23年) (N=5,801)	(13.9)	(59.6)	(18.3)	(3.9)	(4.3)
前回調査 (平成14年) (N=5,714)	(12.2)	(54.0)	(18.7)	(4.2)	(10.9)

前回の調査と比較すると、「満足」「やや満足」とも増加し、《満足派》は約7%増加している。一方、「やや不満」「不満」という《不満派》はほぼ横ばいとなっている。

地区別でみると、「満足」と「やや満足」を合わせた《満足派》は、千波地区で80.7%と最も多く、次いで梅が丘地区80.6%、堀原地区79.4%となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた《不満派》は、大場地区で35.0%と最も多く、次いで稲荷第一地区33.3%となっており、全体として生活環境に対する評価は都市部で高くなる傾向があらわれている。

地区別 生活環境の満足度



■ 満足  
 ▨ やや満足  
 ▩ やや不満  
 □ 不満  
 ▤ 無回答

(単位: %)



2-8 施設整備の地域要望  
生活基盤面での整備要望が高い

問10 あなたがお住まいの地区で、すぐにも整備をしてもらいたいと思う施設は何ですか。  
次の中から**整備してほしい順に3つまで**選んで、その番号を下記の回答欄に記入してください。(N=5,801) M.A.

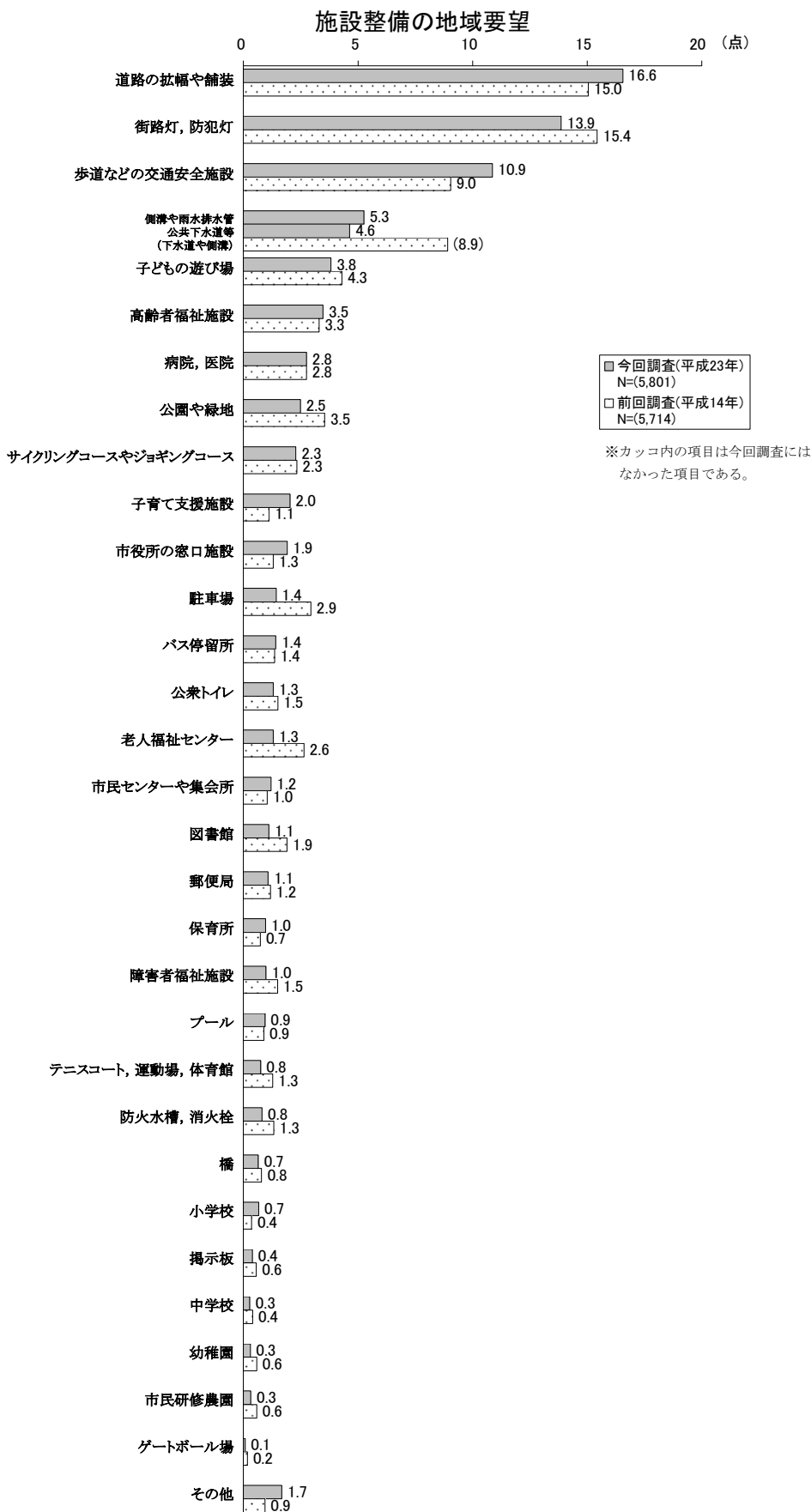
(単位：%)

1 道路の拡幅や舗装 26.5, 7.3, 5.2	2 橋 0.8, 0.6, 0.4	3 公共下水道等(生活排水処理) 6.6, 3.4, 1.2
4 側溝や雨水排水管 5.3, 6.4, 2.8	5 街路灯, 防犯灯 15.5, 14.9, 6.7	6 歩道などの交通安全施設 11.0, 12.0, 8.2
7 小学校 0.7, 0.7, 0.6	8 中学校 0.3, 0.2, 0.3	9 幼稚園 0.4, 0.3, 0.2
10 保育所 0.9, 1.1, 0.9	11 公園や緑地 1.8, 3.1, 3.3	12 子どもの遊び場 2.8, 4.9, 4.8
13 プール 0.8, 1.1, 1.2	14 サイクリングコースやジョギングコース 1.1, 3.2, 3.8	15 ゲートボール場 0.0, 0.1, 0.2
16 テニスコート, 運動場, 体育館 0.5, 1.0, 1.2	17 市民センターや集会所 1.1, 1.4, 1.3	18 図書館 0.8, 1.3, 1.5
19 子育て支援施設 1.2, 2.8, 3.1	20 郵便局 0.7, 1.4, 1.7	21 市民研修農園 0.1, 0.4, 0.8
22 駐車場 1.0, 1.8, 2.1	23 バス停留所 0.9, 1.7, 2.4	24 公衆トイレ 0.6, 1.7, 2.7
25 防火水槽, 消火栓 0.4, 1.1, 1.5	26 掲示板 0.1, 0.5, 1.1	27 病院, 医院 2.2, 3.1, 3.7
28 老人福祉センター 0.6, 1.7, 2.5	29 高齢者福祉施設(特別養護老人ホーム, デイサービスセンター等) 2.2, 3.5, 7.5	30 障害者福祉施設(デイサービスセンター, 授産施設等) 0.7, 0.9, 2.0
31 市役所の窓口施設 1.3, 1.8, 4.1	32 その他 2.2, 1.0, 1.4	無回答 9.1, 13.6, 19.6

※各項目の数値は、左から第1位、第2位、第3位の%の値

各地域で整備要望の高い施設についてたずねた。要望の順位が第1位から第3位までを点数化し、各施設の要望得点を表した。

$$\blacksquare \text{ 要望得点} = \frac{\text{「第1位」} \times 3 \text{点} + \text{「第2位」} \times 2 \text{点} + \text{「第3位」} \times 1 \text{点}}{\text{回答数} \times 6 \text{点}} \times 100$$



要望得点でみると、「道路の拡幅や舗装」に対する要望が16.6点で最も高く、次いで「街路灯，防犯灯」13.9点，「歩道などの交通安全施設」10.9点となっており，「生活環境の評価」で評価の低かった項目が上位となっている。市民の施設整備に対する要望は生活基盤面が特に強くなっており，「今後優先させるべき施策」の要望と対応する結果となっている。

### 前回との比較 施設整備の地域要望

(単位：点)

区分 \ 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年) (N=5,801)	道路の拡幅や舗装 (16.6)	街路灯，防犯灯 (13.9)	歩道などの交通安全施設 (10.9)	側溝や雨水排水管 (5.3)	公共下水道等 (4.6)
前回調査 (平成14年) (N=5,714)	街路灯，防犯灯 (15.4)	道路の拡幅や舗装 (15.0)	歩道などの交通安全施設 (9.0)	下水道や側溝 (8.9)	子どもの遊び場 (4.3)

前回調査と比較すると，上位項目について大きな差はない。

### 性別 施設整備への地域要望

(単位：点)

区分 \ 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=2,509)	道路の拡幅や舗装 (17.6)	街路灯，防犯灯 (12.4)	歩道などの交通安全施設 (10.7)	側溝や雨水排水管 (5.6)	公共下水道等 (4.8)
女性 (N=3,204)	道路の拡幅や舗装 (15.9)	街路灯，防犯灯 (15.1)	歩道などの交通安全施設 (11.1)	側溝や雨水排水管 (5.1)	公共下水道等 (4.5)

性別による大きな差はなく，施設整備に対する地域要望は，ほぼ一致している。

## 年齢別 施設整備への地域要望

(単位：点)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		街路灯, 防犯灯 (18.5)	道路の拡幅や舗装 (18.1)	歩道などの交通安全施設 (10.4)	公園や緑地 (5.4)	側溝や雨水排水管 (3.9)
20～29歳 (N=496)		道路の拡幅や舗装 (19.9)	街路灯, 防犯灯 (17.7)	歩道などの交通安全施設 (11.5)	子どもの遊び場 (4.9)	側溝や雨水排水管 (4.1)
30～39歳 (N=856)		道路の拡幅や舗装 (15.9)	街路灯, 防犯灯 (14.9)	歩道などの交通安全施設 (12.7)	子どもの遊び場 (8.8)	側溝や雨水排水管 (4.5)
40～49歳 (N=952)		道路の拡幅や舗装 (18.4)	街路灯, 防犯灯 (17.2)	歩道などの交通安全施設 (12.2)	側溝や雨水排水管 (5.1)	公共下水道等 (4.1)
50～59歳 (N=951)		道路の拡幅や舗装 (18.1)	街路灯, 防犯灯 (15.8)	歩道などの交通安全施設 (10.4)	側溝や雨水排水管 (5.9)	公共下水道等 (5.4)
60～69歳 (N=1,163)		道路の拡幅や舗装 (16.6)	街路灯, 防犯灯 (12.1)	歩道などの交通安全施設 (10.0)	公共下水道等 (6.3)	側溝や雨水排水管 (6.2)
70歳以上 (N=1,211)		道路の拡幅や舗装 (13.3)	歩道などの交通安全施設 (9.8)	街路灯, 防犯灯 (9.1)	高齢者福祉施設 (6.0)	側溝や雨水排水管 (5.2)

年齢別で見ると、ほぼすべての年齢層で、「道路の拡幅や舗装」「歩道などの交通安全施設」「街路灯, 防犯灯」が上位項目を占めており、要望の強さがうかがわれる。また、70歳以上では「高齢者福祉施設」への要望が、また、20～30歳代において「子どもの遊び場」への要望が、他の年代より高くなっている。



地区別 施設整備への地域要望

(単位：点)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸	(N=208)	道路の拡幅や舗装 (17.0)	街路灯, 防犯灯 (14.4)	歩道などの交通安全施設 (9.5)	側溝や雨水排水管 (5.2)	子どもの遊び場 (4.6)
五軒	(N=141)	道路の拡幅や舗装 (16.0)	街路灯, 防犯灯 (13.2)	歩道などの交通安全施設 (11.7)	高齢者福祉施設 (5.7)	病院, 医院 (5.2)
新荘	(N=166)	道路の拡幅や舗装 (16.5)	街路灯, 防犯灯 (13.5)	歩道などの交通安全施設 (11.0)	病院, 医院 (7.5)	子どもの遊び場 (4.5)
城東	(N=187)	道路の拡幅や舗装 (14.2)	街路灯, 防犯灯 (13.7)	歩道などの交通安全施設 (11.3)	高齢者福祉施設 (4.8)	市役所の窓口施設 (3.3)
浜田	(N=263)	道路の拡幅や舗装 (19.0)	街路灯, 防犯灯 (13.2)	側溝や雨水排水管 (8.9)	歩道などの交通安全施設 (8.4)	公共下水道等 (5.4)
常磐	(N=238)	道路の拡幅や舗装 (15.9)	歩道などの交通安全施設 (13.9)	街路灯, 防犯灯 (13.0)	子どもの遊び場 (5.3)	側溝や雨水排水管 (4.3)
緑岡	(N=258)	道路の拡幅や舗装 (17.8)	街路灯, 防犯灯 (12.6)	歩道などの交通安全施設 (12.5)	公共下水道等 (5.3)	側溝や雨水排水管 (4.8)
寿	(N=170)	道路の拡幅や舗装 (17.3)	街路灯, 防犯灯 (13.5)	歩道などの交通安全施設 (10.4)	側溝や雨水排水管 (6.3)	子どもの遊び場 (4.8)
上大野	(N=52)	公共下水道等 (14.4)	道路の拡幅や舗装 (14.1)	街路灯, 防犯灯 (10.6)	高齢者福祉施設 (6.4)	側溝や雨水排水管／市民センターや集会所 (6.1)
柳河	(N=78)	道路の拡幅や舗装／街路灯, 防犯灯 (13.7)		公共下水道等 (11.3)	歩道などの交通安全施設 (8.3)	側溝や雨水排水管 (5.6)
渡里	(N=260)	道路の拡幅や舗装 (16.7)	街路灯, 防犯灯 (15.0)	歩道などの交通安全施設 (10.4)	公共下水道等 (6.5)	側溝や雨水排水管 (5.8)
吉田	(N=304)	道路の拡幅や舗装 (18.3)	歩道などの交通安全施設 (16.2)	街路灯, 防犯灯 (11.3)	側溝や雨水排水管 (5.9)	公共下水道等／高齢者福祉施設 (3.7)
酒門	(N=231)	道路の拡幅や舗装 (18.0)	街路灯, 防犯灯 (13.2)	公共下水道等 (8.7)	歩道などの交通安全施設 (7.3)	側溝や雨水排水管 (5.7)
石川	(N=218)	道路の拡幅や舗装 (18.9)	街路灯, 防犯灯 (13.9)	歩道などの交通安全施設 (13.2)	側溝や雨水排水管 (4.4)	高齢者福祉施設 (4.1)
飯富	(N=77)	道路の拡幅や舗装 (19.0)	病院, 医院 (8.9)	街路灯, 防犯灯 (8.4)	歩道などの交通安全施設 (5.2)	橋 (4.3)
国田	(N=66)	道路の拡幅や舗装 (21.5)	街路灯, 防犯灯 (15.7)	公共下水道等 (12.4)	橋 (6.3)	歩道などの交通安全施設 (4.8)
河和田	(N=197)	道路の拡幅や舗装 (14.8)	街路灯, 防犯灯 (13.5)	歩道などの交通安全施設 (8.9)	公共下水道等 (7.7)	側溝や雨水排水管 (5.8)
上中妻	(N=121)	道路の拡幅や舗装 (20.4)	街路灯, 防犯灯 (12.5)	歩道などの交通安全施設 (8.7)	公共下水道等 (6.7)	高齢者福祉施設 (3.7)
見川	(N=236)	道路の拡幅や舗装 (15.8)	街路灯, 防犯灯 (13.8)	歩道などの交通安全施設 (12.0)	側溝や雨水排水管 (5.4)	子どもの遊び場 (4.1)
千波	(N=440)	道路の拡幅や舗装 (17.1)	街路灯, 防犯灯 (15.0)	歩道などの交通安全施設 (10.9)	側溝や雨水排水管 (6.1)	子どもの遊び場 (4.5)
梅が丘	(N=309)	道路の拡幅や舗装 (16.4)	歩道などの交通安全施設 (15.9)	街路灯, 防犯灯 (13.5)	子どもの遊び場 (5.8)	公園や緑地 (4.0)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
双葉台	(N=242)	街路灯, 防犯灯 (18.7)	道路の拡幅や舗装 (10.7)	歩道などの交通安全施設 (7.9)	高齢者福祉施設 (5.2)	公共下水道等 (4.5)
笠原	(N=191)	街路灯, 防犯灯 (14.2)	道路の拡幅や舗装 (13.0)	歩道などの交通安全施設 (11.3)	側溝や雨水排水管 (9.2)	子どもの遊び場 (5.8)
赤塚	(N=108)	道路の拡幅や舗装 (16.7)	街路灯, 防犯灯 (15.0)	歩道などの交通安全施設 (11.4)	駐車場 (6.0)	サイクリングコースや ジョギングコース (4.5)
吉沢	(N=178)	道路の拡幅や舗装 (15.5)	歩道などの交通安全施設 (15.4)	街路灯, 防犯灯 (11.5)	側溝や雨水排水管 (7.8)	公共下水道等 (6.6)
堀原	(N=146)	道路の拡幅や舗装 (19.7)	街路灯, 防犯灯 (13.7)	歩道などの交通安全施設 (11.8)	側溝や雨水排水管 (6.8)	高齢者福祉施設 (3.8)
下大野	(N=67)	道路の拡幅や舗装 (17.4)	街路灯, 防犯灯 (13.2)	公共下水道等 (6.7)	歩道などの交通安全施設 (5.7)	側溝や雨水排水管 (4.5)
稲荷第一	(N=96)	街路灯, 防犯灯 (16.1)	道路の拡幅や舗装 (11.5)	公共下水道等 (10.9)	歩道などの交通安全施設 (5.4)	側溝や雨水排水管 (4.5)
稲荷第二	(N=79)	街路灯, 防犯灯 (17.3)	道路の拡幅や舗装 (13.3)	歩道などの交通安全施設 (9.7)	公共下水道等 (5.9)	側溝や雨水排水管 (5.5)
大場	(N=40)	道路の拡幅や舗装 (24.6)	街路灯, 防犯灯 (15.4)	側溝や雨水排水管 (10.4)	歩道などの交通安全施設 (9.6)	公共下水道等 (8.8)
妻里	(N=86)	街路灯, 防犯灯 (15.9)	道路の拡幅や舗装 (14.7)	公共下水道等 (8.9)	側溝や雨水排水管 (6.2)	歩道などの交通安全施設 (5.8)
鯉淵	(N=99)	道路の拡幅や舗装 (20.2)	街路灯, 防犯灯 (15.8)	歩道などの交通安全施設 (12.5)	公共下水道等 (12.0)	側溝や雨水排水管 (5.1)
内原	(N=131)	道路の拡幅や舗装 (18.2)	街路灯, 防犯灯 (15.3)	歩道などの交通安全施設 (9.7)	公共下水道等 (8.8)	側溝や雨水排水管 (7.1)

地区別でみると、全体として、「道路の拡幅や舗装」、「街路灯, 防犯灯」、「歩道などの交通安全施設」が上位を占めている。特に、33地区中27地区で「道路の拡幅や舗装」が第1位となっているほか、6地区で「街路灯, 防犯灯」が最も高くなっている。

「生活環境の評価」の低かった項目については、各地区とも、施設整備への要望が強くなっており、相関関係があることがわかる。

また、新莊地区、飯富地区では「病院, 医院」の施設要望が高くなっていることが特徴的である。

### 3 主要課題

#### 3-1 水戸市の魅力ある資産

##### 3-1-1 水戸市の魅力ある資産

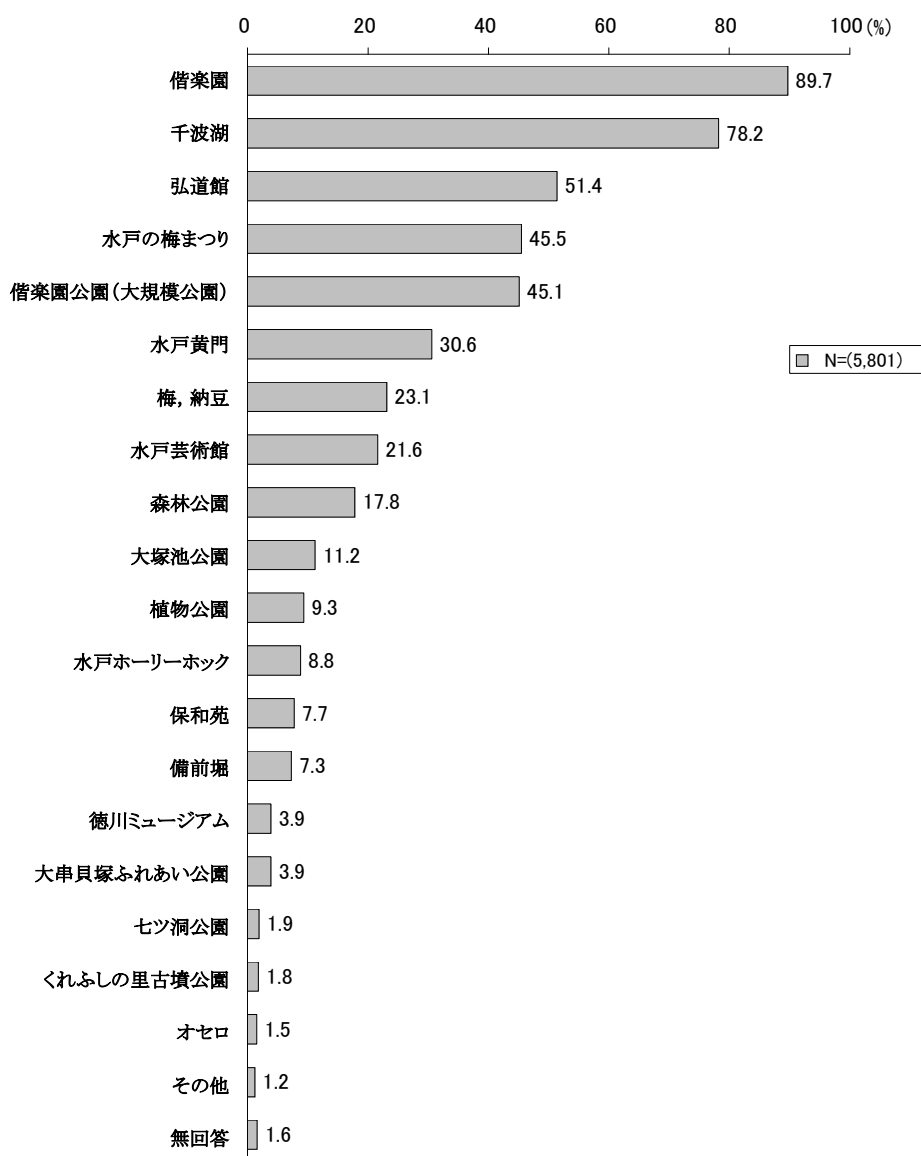
大切に思うものの上位は「偕楽園」「千波湖」

問11 あなたは、水戸のまちの中で、市民として大切に思うもの、10年後、20年後の次の世代に残していきたいものはありますか。(〇は5つまで) (N=5,801) M. A.

(単位：%)

1	偕楽園	89.7	2	弘道館	51.4	3	徳川ミュージアム	3.9
4	水戸芸術館	21.6	5	千波湖	78.2	6	備前堀	7.3
7	偕楽園公園(大規模公園)	45.1	8	大塚池公園	11.2	9	植物公園	9.3
10	森林公園	17.8	11	保和苑	7.7	12	大串貝塚ふれあい公園	3.9
13	くれふしの里古墳公園	1.8	14	七ツ洞公園	1.9	15	水戸の梅まつり	45.5
16	水戸黄門	30.6	17	水戸ホーリーホック	8.8	18	梅, 納豆	23.1
19	オセロ	1.5	20	その他	1.2		無回答	1.6

水戸市の魅力ある資産



水戸市の魅力ある資産についてたずねたところ、「偕楽園」が89.7%で最も多く、以下「千波湖」78.2%、「弘道館」51.4%、「水戸の梅まつり」45.5%、「偕楽園公園（大規模公園）」45.1%の順で続いている。水戸市の魅力ある資産としては、「偕楽園」と「千波湖」が際立った存在であることがわかる。

### 性別 水戸市の魅力ある資産

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		偕楽園 (88.2)	千波湖 (77.2)	弘道館 (54.4)	偕楽園公園（大規模公園） (46.8)	水戸の梅まつり (42.1)
(N=2,509)						
女性		偕楽園 (91.3)	千波湖 (79.4)	弘道館 (49.3)	水戸の梅まつり (48.2)	偕楽園公園（大規模公園） (44.2)
(N=3,204)						

性別で見ると、ほとんど男女差はなく男女とも「偕楽園」が最も多く、次いで「千波湖」、「弘道館」の順となっている。

### 年齢別 水戸市の魅力ある資産

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		偕楽園 (83.3)	千波湖 (77.8)	弘道館／水戸黄門 (42.2)		水戸の梅まつり (40.0)
(N=90)						
20～29歳		偕楽園 (88.5)	千波湖 (73.6)	水戸の梅まつり (46.8)	水戸黄門 (41.5)	偕楽園公園（大規模公園） (38.5)
(N=496)						
30～39歳		偕楽園 (91.8)	千波湖 (81.7)	偕楽園公園（大規模公園） (46.6)	水戸の梅まつり (46.5)	水戸黄門 (36.3)
(N=856)						
40～49歳		偕楽園 (93.0)	千波湖 (79.7)	弘道館 (48.6)	偕楽園公園（大規模公園） (46.6)	水戸の梅まつり (44.2)
(N=952)						
50～59歳		偕楽園 (90.3)	千波湖 (81.4)	弘道館 (57.5)	偕楽園公園（大規模公園） (43.3)	水戸の梅まつり (42.8)
(N=951)						
60～69歳		偕楽園 (89.3)	千波湖 (79.1)	弘道館 (58.0)	偕楽園公園（大規模公園） (48.4)	水戸の梅まつり (46.9)
(N=1,163)						
70歳以上		偕楽園 (87.4)	千波湖 (74.1)	弘道館 (62.6)	水戸の梅まつり (46.7)	偕楽園公園（大規模公園） (45.7)
(N=1,211)						

年齢別で見ると、すべての年齢層で、「偕楽園」が最も多く、次いで「千波湖」となっており、両項目とも比率も極めて高い。また、30歳代では、「偕楽園公園（大規模公園）」が第3位となっているが、40歳代以上では「弘道館」が第3位となっている。こうしたことから、あらゆる世代にとって、「偕楽園」と「千波湖」の二つの資産が魅力のあるものとして映っていることがわかる。

地区別 水戸市の魅力ある資産

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸 (N=208)		偕楽園 (93.3)	千波湖 (80.8)	弘道館 (75.0)	水戸の梅まつり (45.7)	偕楽園公園 (大規模公園) (41.8)
五軒 (N=141)		偕楽園 (90.8)	千波湖 (81.6)	弘道館 (65.2)	水戸の梅まつり (46.8)	偕楽園公園 (大規模公園) (43.3)
新荘 (N=166)		偕楽園 (88.6)	千波湖 (73.5)	弘道館 (57.2)	偕楽園公園 (大規模公園) (51.8)	水戸の梅まつり (42.2)
城東 (N=187)		偕楽園 (86.1)	千波湖 (74.3)	弘道館 (55.6)	水戸の梅まつり (45.5)	偕楽園公園 (大規模公園) (42.2)
浜田 (N=263)		偕楽園 (89.7)	千波湖 (79.8)	弘道館 (59.7)	水戸の梅まつり (45.2)	偕楽園公園 (大規模公園) (39.2)
常磐 (N=238)		偕楽園 (90.8)	千波湖 (69.7)	弘道館 (57.1)	偕楽園公園 (大規模公園) (42.0)	水戸の梅まつり (39.1)
緑岡 (N=258)		偕楽園 (86.8)	千波湖 (85.3)	偕楽園公園 (大規模公園) (60.1)	水戸の梅まつり (50.4)	弘道館 (45.0)
寿 (N=170)		偕楽園 (91.8)	千波湖 (80.0)	水戸の梅まつり (50.6)	弘道館 (48.8)	偕楽園公園 (大規模公園) (40.6)
上大野 (N=52)		偕楽園 (92.3)	千波湖 (75.0)	偕楽園公園 (大規模公園) / 水戸の梅まつり (48.1)		弘道館 (46.2)
柳河 (N=78)		偕楽園 (87.2)	千波湖 (78.2)	弘道館 (67.9)	水戸の梅まつり (48.7)	偕楽園公園 (大規模公園) (34.6)
渡里 (N=260)		偕楽園 (88.8)	千波湖 (76.2)	弘道館 (50.0)	水戸の梅まつり (41.9)	偕楽園公園 (大規模公園) (40.8)
吉田 (N=304)		偕楽園 (91.8)	千波湖 (82.6)	偕楽園公園 (大規模公園) (53.6)	弘道館 (50.0)	水戸の梅まつり (45.7)
酒門 (N=231)		偕楽園 (93.1)	千波湖 (83.5)	偕楽園公園 (大規模公園) (45.0)	水戸の梅まつり (43.7)	弘道館 (43.3)
石川 (N=218)		偕楽園 (93.6)	千波湖 (76.6)	弘道館 (46.8)	水戸の梅まつり (46.3)	偕楽園公園 (大規模公園) (40.8)
飯富 (N=77)		偕楽園 (87.0)	千波湖 (70.1)	弘道館 (51.9)	水戸の梅まつり (46.8)	水戸黄門 (37.7)
国田 (N=66)		偕楽園 (87.9)	千波湖 (63.6)	弘道館 / 水戸の梅まつり (53.0)		水戸黄門 (39.4)
河和田 (N=197)		偕楽園 (88.8)	千波湖 (78.2)	弘道館 (49.7)	水戸の梅まつり (44.7)	偕楽園公園 (大規模公園) (39.1)
上中妻 (N=121)		偕楽園 (82.6)	千波湖 (65.3)	大塚池公園 (61.2)	弘道館 (47.1)	水戸の梅まつり (39.7)
見川 (N=236)		偕楽園 (92.8)	千波湖 (78.0)	偕楽園公園 (大規模公園) (59.3)	弘道館 (48.7)	水戸の梅まつり (43.6)
千波 (N=440)		偕楽園 (90.5)	千波湖 (87.0)	弘道館 (56.1)	偕楽園公園 (大規模公園) (49.8)	水戸の梅まつり (47.3)
梅が丘 (N=309)		偕楽園 (87.4)	千波湖 (76.4)	偕楽園公園 (大規模公園) (53.1)	水戸の梅まつり (48.5)	弘道館 (45.0)
双葉台 (N=242)		偕楽園 (88.8)	千波湖 (71.5)	弘道館 (49.6)	水戸の梅まつり (44.6)	偕楽園公園 (大規模公園) (40.9)
笠原 (N=191)		偕楽園 (92.7)	千波湖 (87.4)	弘道館 / 偕楽園公園 (大規模公園) (50.3)		水戸の梅まつり (49.7)
赤塚 (N=108)		偕楽園 (93.5)	千波湖 (83.3)	水戸の梅まつり (50.9)	偕楽園公園 (大規模公園) (46.3)	弘道館 (44.4)
吉沢 (N=178)		偕楽園 (93.3)	千波湖 (83.1)	弘道館 (50.6)	偕楽園公園 (大規模公園) (48.3)	水戸の梅まつり (46.6)
堀原 (N=146)		偕楽園 (90.4)	千波湖 (75.3)	弘道館 (51.4)	水戸の梅まつり (43.8)	偕楽園公園 (大規模公園) (41.8)
下大野 (N=67)		偕楽園 (88.1)	千波湖 (80.6)	弘道館 (49.3)	大串貝塚ふれあい公園 (40.3)	偕楽園公園 (大規模公園) (37.3)
稲荷第一 (N=96)		偕楽園 (86.5)	千波湖 (81.3)	大串貝塚ふれあい公園 (41.7)	弘道館 / 偕楽園公園 (大規模公園) (35.4)	
稲荷第二 (N=79)		偕楽園 (89.9)	千波湖 (87.3)	弘道館 (51.9)	水戸の梅まつり (44.3)	偕楽園公園 (大規模公園) (36.7)
大場 (N=40)		偕楽園 (85.0)	千波湖 (80.0)	弘道館 (60.0)	水戸の梅まつり (50.0)	大串貝塚ふれあい公園 (45.0)
妻里 (N=86)		偕楽園 (87.2)	千波湖 (66.3)	偕楽園公園 (大規模公園) (44.2)	弘道館 (43.0)	水戸の梅まつり (37.2)
鯉淵 (N=99)		偕楽園 (86.9)	千波湖 (71.7)	偕楽園公園 (大規模公園) / 水戸の梅まつり (48.5)		弘道館 (46.5)
内原 (N=131)		偕楽園 (86.3)	千波湖 (69.5)	水戸の梅まつり (46.6)	弘道館 (43.5)	偕楽園公園 (大規模公園) (42.7)

地区別で見ると、すべての地区で「偕楽園」が最も多く、次いで「千波湖」となっており、両項目とも比率も極めて高い。第3位は、地区によって異なり、「弘道館」と「偕楽園公園（大規模公園）」が多くなっている。また、上中妻地区では「大塚池公園」が、下大野地区、稲荷第一地区、大場地区では「大串貝塚ふれあい公園」の比率が高くなっており、身近な地域の資産を大切なものと感じているのが特徴的である。

### 3-2 中心市街地活性化

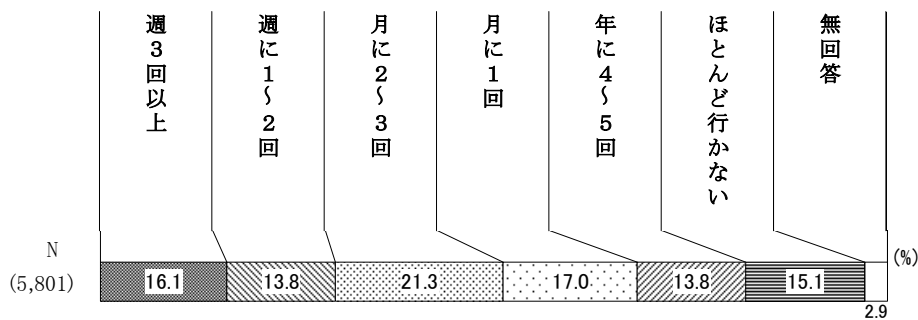
#### 3-2-1 中心市街地への来訪頻度

##### 月に1回以上が約7割

問12 あなたは、中心市街地にどれくらい出かけていますか。(○は1つだけ)(中心市街地にお住まいの方は、区域内に出かける場合を想定してお答えください。)(N=5,801)  
(単位：%)

1 週3回以上	16.1	2 週に1~2回	13.8	3 月に2~3回	21.3	4 月に1回	17.0
5 年に4~5回	13.8	6 ほとんど行かない	15.1	7 無回答	2.9		

中心市街地への来訪頻度



中心市街地に出かける頻度をたずねたところ、「月に2~3回」が21.3%と最も多く、以下「月に1回」17.0%、「週3回以上」16.1%の順で続いている。一方、「ほとんど行かない」は15.1%となっている。

性別 中心市街地への来訪頻度

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		月に2~3回 (20.8)	月に1回 (17.0)	週3回以上 (16.5)	ほとんど行かない (15.7)	年に4~5回 (14.3)
女性		月に2~3回 (21.8)	月に1回 (17.1)	週3回以上 (16.0)	ほとんど行かない (14.8)	週に1~2回 (14.1)

性別で見ると、ほとんど男女差はなく、男女とも「月に2~3回」がやや高くなっているほかは、回答傾向は分散している。

年齢別 中心市街地への来訪頻度

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		週3回以上 (41.1)	月に2～3回 (22.2)	週に1～2回 (12.2)	ほとんど行かない (11.1)	月に1回 (8.9)
20～29歳 (N=496)		月に2～3回 (24.0)	週3回以上 (23.6)	週に1～2回 (15.5)	月に1回 (13.3)	ほとんど行かない (12.3)
30～39歳 (N=856)		月に2～3回 (21.4)	月に1回 (19.4)	週3回以上 (18.5)	週に1～2回 (14.5)	ほとんど行かない (13.3)
40～49歳 (N=952)		月に2～3回 (19.6)	週3回以上 (19.0)	月に1回 (17.0)	年に4～5回 (15.8)	週に1～2回 (14.6)
50～59歳 (N=951)		月に2～3回 (20.7)	週3回以上 (18.5)	ほとんど行かない (16.6)	月に1回 (15.6)	年に4～5回 (14.3)
60～69歳 (N=1,163)		月に2～3回 (21.2)	月に1回 (18.7)	年に4～5回 (17.4)	ほとんど行かない (15.4)	週に1～2回 (13.1)
70歳以上 (N=1,211)		月に2～3回 (22.1)	ほとんど行かない (18.5)	月に1回 (17.1)	週に1～2回 (13.5)	年に4～5回 (12.1)

年齢別で見ると、20歳未満では「週3回以上」が41.1%と多くなっているが、20歳代から50歳代は2割前後となっている。また、すべての年齢層を通じて、「月に2～3回」が2割前後を占め、他の回数よりもやや多くなっている。



地区別 中心市街地への来訪頻度

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸 (N=208)		週3回以上 (53.4)	週に1～2回 (18.8)	月に2～3回 (12.5)	月に1回 (7.2)	ほとんど行かない (3.4)
五軒 (N=141)		週3回以上 (46.8)	週に1～2回 (27.0)	月に2～3回 (12.8)	ほとんど行かない (5.0)	月に1回 (3.5)
新荘 (N=166)		週3回以上 (28.9)	週に1～2回 (25.3)	月に2～3回 (18.1)	月に1回 (12.7)	年に4～5回 (7.2)
城東 (N=187)		週3回以上 (20.3)	月に2～3回 (19.8)	週に1～2回 (18.2)	月に1回 (16.6)	ほとんど行かない (12.8)
浜田 (N=263)		月に2～3回 (22.4)	月に1回 (19.4)	週に1～2回 (16.0)	ほとんど行かない (14.1)	週3回以上 (13.3)
常磐 (N=238)		月に2～3回 (24.4)	週3回以上 (23.1)	週に1～2回 (19.3)	月に1回 (11.8)	ほとんど行かない (9.7)
緑岡 (N=258)		月に2～3回／月に1回 (20.9)	週に1～2回 (15.5)	ほとんど行かない (15.1)	年に4～5回 (14.3)	週に1～2回 (9.4)
寿 (N=170)		ほとんど行かない (25.9)	年に4～5回 (22.9)	月に1回 (18.2)	月に2～3回 (15.9)	週に1～2回 (9.4)
上大野 (N=52)		月に2～3回 (32.7)	年に4～5回 (19.2)	週に1～2回 (17.3)	ほとんど行かない (13.5)	月に1回 (7.7)
柳河 (N=78)		月に2～3回 (29.5)	週3回以上 (20.5)	週に1～2回 (17.9)	月に1回 (12.8)	年に4～5回 (10.3)
渡里 (N=260)		月に2～3回 (23.5)	月に1回 (21.2)	ほとんど行かない (15.0)	年に4～5回 (13.8)	週に1～2回 (12.3)
吉田 (N=304)		月に2～3回 (21.4)	月に1回／年に4～5回 (16.1)	週3回以上／週に1～2回 (14.5)		
酒門 (N=231)		月に1回 (20.8)	月に2～3回 (19.5)	年に4～5回／ほとんど行かない (17.3)	週3回以上 (12.1)	
石川 (N=218)		月に2～3回 (23.4)	月に1回 (21.6)	年に4～5回 (16.5)	週3回以上／ほとんど行かない (13.3)	
飯富 (N=77)		月に2～3回 (24.7)	月に1回 (23.4)	ほとんど行かない (15.6)	年に4～5回 (11.7)	週3回以上／週に1～2回 (10.4)
国田 (N=66)		月に2～3回 (22.7)	週3回以上 (19.7)	週に1～2回／年に4～5回 (15.2)	月に1回 (13.6)	
河和田 (N=197)		年に4～5回 (20.8)	月に1回 (20.3)	月に2～3回 (18.3)	ほとんど行かない (17.3)	週に1～2回 (11.7)
上中妻 (N=121)		ほとんど行かない (25.6)	月に1回 (19.8)	月に2～3回 (19.0)	年に4～5回 (16.5)	週3回以上 (9.1)
見川 (N=236)		月に2～3回 (29.2)	月に1回 (16.5)	週3回以上 (14.4)	週に1～2回／ほとんど行かない (13.1)	
千波 (N=440)		月に2～3回 (24.8)	週3回以上 (21.8)	週に1～2回 (15.2)	月に1回 (14.8)	ほとんど行かない (13.6)
梅が丘 (N=309)		月に2～3回 (23.9)	月に1回 (22.0)	ほとんど行かない (15.2)	週に1～2回 (14.2)	年に4～5回 (11.0)
双葉台 (N=242)		ほとんど行かない (24.8)	月に2～3回 (20.7)	年に4～5回 (20.2)	月に1回 (16.5)	週に1～2回 (8.7)
笠原 (N=191)		月に2～3回 (19.9)	月に1回 (19.4)	年に4～5回／ほとんど行かない (15.7)	週に1～2回 (14.7)	
赤塚 (N=108)		ほとんど行かない (22.2)	月に2～3回 (19.4)	月に1回／年に4～5回 (16.7)	週3回以上 (13.9)	
吉沢 (N=178)		月に2～3回 (21.3)	年に4～5回 (20.2)	月に1回 (19.7)	ほとんど行かない (16.9)	週3回以上 (10.1)
堀原 (N=146)		月に1回 (20.5)	月に2～3回 (19.9)	週3回以上 (19.2)	年に4～5回 (15.8)	週に1～2回／ほとんど行かない (11.6)
下大野 (N=67)		月に2～3回 (26.9)	ほとんど行かない (16.4)	月に1回／年に4～5回 (14.9)	週3回以上 (11.9)	
稲荷第一 (N=96)		月に2～3回 (25.0)	年に4～5回 (20.8)	ほとんど行かない (17.7)	週に1～2回 (12.5)	週3回以上 (11.5)
稲荷第二 (N=79)		月に2～3回 (30.4)	週3回以上 (15.2)	月に1回 (13.9)	年に4～5回 (12.7)	ほとんど行かない (11.4)
大場 (N=40)		年に4～5回 (35.0)	月に2～3回 (17.5)	月に1回 (15.0)	週3回以上／ほとんど行かない (12.5)	
妻里 (N=86)		ほとんど行かない (33.7)	月に1回 (20.9)	年に4～5回 (15.1)	月に2～3回 (14.0)	週に1～2回 (8.1)
鯉淵 (N=99)		ほとんど行かない (27.3)	月に1回 (21.2)	年に4～5回 (20.2)	月に2～3回 (10.1)	週3回以上 (9.1)
内原 (N=131)		年に4～5回／ほとんど行かない (20.6)	月に2～3回 (19.1)	月に1回 (18.3)	週3回以上 (10.7)	

地区別でみると、中心市街地に位置する三の丸地区では「週3回以上」が53.4%、次いで五軒地区が46.8%となっており、この2地区の中心市街地への外出頻度は際立って多くなっている。この2地区の他では、新莊地区、城東地区、常磐地区、柳河地区、千波地区で、「週3回以上」が2割を超えて、他の地区よりやや多くなっている。また、上大野地区、柳河地区、見川地区、稲荷第二地区では「月に2～3回」が3割前後を占め、他の地区よりやや高くなっている。

一方で、寿地区、上中妻地区、双葉台地区、大場地区、妻里地区、鯉淵地区、内原地区では、「年に4～5回」と「ほとんど行かない」の合計が約4割前後を占める結果となっている。

### 3-2-2 中心市街地への来訪目的

#### 主な来訪目的は「買い物」「飲食」

(問12で1～4のいずれかをお答えの方)

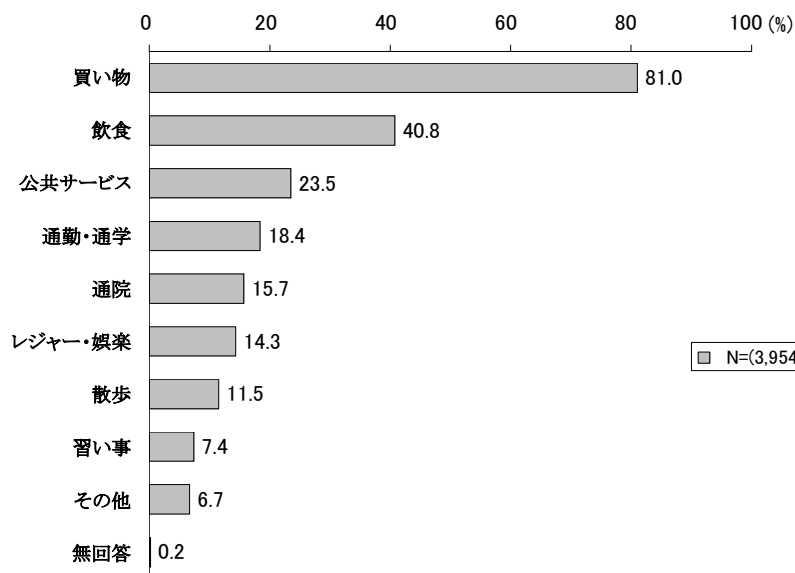
問12-1 中心市街地に出かける目的は、主にどのようなことですか。(○は3つまで)

(N=3,954) M. A.

(単位：%)

1 買い物	81.0	2 飲食	40.8	3 通勤・通学	18.4
4 レジャー・娯楽	14.3	5 通院	15.7	6 習い事(英会話など)	7.4
7 公共サービス(官公庁, 金融機関など)	23.5	8 散歩	11.5	9 その他	6.7
無回答	0.2				

中心市街地への来訪目的



中心市街地に出かける理由をたずねたところ、「買い物」が81.0%で最も多く、以下「飲食」40.8%、「公共サービス」23.5%、「通勤・通学」18.4%、「通院」15.7%の順となっている。出かける理由としては、買い物や飲食が上位を占めている。

性別 中心市街地への来訪目的

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=1,702)		買い物 (74.1)	飲食 (42.4)	公共サービス (25.7)	通勤・通学 (19.7)	レジャー・娯楽 (15.9)
女性 (N=2,209)		買い物 (86.1)	飲食 (39.5)	公共サービス (21.9)	通勤・通学 (17.7)	通院 (15.7)

性別で見ると、男女とも「買い物」が最も多く、次いで「飲食」「公共サービス」「通勤・通学」の順となっており、中心市街地への外出は、主に買い物や飲食、公共サービスの利用のためであることがわかる。

### 年齢別 中心市街地への来訪目的

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		買い物 (73.7)	通勤・通学 (43.4)	飲食 (32.9)	レジャー・娯楽 (22.4)	習い事／散歩 (7.9)
(N=76)						
20～29歳		買い物 (83.4)	飲食 (47.8)	通勤・通学 (29.3)	レジャー・娯楽 (25.3)	公共サービス (12.1)
(N=379)						
30～39歳		買い物 (79.7)	飲食 (44.7)	通勤・通学 (24.1)	レジャー・娯楽 (16.3)	公共サービス (15.2)
(N=631)						
40～49歳		買い物 (77.4)	飲食 (39.5)	通勤・通学 (25.1)	公共サービス (15.4)	レジャー・娯楽 (12.0)
(N=669)						
50～59歳		買い物 (81.4)	飲食 (44.6)	公共サービス (24.8)	通勤・通学 (23.0)	レジャー・娯楽 (11.5)
(N=644)						
60～69歳		買い物 (81.6)	飲食 (42.5)	公共サービス (32.1)	通院／散歩 (15.5)	
(N=748)						
70歳以上		買い物 (83.4)	通院 (38.6)	公共サービス (36.0)	飲食 (31.0)	散歩 (16.8)
(N=767)						

年齢別で見ると、すべての年齢層を通じて、「買い物」が第1位を占め、20歳代から60歳代では「飲食」が第2位を占めているが、70歳以上では「通院」が第2位となっている。また、20歳代から40歳代では「通勤・通学」が第3位となっているが、50歳代以上の各年齢層では「公共サービス」が第3位となっており、年齢による相違があらわれている。

地区別 中心市街地への来訪目的

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸 (N=191)	買い物	(88.5)	飲食 (45.0)	散歩 (26.7)	公共サービス (25.7)	通勤・通学 (25.1)
五軒 (N=127)	買い物	(89.8)	飲食 (37.0)	公共サービス (33.9)	通勤・通学 (27.6)	通院 (24.4)
新荘 (N=141)	買い物	(87.9)	飲食 (39.7)	公共サービス (25.5)	散歩 (24.1)	通勤・通学 (19.1)
城東 (N=140)	買い物	(82.9)	飲食 (45.0)	通勤・通学 (23.6)	公共サービス (20.0)	通院/散歩 (13.6)
浜田 (N=187)	買い物	(83.4)	飲食 (47.1)	公共サービス (23.0)	レジャー・娯楽 (19.8)	通勤・通学 (15.5)
常磐 (N=187)	買い物	(79.1)	飲食 (42.2)	通勤・通学 (25.1)	公共サービス (21.4)	レジャー・娯楽 (12.8)
緑岡 (N=176)	買い物	(80.7)	飲食 (37.5)	公共サービス (25.0)	通勤・通学 (16.5)	レジャー・娯楽 (15.9)
寿 (N=86)	買い物	(74.4)	飲食 (34.9)	レジャー・娯楽 (19.8)	通院 (15.1)	公共サービス (14.0)
上大野 (N=33)	買い物	(87.9)	飲食 (45.5)	公共サービス (27.3)	レジャー・娯楽 (21.2)	習い事 (15.2)
柳河 (N=63)	買い物	(84.1)	飲食 (34.9)	公共サービス (30.2)	通勤・通学 (19.0)	レジャー・娯楽 (14.3)
渡里 (N=177)	買い物	(75.7)	飲食 (43.5)	公共サービス (27.1)	通院 (17.5)	レジャー・娯楽 (14.7)
吉田 (N=202)	買い物	(80.2)	飲食 (37.1)	公共サービス (22.3)	通勤・通学 (20.8)	通院 (15.3)
酒門 (N=146)	買い物	(80.1)	飲食 (41.8)	公共サービス (21.9)	通院 (17.8)	通勤・通学 (16.4)
石川 (N=151)	買い物	(74.8)	飲食 (40.4)	公共サービス (24.5)	通勤・通学 (17.9)	レジャー・娯楽 (16.6)
飯富 (N=53)	買い物	(83.0)	飲食 (32.1)	公共サービス (30.2)	通院 (24.5)	通勤・通学 (13.2)
国田 (N=47)	買い物	(76.6)	通院 (38.3)	飲食 (27.7)	通勤・通学 (25.5)	公共サービス (21.3)
河和田 (N=117)	買い物	(79.5)	飲食 (36.8)	公共サービス (26.5)	レジャー・娯楽 (17.1)	通勤・通学 (14.5)
上中妻 (N=65)	買い物	(70.8)	飲食 (40.0)	公共サービス (26.2)	レジャー・娯楽 (16.9)	通勤・通学 (10.8)
見川 (N=173)	買い物	(86.7)	飲食 (42.8)	公共サービス (24.3)	通勤・通学 (18.5)	通院 (17.9)
千波 (N=337)	買い物	(80.7)	飲食 (41.2)	通勤・通学 (24.0)	公共サービス (22.3)	レジャー・娯楽 (16.6)
梅が丘 (N=219)	買い物	(80.8)	飲食 (41.6)	公共サービス (21.5)	通勤・通学 (16.9)	レジャー・娯楽 (16.4)
双葉台 (N=130)	買い物	(76.9)	飲食 (36.2)	公共サービス (25.4)	レジャー・娯楽 (15.4)	通勤・通学 (13.8)
笠原 (N=130)	買い物	(78.5)	飲食 (33.1)	公共サービス (25.4)	レジャー・娯楽 (20.8)	通勤・通学 (20.0)
赤塚 (N=64)	買い物	(85.9)	飲食 (51.6)	通勤・通学 (26.6)	公共サービス (21.9)	通院 (17.2)
吉沢 (N=108)	買い物	(85.2)	飲食 (40.7)	公共サービス (22.2)	レジャー・娯楽 (17.6)	通勤・通学 (15.7)
堀原 (N=104)	買い物	(73.1)	飲食 (43.3)	公共サービス (24.0)	通勤・通学 (19.2)	通院 (17.3)
下大野 (N=43)	買い物	(86.0)	飲食 (37.2)	通院 (30.2)	公共サービス (23.3)	レジャー・娯楽 (20.9)
稲荷第一 (N=56)	買い物	(83.9)	飲食 (42.9)	通院 (28.6)	レジャー・娯楽/公共サービス (16.1)	
稲荷第二 (N=55)	買い物	(78.2)	飲食 (40.0)	通院 (20.0)	通勤・通学/公共サービス (16.4)	
大場 (N=20)	買い物	(75.0)	飲食 (45.0)	公共サービス (30.0)	通院 (20.0)	通勤・通学/レジャー・娯楽/習い事 (10.0)
妻里 (N=40)	買い物	(80.0)	飲食 (40.0)	レジャー・娯楽/通院 (17.5)		習い事/公共サービス/散歩 (10.0)
鯉淵 (N=48)	買い物	(68.8)	飲食 (39.6)	公共サービス (22.9)	通院 (20.8)	散歩 (14.6)
内原 (N=72)	買い物	(79.2)	飲食 (52.8)	公共サービス (25.0)	レジャー・娯楽 (19.4)	通勤・通学 (15.3)

地区別でみると、すべての地区で「買い物」が最も多く、次いでほとんどの地区で「飲食」となっているが、国田地区は「通院」が第2位となっている。また、第3位は、「通勤・通学」「公共サービス」という地区が多くなっているが、三の丸地区では「散歩」が、寿地区、妻里地区では「レジャー・娯楽」が、下大野地区、稲荷第一地区、稲荷第二地区、妻里地区では「通院」が第3位となっており、地域の特徴があらわれている。

### 3-2-3 中心市街地に行かない理由

#### 「魅力ある店舗」を求める声強い

(問12で「5年に4～5回」、または「6ほとんど行かない」とお答えの方)

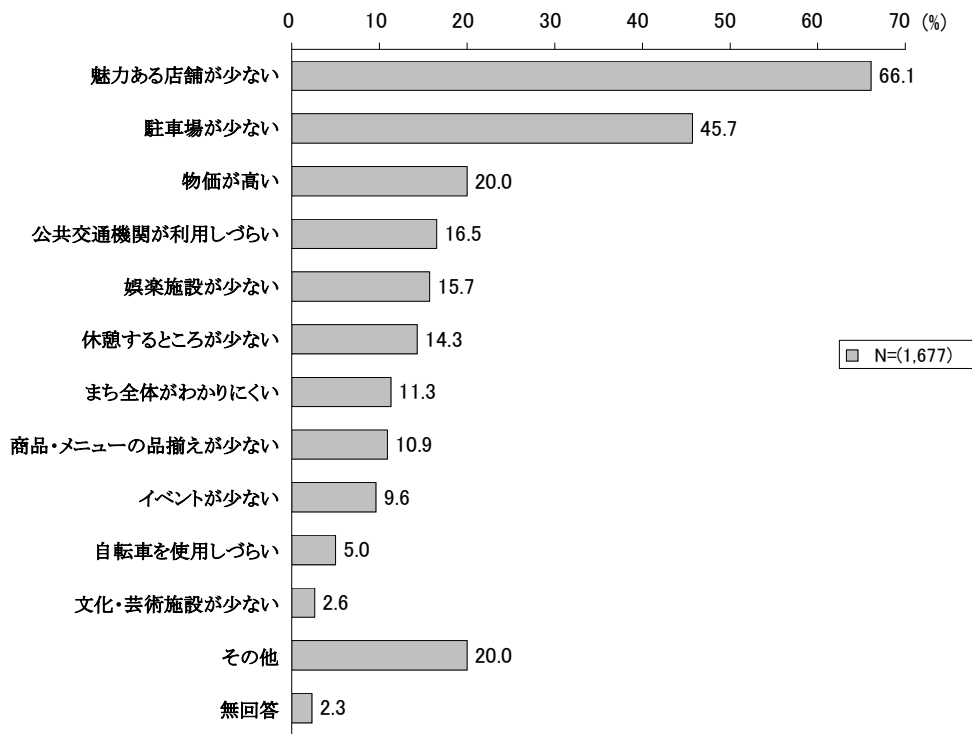
問12-2 中心市街地に行かない理由は、主にどのようなことですか。(○は3つまで)

(N=1,677) M. A.

(単位：%)

1	魅力ある店舗が少ない	66.1	2	商品・メニューの品揃えが少ない	10.9	3	物価が高い	20.0
4	娯楽施設が少ない	15.7	5	文化・芸術施設が少ない	2.6	6	休憩するところが少ない	14.3
7	駐車場が少ない	45.7	8	公共交通機関が利用しづらい	16.5	9	自転車を使用しづらい	5.0
10	イベントが少ない	9.6	11	まち全体がわかりにくい	11.3	12	その他	20.0
	無回答	2.3						

中心市街地に行かない理由



中心市街地に行かない理由をたずねたところ、「魅力ある店舗が少ない」が66.1%で最も多く、以下「駐車場が少ない」45.7%、「物価が高い」20.0%、「公共交通機関が利用しづらい」16.5%、「娯楽施設が少ない」15.7%、「休憩するところが少ない」14.3%の順で続いている。行かない理由としては、魅力ある店舗の乏しさや利便性の悪さが、上位を占めている。

### 性別 中心市街地に行かない理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	娯楽施設が少ない	公共交通機関が利用しづらい	休憩するところが少ない
(N=751)		(67.2)	(47.0)	(18.5)	(15.8)	(15.0)
女性		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	物価が高い	公共交通機関が利用しづらい	娯楽施設が少ない
(N=906)		(65.6)	(45.1)	(25.8)	(17.2)	(13.6)

性別でみると、男女とも「魅力ある店舗が少ない」が最も多く、次いで「駐車場が少ない」となっているが、女性では「物価が高い」が25.8%で第3位となっているのが特徴的である。

### 年齢別 中心市街地に行かない理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		魅力ある店舗が少ない／駐車場が少ない		娯楽施設が少ない	まち全体がわかりにくい	物価が高い
(N=12)			(41.7)	(33.3)	(25.0)	(16.7)
20～29歳		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	娯楽施設が少ない	公共交通機関が利用しづらい	まち全体がわかりにくい
(N=110)		(67.3)	(52.7)	(33.6)	(16.4)	(14.5)
30～39歳		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	娯楽施設が少ない	物価が高い	商品・メニューの品揃えが少ない
(N=219)		(72.6)	(50.2)	(23.3)	(18.3)	(17.4)
40～49歳		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	娯楽施設が少ない	物価が高い	商品・メニューの品揃えが少ない
(N=271)		(74.9)	(46.5)	(22.1)	(20.7)	(14.4)
50～59歳		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	物価が高い	公共交通機関が利用しづらい	商品・メニューの品揃えが少ない
(N=294)		(76.2)	(49.3)	(23.8)	(16.3)	(15.3)
60～69歳		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	物価が高い	公共交通機関が利用しづらい	休憩するところが少ない
(N=381)		(68.0)	(50.4)	(21.5)	(18.1)	(16.8)
70歳以上		魅力ある店舗が少ない	駐車場が少ない	休憩するところが少ない	公共交通機関が利用しづらい	物価が高い
(N=371)		(47.2)	(34.0)	(24.8)	(20.2)	(18.9)

年齢別でみると、すべての年齢層を通じて「魅力ある店舗が少ない」と「駐車場が少ない」が上位を占めており、中心市街地への外出に消極的な主な理由には大きな年齢差はないことがわかる。ただし、第3位には、20歳未満から40歳代では「娯楽施設が少ない」が、50歳代から60歳代では「物価が高い」が、70歳以上では「休憩するところが少ない」が挙げられている。



地区別 中心市街地に行かない理由

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸 (N=11)		魅力ある店舗が少ない (63.6)	商品・メニューの品揃えが少ない/物価が高い/駐車場が少ない/公共交通機関が利用しづらい/イベントが少ない/まち全体がわかりにくい (18.2)			
五軒 (N=8)		魅力ある店舗が少ない (62.5)	駐車場が少ない (37.5)	物価が高い (25.0)	商品・メニューの品揃えが少ない/娯楽施設が少ない/文化・芸術施設が少ない/休憩するところが少ない/自転車を使用しづらい (12.5)	
新荘 (N=23)		魅力ある店舗が少ない (60.9)	駐車場が少ない (52.2)	娯楽施設が少ない (30.4)	物価が高い (26.1)	商品・メニューの品揃えが少ない/自転車を使用しづらい (17.4)
城東 (N=43)		魅力ある店舗が少ない (67.4)	駐車場が少ない (41.9)	物価が高い/娯楽施設が少ない (23.3)		商品・メニューの品揃えが少ない (18.6)
浜田 (N=70)		魅力ある店舗が少ない (70.0)	駐車場が少ない (38.6)	物価が高い (20.0)	公共交通機関が利用しづらい (17.1)	娯楽施設が少ない (15.7)
常磐 (N=41)		魅力ある店舗が少ない (82.9)	駐車場が少ない (51.2)	物価が高い (19.5)	商品・メニューの品揃えが少ない/娯楽施設が少ない (17.1)	
緑岡 (N=76)		魅力ある店舗が少ない (76.3)	駐車場が少ない (42.1)	物価が高い/娯楽施設が少ない (18.4)		休憩するところが少ない/まち全体がわかりにくい (14.5)
寿 (N=83)		魅力ある店舗が少ない (75.9)	駐車場が少ない (48.2)	物価が高い (21.7)	公共交通機関が利用しづらい (14.5)	娯楽施設が少ない (13.3)
上大野 (N=17)		魅力ある店舗が少ない (47.1)	物価が高い/駐車場が少ない (41.2)		商品・メニューの品揃えが少ない/まち全体がわかりにくい (23.5)	
柳河 (N=12)		魅力ある店舗が少ない (58.3)	駐車場が少ない/公共交通機関が利用しづらい (25.0)		物価が高い/自転車を使用しづらい (16.7)	
渡里 (N=75)		魅力ある店舗が少ない (68.0)	駐車場が少ない (40.0)	娯楽施設が少ない (21.3)	物価が高い/休憩するところが少ない/公共交通機関が利用しづらい/まち全体がわかりにくい (14.7)	
吉田 (N=89)		魅力ある店舗が少ない (70.8)	駐車場が少ない (50.6)	娯楽施設が少ない (24.7)	物価が高い (20.2)	商品・メニューの品揃えが少ない/公共交通機関が利用しづらい (12.4)
酒門 (N=80)		魅力ある店舗が少ない (67.5)	駐車場が少ない (58.8)	物価が高い (20.0)	休憩するところが少ない/公共交通機関が利用しづらい (18.8)	
石川 (N=65)		魅力ある店舗が少ない (73.8)	駐車場が少ない (33.8)	物価が高い (29.2)	休憩するところが少ない (23.1)	イベントが少ない (21.5)
飯富 (N=21)		魅力ある店舗が少ない (76.2)	駐車場が少ない (57.1)	休憩するところが少ない (38.1)	まち全体がわかりにくい (28.6)	公共交通機関が利用しづらい (23.8)
国田 (N=18)		魅力ある店舗が少ない (55.6)	駐車場が少ない (38.9)	公共交通機関が利用しづらい (33.3)	物価が高い/まち全体がわかりにくい (16.7)	
河和田 (N=75)		魅力ある店舗が少ない (62.7)	駐車場が少ない (40.0)	物価が高い (26.7)	公共交通機関が利用しづらい (24.0)	休憩するところが少ない (21.3)
上中妻 (N=51)		魅力ある店舗が少ない (62.7)	駐車場が少ない (56.9)	公共交通機関が利用しづらい (23.5)	まち全体がわかりにくい (17.6)	物価が高い/娯楽施設が少ない/イベントが少ない (15.7)
見川 (N=59)		魅力ある店舗が少ない (74.6)	駐車場が少ない (47.5)	物価が高い (28.8)	商品・メニューの品揃えが少ない (15.3)	休憩するところが少ない (13.6)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
千波	(N=93)	魅力ある店舗が少ない (69.9)	駐車場が少ない (38.7)	公共交通機関が利用しづらい (24.7)	娯楽施設が少ない (17.2)	商品・メニューの品揃えが少ない (15.1)
梅が丘	(N=81)	魅力ある店舗が少ない (74.1)	駐車場が少ない (43.2)	娯楽施設が少ない (17.3)	商品・メニューの品揃えが少ない／公共交通機関が利用しづらい (16.0)	
双葉台	(N=109)	魅力ある店舗が少ない (61.5)	駐車場が少ない (50.5)	物価が高い／公共交通機関が利用しづらい (22.0)		休憩するところが少ない (18.3)
笠原	(N=60)	魅力ある店舗が少ない (71.7)	駐車場が少ない (56.7)	物価が高い／公共交通機関が利用しづらい (20.0)		休憩するところが少ない (15.0)
赤塚	(N=42)	魅力ある店舗が少ない (59.5)	駐車場が少ない (33.3)	物価が高い／娯楽施設が少ない (23.8)		公共交通機関が利用しづらい／まち全体がわかりにくい (16.7)
吉沢	(N=66)	魅力ある店舗が少ない (66.7)	駐車場が少ない (53.0)	物価が高い (22.7)	公共交通機関が利用しづらい (18.2)	商品・メニューの品揃えが少ない (15.2)
堀原	(N=40)	魅力ある店舗が少ない (55.0)	駐車場が少ない (40.0)	休憩するところが少ない (27.5)	物価が高い (15.0)	娯楽施設が少ない／自転車を使用しづらい (12.5)
下大野	(N=21)	魅力ある店舗が少ない／駐車場が少ない (61.9)		公共交通機関が利用しづらい (23.8)	商品・メニューの品揃えが少ない／物価が高い／まち全体がわかりにくい (19.0)	
稲荷第一	(N=37)	魅力ある店舗が少ない (62.2)	駐車場が少ない (51.4)	娯楽施設が少ない (21.6)	休憩するところが少ない (18.9)	物価が高い (16.2)
稲荷第二	(N=19)	駐車場が少ない (73.7)	魅力ある店舗が少ない (57.9)	物価が高い (15.8)	商品・メニューの品揃えが少ない／公共交通機関が利用しづらい (10.5)	
大場	(N=19)	魅力ある店舗が少ない (68.4)	駐車場が少ない (42.1)	物価が高い (36.8)	娯楽施設が少ない (31.6)	公共交通機関が利用しづらい (26.3)
妻里	(N=42)	駐車場が少ない (42.9)	魅力ある店舗が少ない (38.1)	公共交通機関が利用しづらい (26.2)	休憩するところが少ない／まち全体がわかりにくい (19.0)	
鯉淵	(N=47)	魅力ある店舗が少ない／駐車場が少ない (46.8)		まち全体がわかりにくい (29.8)	公共交通機関が利用しづらい (25.5)	物価が高い (23.4)
内原	(N=54)	魅力ある店舗が少ない (53.7)	駐車場が少ない (48.1)	物価が高い (18.5)	まち全体がわかりにくい (11.1)	商品・メニューの品揃えが少ない／休憩するところが少ない (9.3)

地区別でみると、すべての地区で、「魅力ある店舗が少ない」と「駐車場が少ない」が上位を占めている。また、三の丸地区、柳河地区、国田地区、上中妻地区、千波地区、双葉台地区、笠原地区、下大野地区、妻里地区では、「公共交通機関が利用しづらい」が第2位又は第3位に挙げられており、利便性の悪さが大きな理由となっていることがわかる。さらに、多くの地区で「物価が高い」が第3位となっている。

### 3-3 子育て支援

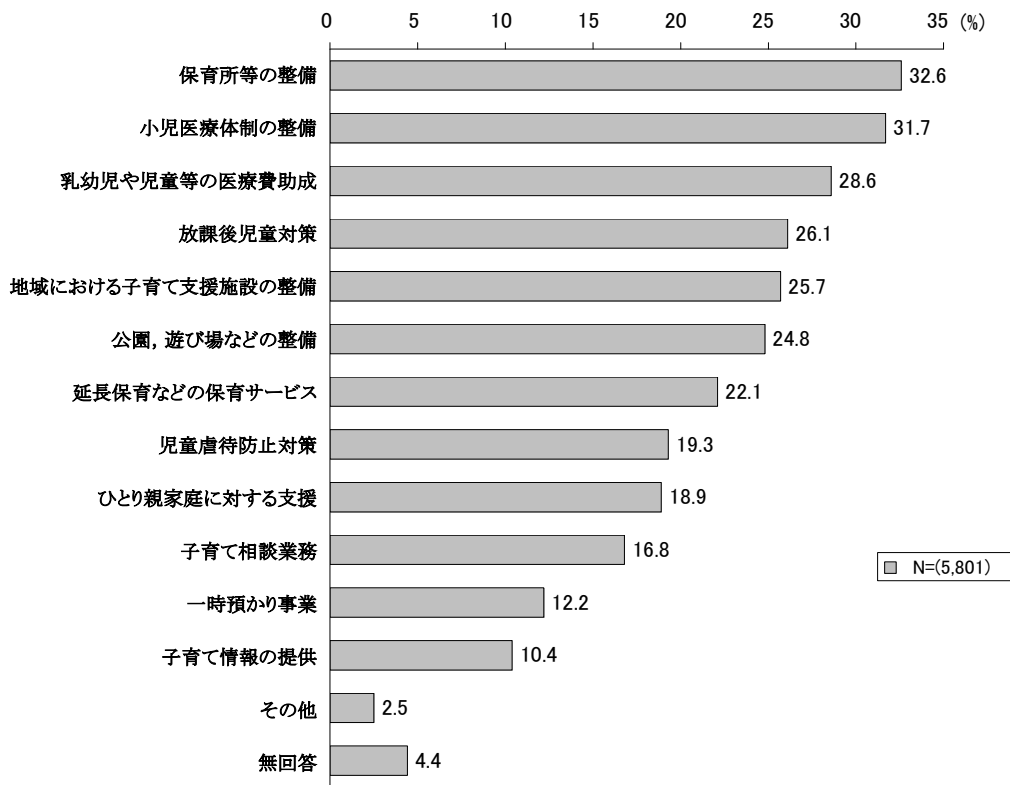
#### 3-3-1 子育て支援施策への要望

保育サービスから医療体制まで、幅広い取組が求められている

問13 あなたは、次代を担う子どもたちを健やかに育てられるように、どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで) (N=5,801) M.A.

			(単位：%)
1	子育て相談業務	16.8	
2	乳幼児や児童等の医療費助成	28.6	3
3	保育所等の整備	32.6	
4	ひとり親家庭に対する支援	18.9	5
5	延長保育などの保育サービス	22.1	6
6	地域における子育て支援施設の整備	25.7	
7	公園、遊び場などの整備	24.8	8
8	児童虐待防止対策	19.3	9
9	一時預かり事業	12.2	
10	子育て情報の提供	10.4	11
11	小児医療体制の整備	31.7	12
12	放課後児童対策(学童クラブ, 開放学級等)	26.1	
13	その他	2.5	
	無回答	4.4	

子育て支援施策への要望



次代を担う子どもたちを健やかに育てられるようにするために力を入れた方が良いことをたずねたところ「保育所等の整備」が32.6%で最も多く、以下「小児医療体制の整備」31.7%、「乳幼児や児童等の医療費助成」28.6%、「放課後児童対策」26.1%、「地域における子育て支援施設の整備」25.7%、「公園、遊び場などの整備」24.8%の順で続いている。このように、保育サービスのみならず、経済的支援から医療の整備まで、幅広い取組が求められていることがわかる。

性・年齢別 子育て支援施策への要望

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳未満 (N=44)	児童虐待防止対策 (38.6)	ひとり親家庭に対する支援 (34.1)	公園、遊び場などの整備 (29.5)	放課後児童対策 (25.0)	保育所等の整備 (22.7)
	20～29歳 (N=218)	保育所等の整備 (34.4)	公園、遊び場などの整備 (32.1)	乳幼児や児童等の医療費助成 (26.1)	小児医療体制の整備 (25.2)	児童虐待防止対策 (24.8)
	30～39歳 (N=345)	乳幼児や児童等の医療費助成 (42.9)	公園、遊び場などの整備 (33.6)	小児医療体制の整備 (32.8)	保育所等の整備 (30.4)	放課後児童対策 (26.4)
	40～49歳 (N=368)	小児医療体制の整備 (37.2)	乳幼児や児童等の医療費助成 (31.8)	公園、遊び場などの整備 (28.0)	放課後児童対策 (27.4)	延長保育などの保育サービス (26.1)
	50～59歳 (N=434)	保育所等の整備 (41.0)	小児医療体制の整備 (34.6)	地域における子育て支援施設の整備 (26.3)	乳幼児や児童等の医療費助成 (24.4)	延長保育などの保育サービス／放課後児童対策 (23.5)
	60～69歳 (N=528)	保育所等の整備 (40.7)	地域における子育て支援施設の整備 (34.3)	小児医療体制の整備 (31.4)	乳幼児や児童等の医療費助成 (27.5)	放課後児童対策 (25.0)
	70歳以上 (N=572)	保育所等の整備 (37.4)	小児医療体制の整備 (30.6)	地域における子育て支援施設の整備 (29.7)	公園、遊び場などの整備 (24.8)	ひとり親家庭に対する支援 (23.3)
女性	20歳未満 (N=46)	乳幼児や児童等の医療費助成 (37.0)	公園、遊び場などの整備 (32.6)	保育所等の整備／児童虐待防止対策 (30.4)		延長保育などの保育サービス／小児医療体制の整備 (28.3)
	20～29歳 (N=278)	乳幼児や児童等の医療費助成 (39.9)	保育所等の整備 (33.8)	小児医療体制の整備 (32.7)	公園、遊び場などの整備 (26.3)	地域における子育て支援施設の整備 (24.5)
	30～39歳 (N=510)	乳幼児や児童等の医療費助成 (42.0)	公園、遊び場などの整備 (34.7)	小児医療体制の整備 (33.9)	保育所等の整備 (31.0)	放課後児童対策 (30.2)
	40～49歳 (N=583)	小児医療体制の整備 (33.8)	放課後児童対策 (33.6)	乳幼児や児童等の医療費助成 (30.5)	公園、遊び場などの整備 (30.2)	地域における子育て支援施設の整備 (24.0)
	50～59歳 (N=516)	小児医療体制の整備 (36.6)	保育所等の整備 (36.2)	地域における子育て支援施設の整備／放課後児童対策 (29.8)		延長保育などの保育サービス (25.4)
	60～69歳 (N=635)	保育所等の整備 (31.2)	小児医療体制の整備 (29.9)	放課後児童対策 (29.6)	地域における子育て支援施設の整備 (26.5)	乳幼児や児童等の医療費助成 (25.8)
	70歳以上 (N=634)	保育所等の整備 (30.9)	小児医療体制の整備 (25.2)	放課後児童対策 (24.8)	児童虐待防止対策 (23.0)	地域における子育て支援施設の整備 (22.9)

性・年齢別でみると、男女とも多くの年齢層において、「保育所等の整備」、「乳幼児や児童等の医療費助成」、「小児医療体制の整備」が上位を占めている。男性では、30歳代から40歳代で、女性では20歳未満から50歳代で、「乳幼児や児童等の医療費助成」や「小児医療体制の整備」といった医療面への要望が高くなっている。また、男性の20歳代、30歳代、女性の20歳未満、30歳代では「公園、遊び場などの整備」が第2位を占め、他の年代より多くなっている。

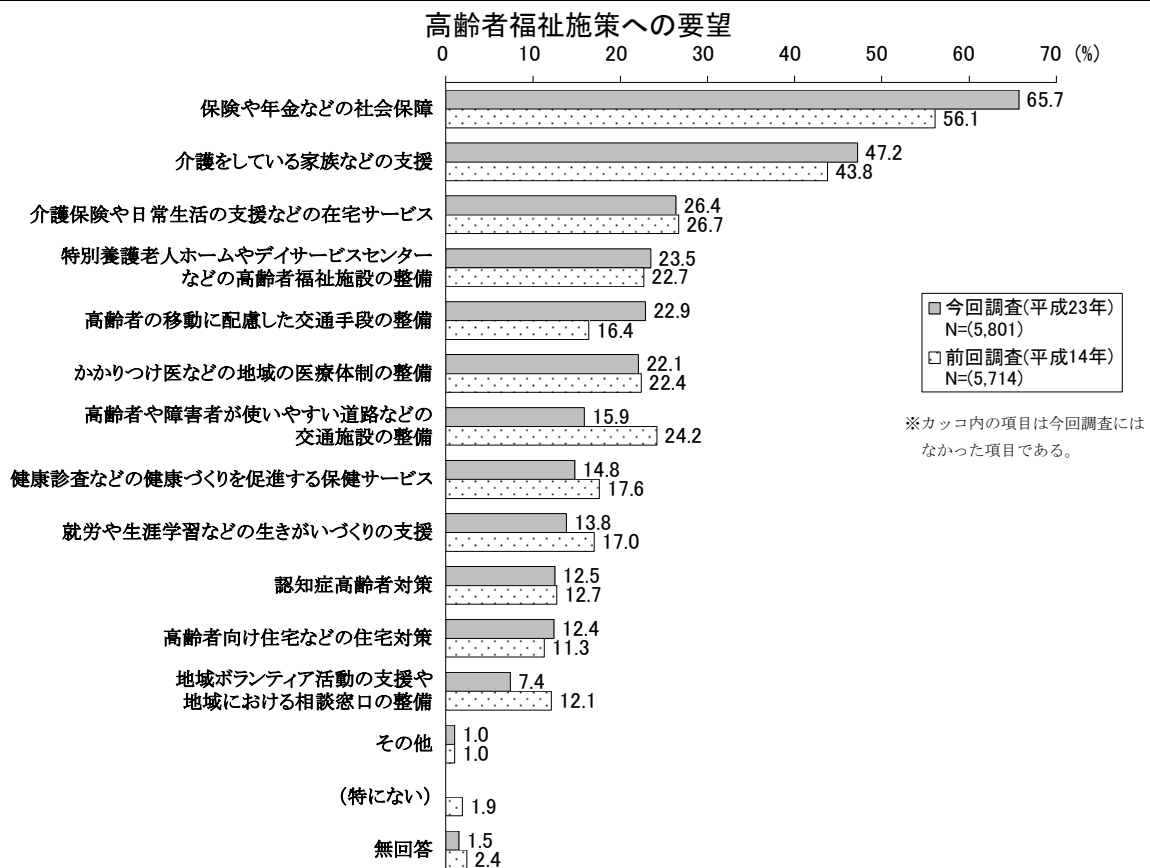
### 3-4 高齢者福祉

#### 3-4-1 高齢者福祉施策への要望

##### 「保険や年金などの社会保障」への要望が約1割増加

問14 あなたは、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに向け、どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は3つまで) (N=5,801) M.A.

		(単位：%)		
1	保険や年金などの社会保障	65.7	2 健康診査などの健康づくりを促進する保健サービス	14.8
3	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備	22.1	4 介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス	26.4
5	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど的高齢者福祉施設の整備	23.5	6 認知症高齢者対策	12.5
7	介護をしている家族などの支援	47.2	8 就労や生涯学習などの生きがいのづくりの支援	13.8
9	高齢者向け住宅などの住宅対策	12.4	10 高齢者や障害者が使いやすい道路などの交通施設の整備	15.9
11	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備	22.9	12 地域ボランティア活動の支援や地域における相談窓口の整備	7.4
13	その他	1.0	無回答	1.5



超高齢社会を迎えた現在、今後市に力を入れてほしい高齢者福祉施策としては、「保険や年金などの社会保障」が65.7%で最も多く、以下「介護をしている家族などの支援」47.2%、「介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス」26.4%、「特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど的高齢者福祉施設の整備」23.5%、「高齢者の移動に配慮した交通手段の整備」22.9%の順で続いている。老後の生活のための経済的支援の充実や、介護者の負担の軽減を求める声が高いほか、各種サービスや施設の整備への要望も高くなっている。

前回との比較 高齢者福祉施策への要望

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
今回調査 (平成23年)		保険や年金などの社会 保障  (65.7)	介護をしている家族な どの支援  (47.2)	介護保険や日常生活の 支援などの在宅サービ ス  (26.4)	特別養護老人ホームや デイサービスセンター などの高齢者福祉施設 の整備  (23.5)	高齢者の移動に配慮し た交通手段の整備  (22.9)
前回調査 (平成14年)		保険や年金などの社会 保障  (56.1)	介護をしている家族な どの支援  (43.8)	介護保険や日常生活の 支援などの在宅サービ ス  (26.7)	高齢者や障害者が使い やすい道路などの交通 施設の整備  (24.2)	特別養護老人ホームや デイサービスセンター などの高齢者福祉施設 の整備  (22.7)

前回と比較すると、今回、「保険や年金などの社会保障」が約10%増加し、高齢者の経済面への不安が高くなっている状況を反映しているほか、「介護をしている家族などの支援」についても約3%微増しており、介護する側に対する支援の要望の声が強いことがわかる。

性・年齢別 高齢者福祉施策への要望

(単位：％)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性	20歳未満 (N=44)	保険や年金などの社会保障 (63.6)	介護をしている家族などの支援 (52.3)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (31.8)	就労や生涯学習などの生きがいがづくりの支援 (20.5)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備／高齢者や障害者が使いやすい道路などの交通施設の整備 (18.2)
	20～29歳 (N=218)	保険や年金などの社会保障 (59.6)	介護をしている家族などの支援 (48.6)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (25.7)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (20.2)	高齢者や障害者が使いやすい道路などの交通施設の整備 (19.3)
	30～39歳 (N=345)	保険や年金などの社会保障 (61.7)	介護をしている家族などの支援 (56.2)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (22.9)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス／高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (22.0)	
	40～49歳 (N=368)	保険や年金などの社会保障 (61.7)	介護をしている家族などの支援 (54.1)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (25.0)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (24.5)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (20.4)
	50～59歳 (N=434)	保険や年金などの社会保障 (68.2)	介護をしている家族などの支援 (51.2)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (25.1)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (24.2)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (24.0)
	60～69歳 (N=528)	保険や年金などの社会保障 (69.5)	介護をしている家族などの支援 (47.0)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (27.3)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (25.6)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (21.4)
	70歳以上 (N=572)	保険や年金などの社会保障 (67.0)	介護をしている家族などの支援 (37.4)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (27.6)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (25.9)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (25.5)
女性	20歳未満 (N=46)	介護をしている家族などの支援 (67.4)	保険や年金などの社会保障 (63.0)	健康診査などの健康づくりを促進する保健サービス／高齢者や障害者が使いやすい道路などの交通施設の整備 (28.3)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (23.9)	
	20～29歳 (N=278)	介護をしている家族などの支援 (61.5)	保険や年金などの社会保障 (51.8)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備／高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (24.8)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (24.1)	
	30～39歳 (N=510)	保険や年金などの社会保障 (63.1)	介護をしている家族などの支援 (62.4)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (24.3)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (23.9)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (22.9)
	40～49歳 (N=583)	保険や年金などの社会保障 (66.0)	介護をしている家族などの支援 (57.8)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (26.8)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (21.6)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (20.8)
	50～59歳 (N=516)	保険や年金などの社会保障 (70.2)	介護をしている家族などの支援 (43.8)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (32.0)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (26.0)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (20.2)
	60～69歳 (N=635)	保険や年金などの社会保障 (70.1)	介護をしている家族などの支援 (35.9)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (30.4)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (27.7)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (24.9)
	70歳以上 (N=634)	保険や年金などの社会保障 (67.5)	介護をしている家族などの支援 (32.3)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (28.5)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (27.0)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (24.6)

性年齢別でみると、男女ともいずれの年齢層でも「保険や年金などの社会保障」と「介護をしている家族などの支援」が上位を占め、次いで「介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス」、「特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備」、「高齢者の移動に配慮した交通手段の整備」、「かかりつけ医などの地域の医療体制の整備」が多くなる傾向があらわれている。「保険や年金などの社会保障」については、20歳未満、20歳代の女性を除くすべての年齢層で第1位を占めており、特に男女とも50歳代以上では7割前後と多くなっている。

一方、20歳未満、20歳代の女性では「介護をしている家族などの支援」が、それぞれ67.4%、61.5%と多くなっており、若い世代の女性に介護負担への不安があることがわかる。

また、70歳以上の男性、20歳代の女性では「特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備」が第3位を占めており、施設整備への要望が他の年代より高くなっている。

### 65歳以上の家族の有無別 高齢者福祉施策への要望

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
いる		保険や年金などの社会保障 (68.1)	介護をしている家族などの支援 (46.2)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (27.7)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (24.7)	かかりつけ医などの地域の医療体制の整備 (23.3)
(N=2, 296)						
いない		保険や年金などの社会保障 (64.3)	介護をしている家族などの支援 (48.7)	介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス (25.5)	特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備 (22.9)	高齢者の移動に配慮した交通手段の整備 (22.7)
(N=3, 398)						

65歳以上の高齢者の家族の有無別に高齢者福祉施策への要望をみると、「保険や年金などの社会保障」が最も多く、次いで「介護をしている家族などの支援」、「介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス」、「特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設の整備」となっており、上位4位までは同様となっている。ただし、高齢者のいる人では「かかりつけ医などの地域の医療体制の整備」が第5位となっており、医療面の充実を求める声が高いのに対して、高齢者のいない人では「高齢者の移動に配慮した交通手段の整備」が第5位となっている。



### 3-5 防災対策

#### 3-5-1 家庭での防災対策

約8割の人が飲料水、食糧、日用品などを準備

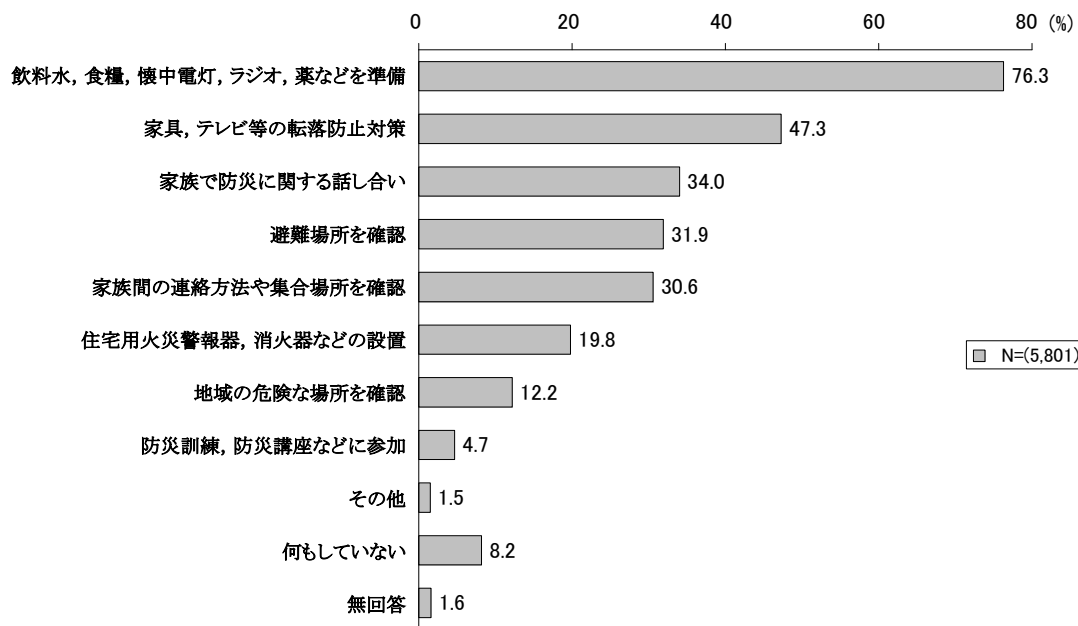
問15 あなたは、東日本大震災後、災害に対し、何か備えや対策などをしましたか。震災発生前から備えや対策などをしていたものを含みます。(〇はあてはまるものすべて)

(N=5,801) M. A.

(単位：%)

1	家族で防災に関する話し合い(家族防災会議等)	34.0	2	家族間の連絡方法(災害用伝言ダイヤル等)や集合場所を確認	30.6
3	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	76.3	4	避難場所を確認	31.9
5	地域の危険な場所を確認	12.2	6	防災訓練、防災講座などに参加	4.7
7	家具、テレビ等の転落防止対策	47.3	8	住宅用火災警報器、消火器などの設置	19.8
9	その他	1.5	10	何もしていない	8.2
	無回答	1.6			

家庭での防災対策



東日本大震災後、災害について家庭で備えをしたかたずねたところ、「飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備」が76.3%で最も多く、以下「家具、テレビ等の転落防止対策」47.3%、「家族で防災に関する話し合い」34.0%、「避難場所を確認」31.9%、「家族間の連絡方法や集合場所を確認」30.6%の順で続いている。災害時に備えて食糧の確保や室内の防災対策のほか、避難場所や家族間での連絡方法の確認が上位を占めている。

## 性別 家庭での防災対策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	家族で防災に関する話し合い	避難場所を確認	家族間の連絡方法や集合場所を確認
(N=2,509)		(74.8)	(47.7)	(34.0)	(29.0)	(26.6)
女性		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	家族で防災に関する話し合い	避難場所を確認	家族間の連絡方法や集合場所を確認
(N=3,204)		(78.0)	(47.3)		(34.2)	(33.9)

性別で見ると、男女とも「飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備」が最も多く、以下「家具、テレビ等の転落防止対策」、「家族で防災に関する話し合い」、「避難場所を確認」、「家族間の連絡方法や集合場所を確認」が上位を占めており、顕著な男女差はあられていない。

## 年齢別 家庭での防災対策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	避難場所を確認	家族で防災に関する話し合い	家族間の連絡方法や集合場所を確認
(N=90)		(67.8)	(42.2)	(36.7)	(35.6)	(26.7)
20～29歳		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	家族で防災に関する話し合い	家族間の連絡方法や集合場所を確認	避難場所を確認
(N=496)		(68.3)	(42.9)	(32.5)	(30.2)	(29.6)
30～39歳		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	家族で防災に関する話し合い	家族間の連絡方法や集合場所を確認	避難場所を確認
(N=856)		(80.6)	(46.0)	(37.4)	(31.0)	(29.9)
40～49歳		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	家族で防災に関する話し合い	家族間の連絡方法や集合場所を確認	避難場所を確認
(N=952)		(77.5)	(46.6)	(35.3)	(33.8)	(29.4)
50～59歳		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	家族間の連絡方法や集合場所を確認	家族で防災に関する話し合い	避難場所を確認
(N=951)		(77.8)	(50.2)	(34.0)	(32.4)	(29.1)
60～69歳		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	避難場所を確認	家族で防災に関する話し合い	家族間の連絡方法や集合場所を確認
(N=1,163)		(79.2)	(50.6)	(34.0)	(33.4)	(27.8)
70歳以上		飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備	家具、テレビ等の転落防止対策	避難場所を確認	家族で防災に関する話し合い	住宅用火災警報器、消火器などの設置
(N=1,211)		(73.5)	(46.3)	(36.2)	(33.7)	(32.6)

年齢別で見ると、すべての年齢層で、「飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備」が最も多く、次いで「家具、テレビ等の転落防止対策」となっている。ただし、第3位をみると、20歳代から50歳代では「家族で防災に関する話し合い」、や「家族間の連絡方法や集合場所を確認」が挙げられているのに対して、20歳未満、60歳代、70歳代では「避難場所を確認」が挙げられており、年代による違いが顕著にあらわれている。

## 地区別 家庭での防災対策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸	(N=208)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (76.4)	家具、テレビ等の転落防止対策 (50.5)	家族で防災に関する話し合い (38.9)	避難場所を確認 (36.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (35.1)
五軒	(N=141)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (75.2)	家具、テレビ等の転落防止対策 (44.7)	家族で防災に関する話し合い/家族間の連絡方法や集合場所を確認 (34.0)		避難場所を確認 (33.3)
新荘	(N=166)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (76.5)	家具、テレビ等の転落防止対策 (51.8)	避難場所を確認 (37.3)	家族で防災に関する話し合い (33.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (32.5)
城東	(N=187)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (75.9)	家具、テレビ等の転落防止対策 (55.1)	避難場所を確認 (39.0)	家族で防災に関する話し合い (33.7)	住宅用火災警報器、消火器などの設置 (28.9)
浜田	(N=263)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (79.8)	家具、テレビ等の転落防止対策 (55.5)	避難場所を確認 (39.5)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (35.7)	家族で防災に関する話し合い (33.8)
常磐	(N=238)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (78.6)	家具、テレビ等の転落防止対策 (43.7)	避難場所を確認 (34.5)	家族で防災に関する話し合い (33.2)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (29.0)
緑岡	(N=258)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (77.5)	家具、テレビ等の転落防止対策 (44.6)	家族で防災に関する話し合い (30.6)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (30.2)	避難場所を確認 (29.1)
寿	(N=170)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (74.7)	家具、テレビ等の転落防止対策 (51.2)	家族で防災に関する話し合い (43.5)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (31.8)	避難場所を確認 (29.4)
上大野	(N=52)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (84.6)	家具、テレビ等の転落防止対策 (48.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (32.7)	避難場所を確認 (25.0)	家族で防災に関する話し合い (23.1)
柳河	(N=78)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (75.6)	家具、テレビ等の転落防止対策 (42.3)	避難場所を確認 (34.6)	家族で防災に関する話し合い/家族間の連絡方法や集合場所を確認 (30.8)	
渡里	(N=260)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (76.9)	家具、テレビ等の転落防止対策 (40.0)	避難場所を確認 (35.8)	家族で防災に関する話し合い (34.2)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (31.5)
吉田	(N=304)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (76.3)	家具、テレビ等の転落防止対策 (54.3)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (33.9)	家族で防災に関する話し合い (32.9)	避難場所を確認 (29.3)
酒門	(N=231)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (71.9)	家具、テレビ等の転落防止対策 (47.2)	家族で防災に関する話し合い (38.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認/避難場所を確認 (30.3)	
石川	(N=218)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (79.8)	家具、テレビ等の転落防止対策 (53.2)	家族で防災に関する話し合い/避難場所を確認 (38.1)		家族間の連絡方法や集合場所を確認 (30.3)
飯富	(N=77)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (75.3)	家具、テレビ等の転落防止対策 (50.6)	家族で防災に関する話し合い (31.2)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (27.3)	避難場所を確認 (26.0)
国田	(N=66)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (72.7)	家具、テレビ等の転落防止対策 (53.0)	家族で防災に関する話し合い (30.3)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (28.8)	避難場所を確認 (24.2)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
河和田	(N=197)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (74.1)	家具、テレビ等の転落防止対策 (40.6)	家族で防災に関する話し合い (32.5)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (27.4)	避難場所を確認 (27.4)
上中妻	(N=121)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (74.4)	家具、テレビ等の転落防止対策 (47.1)	家族で防災に関する話し合い (37.2)	住宅用火災警報器、消火器などの設置 (27.3)	避難場所を確認 (21.5)
見川	(N=236)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (79.2)	家具、テレビ等の転落防止対策 (42.8)	家族で防災に関する話し合い (36.4)	避難場所を確認 (32.6)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (31.4)
千波	(N=440)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (79.8)	家具、テレビ等の転落防止対策 (48.9)	家族で防災に関する話し合い (34.8)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (31.8)	避難場所を確認 (30.5)
梅が丘	(N=309)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (80.3)	家具、テレビ等の転落防止対策 (44.7)	家族で防災に関する話し合い (39.8)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (34.6)	避難場所を確認 (34.0)
双葉台	(N=242)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (75.6)	家具、テレビ等の転落防止対策 (40.5)	家族で防災に関する話し合い (36.4)	避難場所を確認 (35.5)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (33.5)
笠原	(N=191)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (75.9)	家具、テレビ等の転落防止対策 (47.1)	避難場所を確認 (29.3)	家族で防災に関する話し合い (27.2)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (26.7)
赤塚	(N=108)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (77.8)	家具、テレビ等の転落防止対策 (48.1)	避難場所を確認 (39.8)	家族で防災に関する話し合い (29.6)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (28.7)
吉沢	(N=178)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (73.6)	家具、テレビ等の転落防止対策 (54.5)	家族で防災に関する話し合い (37.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (25.8)	避難場所を確認 (21.9)
堀原	(N=146)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (80.1)	家具、テレビ等の転落防止対策 (49.3)	避難場所を確認 (41.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (31.5)	家族で防災に関する話し合い (30.8)
下大野	(N=67)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (73.1)	避難場所を確認 (46.3)	家族間の連絡方法や集合場所を確認／家具、テレビ等の転落防止対策 (41.8)	家族で防災に関する話し合い (28.4)	家族で防災に関する話し合い (28.4)
稲荷第一	(N=96)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (78.1)	家具、テレビ等の転落防止対策 (40.6)	家族で防災に関する話し合い (39.6)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (36.5)	避難場所を確認 (30.2)
稲荷第二	(N=79)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (73.4)	家具、テレビ等の転落防止対策 (51.9)	避難場所を確認 (32.9)	家族で防災に関する話し合い (29.1)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (21.5)
大場	(N=40)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (82.5)	家族で防災に関する話し合い (37.5)	家族間の連絡方法や集合場所を確認／家具、テレビ等の転落防止対策 (30.0)	避難場所を確認 (25.0)	避難場所を確認 (25.0)
妻里	(N=86)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (65.1)	家具、テレビ等の転落防止対策 (44.2)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (32.6)	家族で防災に関する話し合い (31.4)	住宅用火災警報器、消火器などの設置 (22.1)
鯉淵	(N=99)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (81.8)	家具、テレビ等の転落防止対策 (43.4)	住宅用火災警報器、消火器などの設置 (32.3)	家族で防災に関する話し合い (24.2)	避難場所を確認 (18.2)
内原	(N=131)	飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、菓などを準備 (64.9)	家具、テレビ等の転落防止対策 (48.1)	家族で防災に関する話し合い (26.7)	家族間の連絡方法や集合場所を確認 (22.9)	避難場所を確認 (21.4)

地区別で見ると、すべての地区で、「飲料水、食糧、懐中電灯、ラジオ、薬などを準備」が最も多くなっているほか、ほとんどの地区で「家具、テレビ等の転落防止対策」が第2位となっている。ただし、下大野地区では「避難場所を確認」が、大場地区では「家族で防災に関する話し合い」が、それぞれ第2位を占めて、多くなっている。

### 3-5-2 市の防災対策

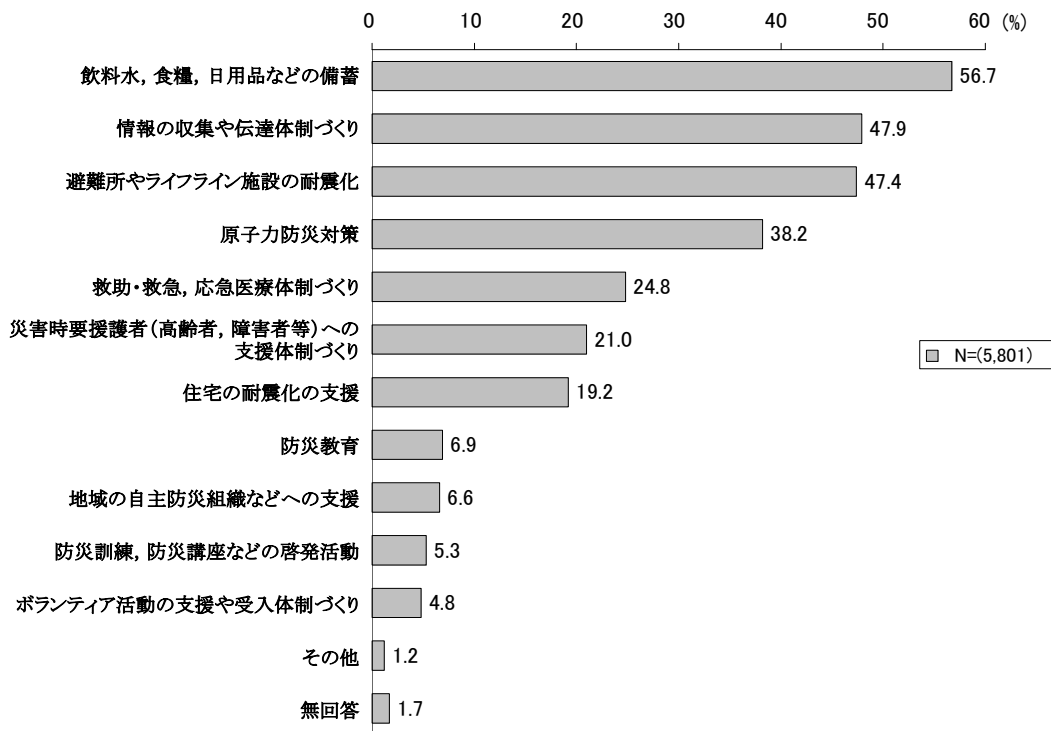
#### 「飲料水、食糧、日用品などの備蓄」を求める声強い

問16 あなたは、今後の防災対策として、どのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで) (N=5,801) M.A.

(単位：%)

1 情報の収集や伝達体制づくり	47.9	2 避難所やライフライン施設の耐震化	47.4
3 飲料水、食糧、日用品などの備蓄	56.7	4 災害時要援護者(高齢者、障害者等)への支援体制づくり	21.0
5 救助・救急、応急医療体制づくり	24.8	6 地域の自主防災組織などへの支援	6.6
7 防災訓練、防災講座などの啓発活動	5.3	8 防災教育	6.9
9 原子力防災対策	38.2	10 住宅の耐震化の支援	19.2
11 ボランティア活動の支援や受入体制づくり	4.8	12 その他	1.2
無回答	1.7		

市の防災対策



今後の防災対策として、市が重点的に取り組むべきことをたずねたところ、「飲料水、食糧、日用品などの備蓄」が56.7%で最も多く、以下「情報の収集や伝達体制づくり」47.9%、「避難所やライフライン施設の耐震化」47.4%、「原子力防災対策」38.2%、「救助・救急、応急医療体制づくり」24.8%の順で続いている。家庭での防災対策と同様に、飲料水や食糧の確保を望む声が多くなっているほか、情報収集や伝達体制づくり、避難所やライフラインの耐震化、原子力防災対策に対する要望も強くなっている。

## 性別 市の防災対策

(単位：%)

区分 \ 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=2, 509)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (58.2)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.0)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (46.8)	原子力防災対策 (36.9)	救助・救急、応急医療 体制づくり (25.9)
女性 (N=3, 204)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (55.8)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (48.5)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.0)	原子力防災対策 (39.7)	救助・救急、応急医療 体制づくり (24.2)

性別でみると、「情報の収集や伝達体制づくり」と「避難所やライフライン施設の耐震化」の順位が逆になっているものの、割合的に大きな差異はなく、上位5位は男女ともほぼ同様の結果となっている。

## 年齢別 市の防災対策

(単位：%)

区分 \ 順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (72.2)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (48.9)	情報の収集や伝達体制 づくり (41.1)	救助・救急、応急医療 体制づくり (32.2)	原子力防災対策 (22.2)
20～29歳 (N=496)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (62.7)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (52.0)	情報の収集や伝達体制 づくり (45.6)	原子力防災対策 (30.6)	救助・救急、応急医療 体制づくり (27.4)
30～39歳 (N=856)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (59.5)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (56.7)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.6)	原子力防災対策 (35.5)	救助・救急、応急医療 体制づくり (25.1)
40～49歳 (N=952)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (59.9)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (54.2)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.5)	原子力防災対策 (37.9)	救助・救急、応急医療 体制づくり (26.6)
50～59歳 (N=951)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (53.0)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (49.9)	情報の収集や伝達体制 づくり (47.2)	原子力防災対策 (43.7)	救助・救急、応急医療 体制づくり (26.4)
60～69歳 (N=1, 163)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (54.4)	情報の収集や伝達体制 づくり (46.9)	原子力防災対策 (45.1)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (42.6)	救助・救急、応急医療 体制づくり (23.0)
70歳以上 (N=1, 211)	飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (59.0)	情報の収集や伝達体制 づくり (50.3)	原子力防災対策 (34.8)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (33.1)	災害時要援護者（高齢 者、障害者等）への支 援体制づくり (32.9)

年齢別でみると、40歳代を除くすべての年齢層で、「飲料水、食糧、日用品などの備蓄」が最も多くなっているが、40歳代では「避難所やライフライン施設の耐震化」が第1位となっている。また、20歳未満から30歳代、50歳代では「避難所やライフライン施設の耐震化」が第2位となっているが、60歳代、70歳以上になると「情報の収集や伝達体制づくり」が第2位となっており、高齢者層では災害時の情報収集や伝達体制づくりへの不安が高いことがわかる。また、すべての年齢層にわたって、「原子力防災対策」が上位に挙げられていることも特徴的である。

地区別 市の防災対策

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸 (N=208)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (61.1)	情報の収集や伝達体制 づくり (51.0)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (42.8)	原子力防災対策 (38.5)	救助・救急、応急医療 体制づくり (21.6)
五軒 (N=141)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (56.7)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (51.1)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.2)	原子力防災対策 (39.7)	災害時要援護者（高齢 者、障害者等）への支 援体制づくり (22.7)
新荘 (N=166)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (55.4)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (49.4)	情報の収集や伝達体制 づくり (47.6)	原子力防災対策 (41.0)	救助・救急、応急医療 体制づくり (26.5)
城東 (N=187)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (62.0)	情報の収集や伝達体制 づくり (51.9)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (42.8)	原子力防災対策 (32.6)	災害時要援護者（高齢 者、障害者等）への支 援体制づくり (27.3)
浜田 (N=263)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (57.8)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.7)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (41.1)	原子力防災対策 (37.6)	災害時要援護者（高齢 者、障害者等）への支 援体制づくり (25.9)
常磐 (N=238)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (56.3)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (51.7)	情報の収集や伝達体制 づくり (50.0)	原子力防災対策 (42.4)	救助・救急、応急医療 体制づくり (27.3)
緑岡 (N=258)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (57.8)	情報の収集や伝達体制 づくり (53.5)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (49.2)	原子力防災対策 (39.9)	救助・救急、応急医療 体制づくり (21.3)
寿 (N=170)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (61.2)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (49.4)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.8)	原子力防災対策 (41.8)	救助・救急、応急医療 体制づくり (21.8)
上大野 (N=52)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (57.7)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (51.9)	情報の収集や伝達体制 づくり (42.3)	原子力防災対策 (38.5)	災害時要援護者（高齢 者、障害者等）への支 援体制づくり／住宅の 耐震化の支援 (25.0)
柳河 (N=78)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (64.1)	情報の収集や伝達体制 づくり (46.2)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (42.3)	原子力防災対策 (39.7)	救助・救急、応急医療 体制づくり／住宅の耐 震化の支援 (20.5)
渡里 (N=260)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (52.3)	情報の収集や伝達体制 づくり (47.7)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (46.2)	原子力防災対策 (43.8)	救助・救急、応急医療 体制づくり (28.1)
吉田 (N=304)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (60.5)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (49.0)	情報の収集や伝達体制 づくり (47.0)	原子力防災対策 (33.6)	救助・救急、応急医療 体制づくり (23.4)
酒門 (N=231)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (53.7)	情報の収集や伝達体制 づくり (48.5)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (47.6)	原子力防災対策 (41.6)	救助・救急、応急医療 体制づくり (26.8)
石川 (N=218)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (60.1)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (49.1)	情報の収集や伝達体制 づくり (46.3)	原子力防災対策 (39.0)	救助・救急、応急医療 体制づくり (26.1)
飯富 (N=77)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (55.8)	情報の収集や伝達体制 づくり／避難所やライ フライン施設の耐震化 (49.4)	原子力防災対策 (37.7)	救助・救急、応急医療 体制づくり／住宅の耐 震化の支援 (18.2)	
国田 (N=66)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (54.5)	情報の収集や伝達体制 づくり (45.5)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (42.4)	原子力防災対策 (39.4)	住宅の耐震化の支援 (28.8)
河和田 (N=197)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (57.9)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (50.8)	情報の収集や伝達体制 づくり (47.7)	原子力防災対策 (38.6)	救助・救急、応急医療 体制づくり (24.9)
上中妻 (N=121)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (62.0)	情報の収集や伝達体制 づくり (44.6)	原子力防災対策 (42.1)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (39.7)	救助・救急、応急医療 体制づくり (22.3)
見川 (N=236)		飲料水、食糧、日用品 などの備蓄 (54.2)	情報の収集や伝達体制 づくり (49.6)	避難所やライフライン 施設の耐震化 (48.7)	原子力防災対策 (35.6)	救助・救急、応急医療 体制づくり (27.5)



区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
千波 (N=440)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (51.1)	情報の収集や伝達体制づくり／避難所やライフライン施設の耐震化 (50.0)	原子力防災対策 (38.2)	救助・救急、応急医療体制づくり (26.1)	
梅が丘 (N=309)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (54.0)	避難所やライフライン施設の耐震化 (50.5)	情報の収集や伝達体制づくり (50.2)	原子力防災対策 (37.5)	救助・救急、応急医療体制づくり (30.1)
双葉台 (N=242)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (59.5)	情報の収集や伝達体制づくり (51.2)	避難所やライフライン施設の耐震化 (45.9)	原子力防災対策 (36.4)	救助・救急、応急医療体制づくり (24.4)
笠原 (N=191)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (57.6)	避難所やライフライン施設の耐震化 (53.4)	情報の収集や伝達体制づくり (41.9)	原子力防災対策 (37.7)	救助・救急、応急医療体制づくり (23.6)
赤塚 (N=108)		避難所やライフライン施設の耐震化 (54.6)	飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (50.9)	情報の収集や伝達体制づくり (50.0)	原子力防災対策 (37.0)	救助・救急、応急医療体制づくり (30.6)
吉沢 (N=178)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (57.9)	避難所やライフライン施設の耐震化 (52.2)	情報の収集や伝達体制づくり (42.1)	原子力防災対策 (38.8)	救助・救急、応急医療体制づくり (25.8)
堀原 (N=146)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (63.7)	避難所やライフライン施設の耐震化 (52.1)	情報の収集や伝達体制づくり (47.9)	原子力防災対策 (41.8)	救助・救急、応急医療体制づくり (24.0)
下大野 (N=67)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (53.7)	情報の収集や伝達体制づくり (46.3)	避難所やライフライン施設の耐震化 (37.3)	原子力防災対策 (35.8)	災害時要援護者（高齢者、障害者等）への支援体制づくり (25.4)
稲荷第一 (N=96)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (58.3)	避難所やライフライン施設の耐震化 (42.7)	情報の収集や伝達体制づくり／原子力防災対策 (41.7)	救助・救急、応急医療体制づくり (28.1)	
稲荷第二 (N=79)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (55.7)	避難所やライフライン施設の耐震化 (50.6)	情報の収集や伝達体制づくり (49.4)	原子力防災対策 (45.6)	救助・救急、応急医療体制づくり／住宅の耐震化の支援 (21.5)
大場 (N=40)		避難所やライフライン施設の耐震化 (52.5)	飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (50.0)	情報の収集や伝達体制づくり／原子力防災対策 (42.5)	救助・救急、応急医療体制づくり (25.0)	
妻里 (N=86)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (50.0)	情報の収集や伝達体制づくり (43.0)	避難所やライフライン施設の耐震化／原子力防災対策 (33.7)	救助・救急、応急医療体制づくり (30.2)	
鯉淵 (N=99)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (54.5)	情報の収集や伝達体制づくり (44.4)	避難所やライフライン施設の耐震化 (41.4)	原子力防災対策 (34.3)	救助・救急、応急医療体制づくり／住宅の耐震化の支援 (29.3)
内原 (N=131)		飲料水、食糧、日用品などの備蓄 (59.5)	情報の収集や伝達体制づくり (48.1)	避難所やライフライン施設の耐震化 (45.0)	原子力防災対策 (32.8)	救助・救急、応急医療体制づくり (26.7)

地区別でみると、赤塚地区と大場地区を除く地区で「飲料水、食糧、日用品などの備蓄」が最も多く、次いで「避難所やライフライン施設の耐震化」や「情報の収集や伝達体制づくり」が挙げられている。また、多くの地区で「原子力防災対策」が第4位となっている。

### 3-6 環境問題

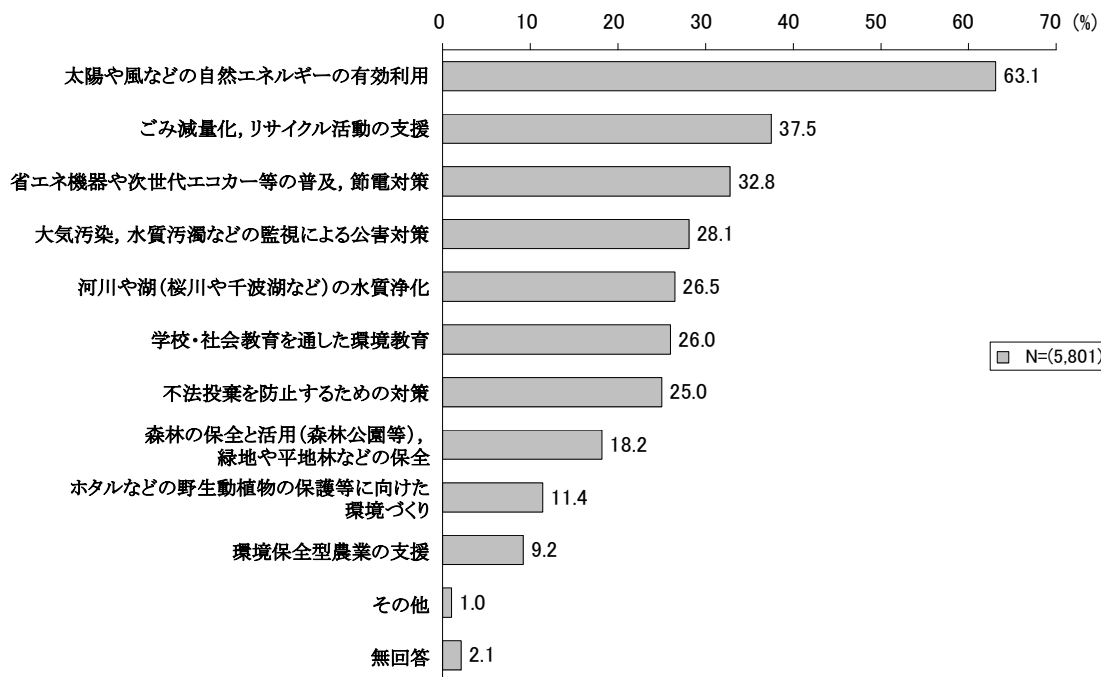
#### 3-6-1 環境問題対策への要望

#### 自然エネルギーの有効利用への期待が高い

問17 水戸市では、地球温暖化対策や自然環境の保全などに取り組んでいます。あなたは、環境問題について、どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(○は3つまで)  
(N=5,801) M. A.

		(単位：%)
1	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用	63.1
2	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策	32.8
3	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策	28.1
4	学校・社会教育を通じた環境教育	26.0
5	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化	26.5
6	森林の保全と活用(森林公園等)、緑地や平地林などの保全	18.2
7	ホタルなどの野生動植物の保護等に向けた環境づくり	11.4
8	ごみ減量化、リサイクル活動の支援	37.5
9	不法投棄を防止するための対策	25.0
10	環境保全型農業の支援	9.2
11	その他	1.0
	無回答	2.1

環境問題対策への要望



水戸市の環境問題対策への要望のうち力を入れてほしいものをたずねたところ、「太陽や風などの自然エネルギーの有効利用」が63.1%で最も多く、以下「ごみ減量化、リサイクル活動の支援」37.5%、「省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策」32.8%、「大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策」28.1%、「河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化」26.5%の順で続いている。このように自然エネルギーの有効利用への期待が高くなっているほか、ごみ減量化やリサイクル、省エネ等の身近な取組への支援を求める声が高くなっている。

## 性別 環境問題対策への要望

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (62.3)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (34.2)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (32.7)	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化 (30.7)	不法投棄を防止するための対策 (27.1)
(N=2,509)						
女性		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (64.3)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (40.3)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (33.1)	大気汚染, 水質汚濁などの監視による公害対策 (29.3)	学校・社会教育を通じた環境教育 (25.6)
(N=3,204)						

性別で見ると、男女とも「太陽や風などの自然エネルギーの有効利用」が最も多く、次いで「ごみ減量化, リサイクル活動の支援」, 「省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策」の順となっており、上位3位は男女とも同様の結果となっている。ただし、男性では、「河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化」が第4位となっているのに対して、女性では「大気汚染, 水質汚濁などの監視による公害対策」が第4位となっており、男女の意識の違いがあらわれている。

## 年齢別 環境問題対策への要望

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (57.8)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (40.0)	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化 (38.9)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (34.4)	大気汚染, 水質汚濁などの監視による公害対策 (27.8)
(N=90)						
20~29歳		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (64.7)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (36.3)	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化 (34.1)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (30.6)	不法投棄を防止するための対策 (27.4)
(N=496)						
30~39歳		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (66.7)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (37.9)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (36.2)	学校・社会教育を通じた環境教育 (30.3)	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化 (24.4)
(N=856)						
40~49歳		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (66.6)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (39.8)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (38.0)	学校・社会教育を通じた環境教育 (26.4)	不法投棄を防止するための対策 (24.3)
(N=952)						
50~59歳		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (64.2)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (41.0)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (33.9)	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化 (27.9)	不法投棄を防止するための対策 (26.1)
(N=951)						
60~69歳		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.7)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (37.3)	大気汚染, 水質汚濁などの監視による公害対策 (33.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (30.0)	学校・社会教育を通じた環境教育 (26.4)
(N=1,163)						
70歳以上		太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.4)	大気汚染, 水質汚濁などの監視による公害対策 (36.0)	ごみ減量化, リサイクル活動の支援 (35.2)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策 (27.7)	河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化 (27.2)
(N=1,211)						

年齢別で見ると、すべての年齢層にわたって、「太陽や風などの自然エネルギーの有効利用」が最も多くなっている。また、第2位には、20歳未満, 30歳代では「省エネ機器や次世代エコカー等の普及, 節電対策」が、20歳代, 40歳代から60歳代では「ごみ減量化, リサイクル活動の支援」が、70歳以上では「大気汚染, 水質汚濁などの監視による公害対策」が挙げられており、年齢による考え方の違いがあらわれている。

## 地区別 環境問題対策への要望

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸	(N=208)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (57.7)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (38.5)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (37.5)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (35.6)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (26.0)
五軒	(N=141)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.3)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (42.6)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (31.2)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策／大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (29.8)	
新荘	(N=166)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (65.1)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (45.8)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (36.7)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (28.3)	学校・社会教育を通じた環境教育 (25.9)
城東	(N=187)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.4)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策／ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (36.9)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (33.7)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (27.3)	
浜田	(N=263)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.8)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (42.2)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (38.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (30.0)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (26.2)
常磐	(N=238)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (65.5)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (39.5)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (35.3)	学校・社会教育を通じた環境教育 (31.1)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (26.9)
緑岡	(N=258)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (64.7)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (43.4)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (30.6)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (28.7)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (25.6)
寿	(N=170)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (67.6)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (46.5)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (28.8)	学校・社会教育を通じた環境教育 (26.5)	森林の保全と活用（森林公園等）、緑地や平地林などの保全／不法投棄を防止するための対策 (25.9)
上大野	(N=52)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (73.1)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (40.4)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策／河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (32.7)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (25.0)	
柳河	(N=78)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.3)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (34.6)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (30.8)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (28.2)	学校・社会教育を通じた環境教育／不法投棄を防止するための対策 (26.9)
渡里	(N=260)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (62.3)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (33.5)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (31.5)	不法投棄を防止するための対策 (29.6)	学校・社会教育を通じた環境教育 (28.1)
吉田	(N=304)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.5)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (38.5)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (37.2)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (30.6)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (29.9)
酒門	(N=231)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (63.2)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (35.5)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (30.7)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (29.0)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (27.7)
石川	(N=218)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (59.2)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (38.5)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (34.9)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (32.1)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (27.5)
飯富	(N=77)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (74.0)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (40.3)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (32.5)	不法投棄を防止するための対策 (28.6)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (27.3)
国田	(N=66)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (65.2)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (37.9)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (36.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策／学校・社会教育を通じた環境教育 (30.3)	

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
河和田	(N=197)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.4)	不法投棄を防止するための対策 (38.6)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (36.0)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (34.5)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (32.5)
上中妻	(N=121)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (66.9)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (36.4)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 ／ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (32.2)	不法投棄を防止するための対策 (26.4)	
見川	(N=236)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (62.7)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (37.7)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (30.9)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (28.0)	不法投棄を防止するための対策 (26.7)
千波	(N=440)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (63.9)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (35.2)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (35.0)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (34.3)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (27.3)
梅が丘	(N=309)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (66.7)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (39.5)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (34.6)	学校・社会教育を通じた環境教育 (30.1)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (25.9)
双葉台	(N=242)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (66.1)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (33.9)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (33.5)	学校・社会教育を通じた環境教育 (31.4)	不法投棄を防止するための対策 (30.6)
笠原	(N=191)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (56.0)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 ／ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (40.8)	不法投棄を防止するための対策 (30.4)	学校・社会教育を通じた環境教育 (29.8)	
赤塚	(N=108)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (68.5)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (36.1)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 ／大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (31.5)	学校・社会教育を通じた環境教育 (25.9)	
吉沢	(N=178)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (66.3)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (38.2)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (36.5)	学校・社会教育を通じた環境教育 (27.0)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (25.3)
堀原	(N=146)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (71.2)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (38.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (37.7)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (28.8)	学校・社会教育を通じた環境教育 (28.1)
下大野	(N=67)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (58.2)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (37.3)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 ／不法投棄を防止するための対策 (28.4)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (25.4)	
稲荷第一	(N=96)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (59.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (34.4)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (32.3)	河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 (29.2)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 ／不法投棄を防止するための対策 (28.1)
稲荷第二	(N=79)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (73.4)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (40.5)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (30.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 ／河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化 ／不法投棄を防止するための対策 (29.1)	
大場	(N=40)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (62.5)	不法投棄を防止するための対策 (42.5)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (35.0)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (30.0)	学校・社会教育を通じた環境教育 ／森林の保全と活用（森林公園等）、緑地や平地林などの保全 (22.5)
妻里	(N=86)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.5)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (38.4)	不法投棄を防止するための対策 (32.6)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (30.2)	学校・社会教育を通じた環境教育 ／ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (26.7)
鯉淵	(N=99)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (67.7)	不法投棄を防止するための対策 (34.3)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (30.3)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 ／学校・社会教育を通じた環境教育 (26.3)	
内原	(N=131)	太陽や風などの自然エネルギーの有効利用 (60.3)	ごみ減量化、リサイクル活動の支援 (42.0)	大気汚染、水質汚濁などの監視による公害対策 (37.4)	省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策 (29.0)	学校・社会教育を通じた環境教育 (26.0)

地区別で見ると、すべての地区で、「太陽や風などの自然エネルギーの有効利用」が最も多くなっている。また、「ごみ減量化、リサイクル活動の支援」や「省エネ機器や次世代エコカー等の普及、節電対策」も上位を占めており、家庭や地域など、身近なところでの環境問題への取組に対する支援等が求められている。また、複数の地区で「河川や湖（桜川や千波湖など）の水質浄化」が5位以内に入っており、本市のイメージの一つである「水」の水質保全への取組を求める声も高くなっている。

### 3-7 市民と行政との協働

#### 3-7-1 まちづくりや地域活動への参加状況

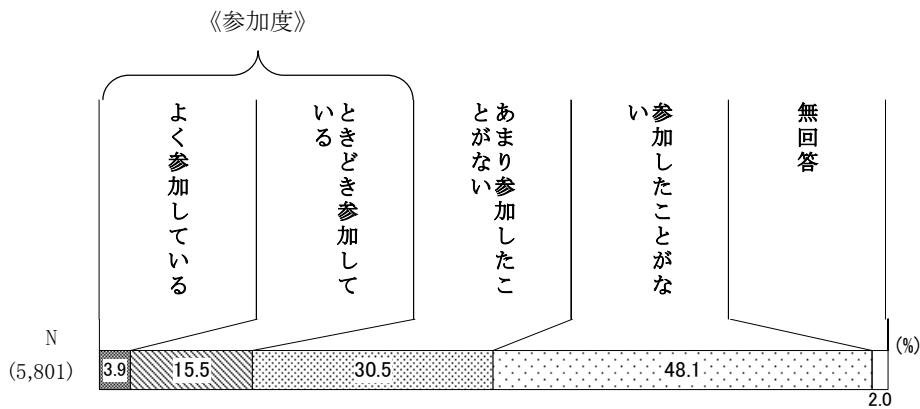
ほとんど参加したことがない人が約8割

問18 水戸市では、市民はまちづくりに積極的に参加・参画し、行政はその取組がしやすい環境づくりを行うとした「市民と行政との協働都市宣言」を行っています。あなたは、まちづくりや地域の活動にどの程度参加していますか。(○は1つだけ) (N=5,801)

(単位：%)

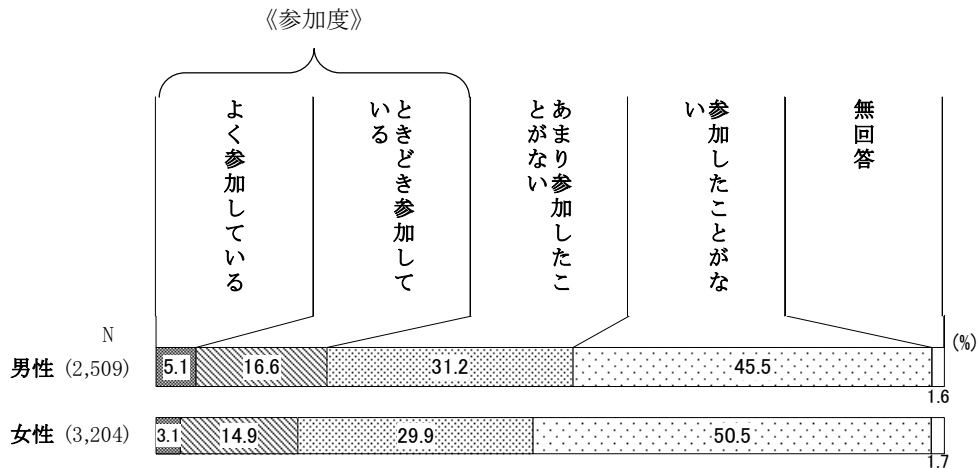
1 よく参加している	3.9	2 ときどき参加している	15.5
3 あまり参加したことがない	30.5	4 参加したことがない	48.1
無回答	2.0		

#### まちづくりや地域活動への参加状況



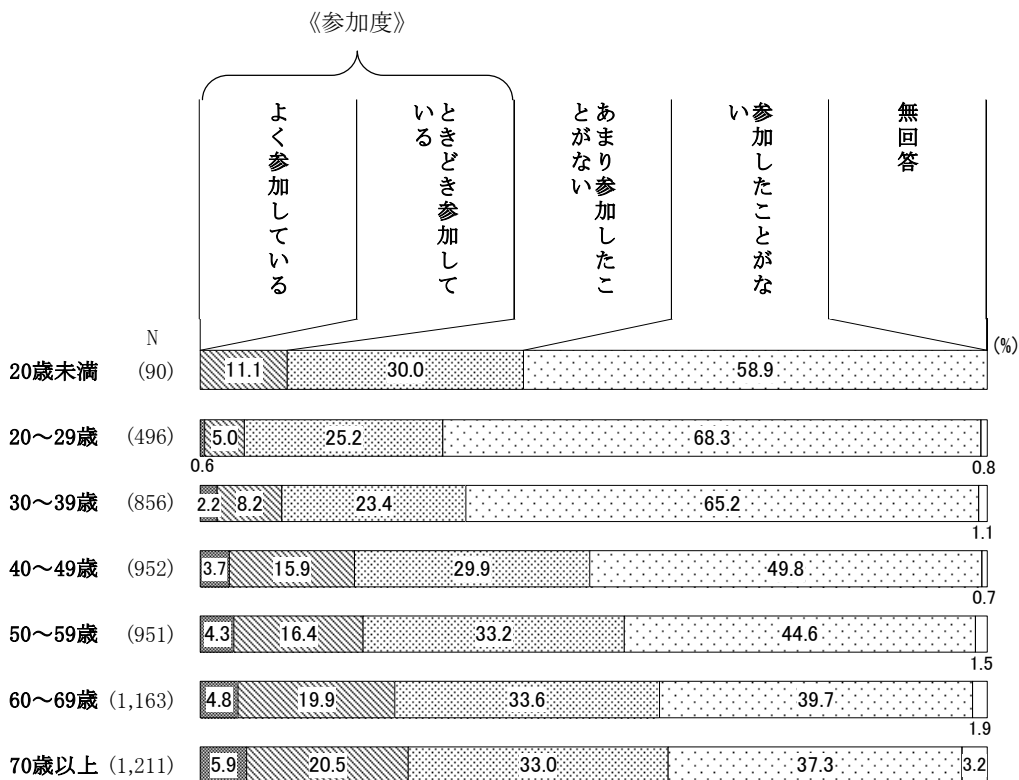
まちづくりや地域活動への参加状況をたずねたところ、「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた《参加度》は19.4%となっている。一方、「あまり参加したことがない」と「参加したことがない」の合計は78.6%にのぼっており、参加に消極的な人が8割近くを占めている。

## 性別 まちづくりや地域活動への参加状況



性別でみると、「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた《参加度》は、男性が21.7%、女性が18.0%と、女性よりも男性の方が高い割合となっている。

## 年齢別 まちづくりや地域活動への参加状況

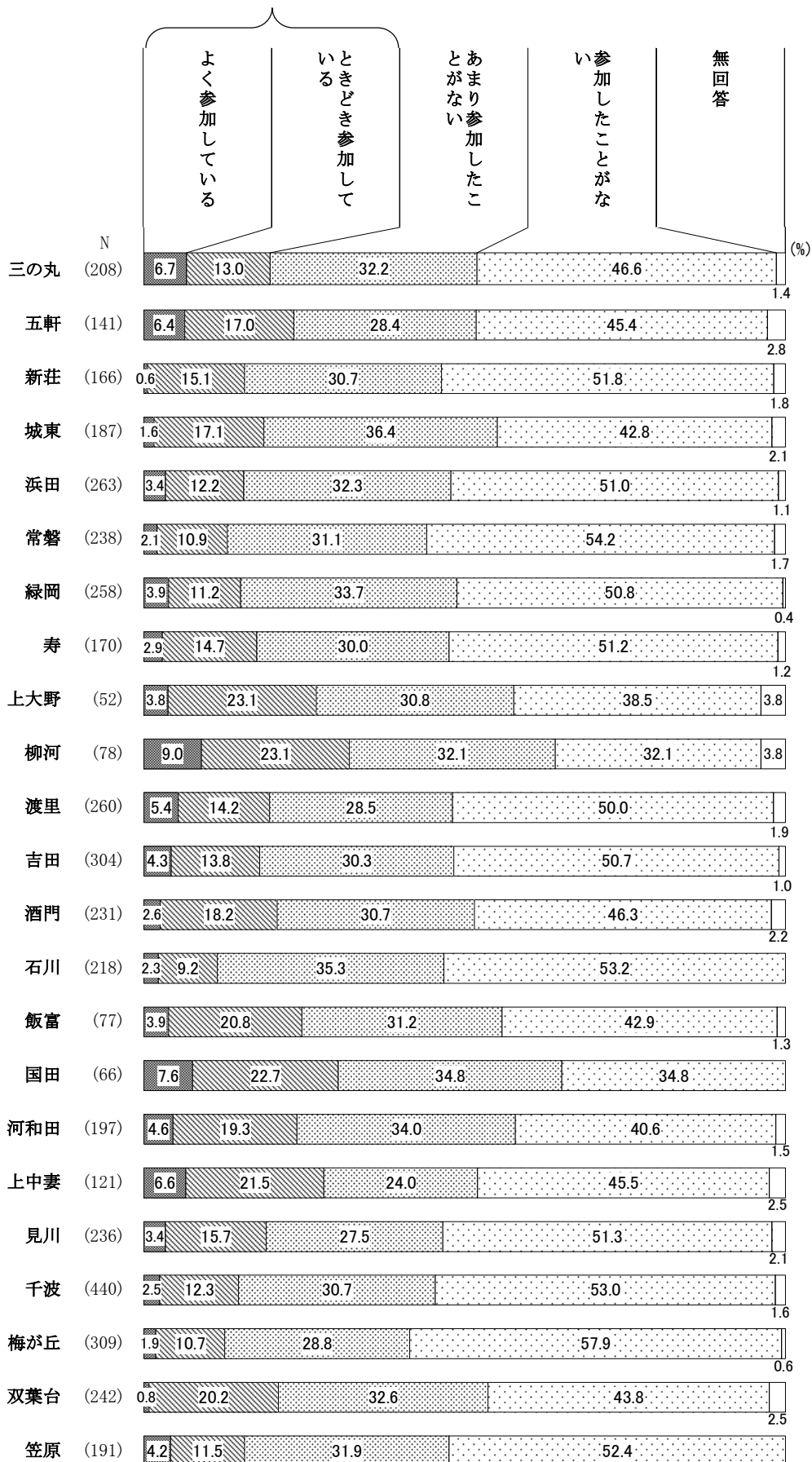


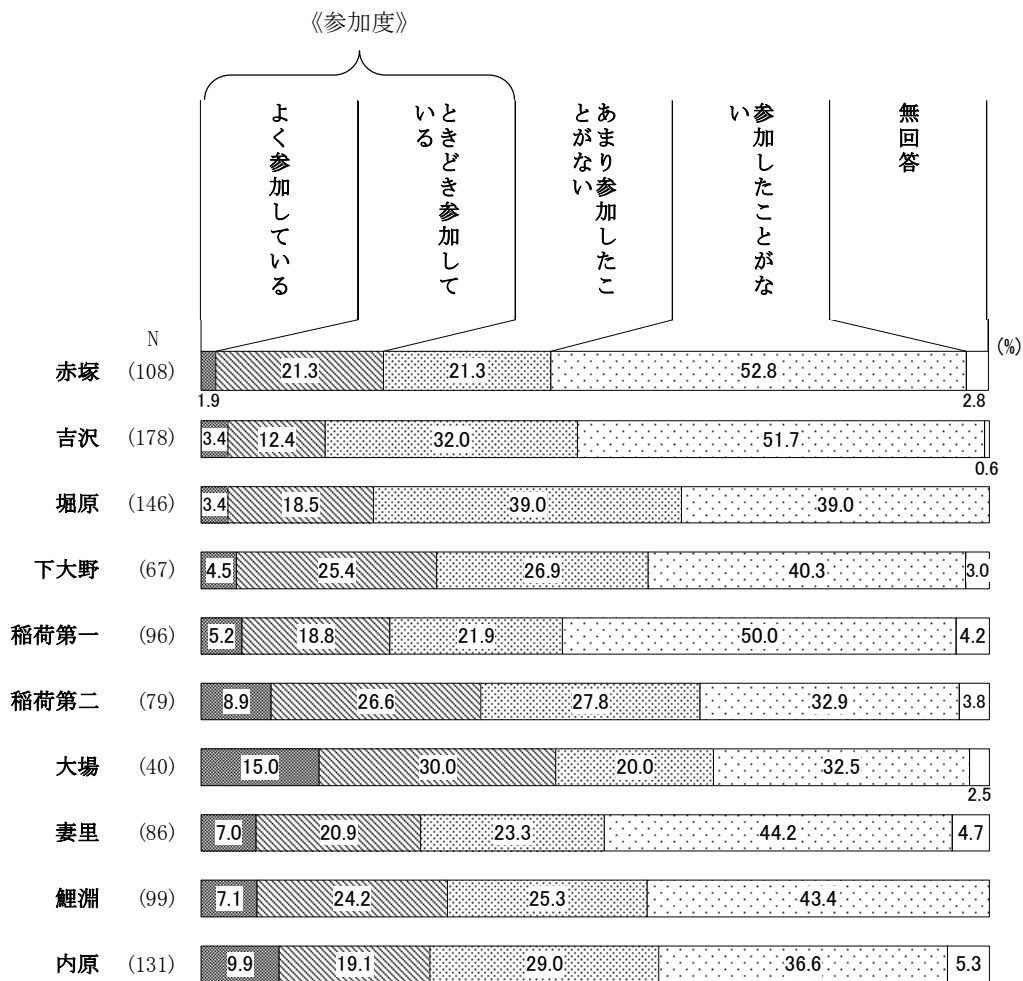
年齢別でみると、《参加度》は概ね年齢が高くなるにつれて増加し、60歳代では24.7%、70歳以上では26.4%となっている一方で、就業、子育て世代である20～30歳代の参加率が低くなっていることがわかる。



# 地区別 まちづくりや地域活動への参加状況

《参加度》





地区別でみると、大場地区では《参加度》が45.0%と全地区中最も高くなっているほか、柳河地区、国田地区、稲荷第二地区、鯉淵地区でも3割を超えて、他の地区よりまちづくりや地域活動への参加頻度が高いことがわかる。

### 3-7-2 まちづくりや地域活動への参加意向

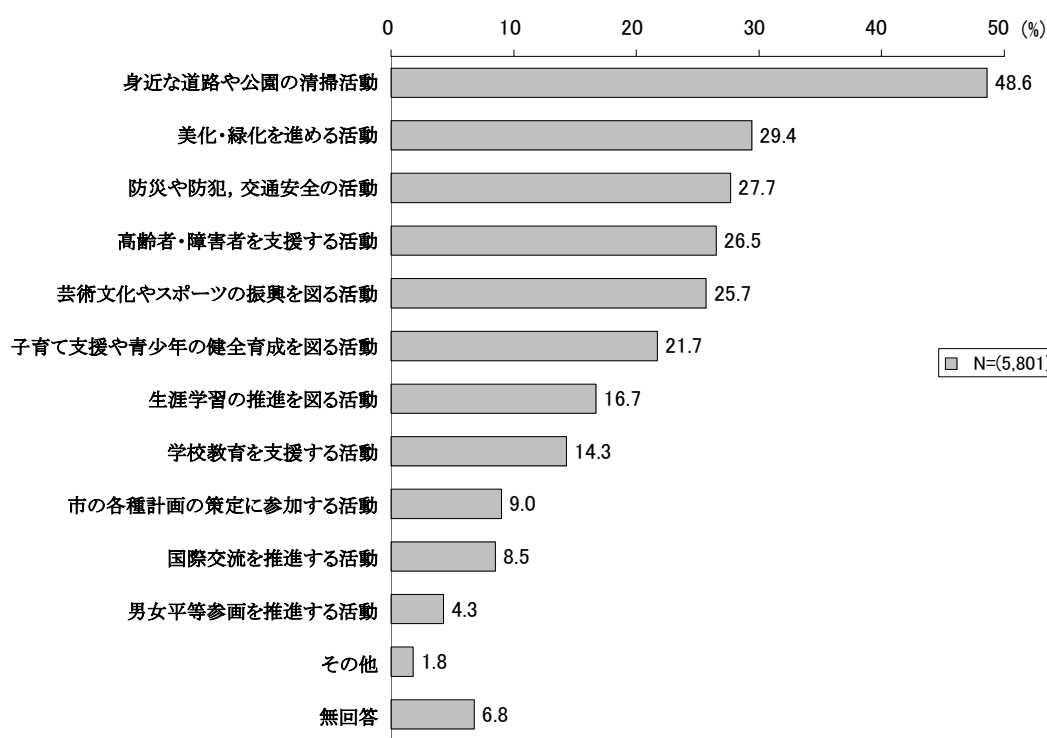
約9割の人が参加意向を示している

問19 あなたがまちづくりや地域の活動に参加する場合、どのような活動に参加したいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて) (N=5,801) M. A.

(単位：%)

1	身近な道路や公園の清掃活動	48.6	2	美化・緑化を進める活動	29.4
3	防災や防犯，交通安全の活動	27.7	4	高齢者・障害者を支援する活動	26.5
5	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動	21.7	6	生涯学習の推進を図る活動	16.7
7	芸術文化やスポーツの振興を図る活動	25.7	8	学校教育を支援する活動	14.3
9	国際交流を推進する活動	8.5	10	男女平等参画を推進する活動	4.3
11	市の各種計画の策定に参加する活動	9.0	12	その他	1.8
	無回答	6.8			

まちづくりや地域活動への参加意向



まちづくりや地域活動への参加意向をたずねたところ、「身近な道路や公園の清掃活動」が48.6%で最も多く、以下「美化・緑化を進める活動」29.4%、「防災や防犯，交通安全の活動」27.7%、「高齢者・障害者を支援する活動」26.5%、「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」25.7%の順で続いている。近年の環境問題への関心の高まりを反映して、身近な地域の清掃活動や美化活動が上位を占めているほか、高齢者や障害者への支援等福祉にかかる取組への参加意向も高くなっている。また、9割以上の人が現在何らかの活動を行っている、あるいは活動に参加したいと考えていることがわかる。

### 性別 まちづくりや地域活動への参加意向

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (N=2,509)		身近な道路や公園の清掃活動 (49.9)	防災や防犯、交通安全の活動 (32.5)	美化・緑化を進める活動 (31.3)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (27.3)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.0)
女性 (N=3,204)		身近な道路や公園の清掃活動 (47.8)	美化・緑化を進める活動 (28.4)	高齢者・障害者を支援する活動 (28.1)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (24.8)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (24.6)

性別でみると、男女とも「身近な道路や公園の清掃活動」が最も多くなっている点は共通している。しかし、男性では「防災や防犯、交通安全の活動」が32.5%と女性を大きく上回って第2位となっているのに対して、女性では「美化・緑化を進める活動」が第2位となっており、参加意向を示す活動の内容には男女差があらわれている。

### 年齢別 まちづくりや地域活動への参加意向

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満 (N=90)		芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (45.6)	身近な道路や公園の清掃活動 (44.4)	美化・緑化を進める活動 (27.8)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (22.2)	高齢者・障害者を支援する活動 (18.9)
20～29歳 (N=496)		身近な道路や公園の清掃活動 (44.4)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (39.9)	美化・緑化を進める活動 (33.3)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (24.4)	防災や防犯、交通安全の活動 (20.8)
30～39歳 (N=856)		身近な道路や公園の清掃活動 (40.9)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (35.0)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (31.0)	美化・緑化を進める活動 (28.3)	防災や防犯、交通安全の活動 (25.8)
40～49歳 (N=952)		身近な道路や公園の清掃活動 (45.2)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (29.7)	美化・緑化を進める活動 (28.7)	防災や防犯、交通安全の活動 (27.9)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.4)
50～59歳 (N=951)		身近な道路や公園の清掃活動 (51.7)	美化・緑化を進める活動 (31.5)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (28.4)	高齢者・障害者を支援する活動 (27.7)	防災や防犯、交通安全の活動 (26.3)
60～69歳 (N=1,163)		身近な道路や公園の清掃活動 (51.6)	美化・緑化を進める活動 (31.1)	防災や防犯、交通安全の活動 (30.4)	高齢者・障害者を支援する活動 (30.2)	生涯学習の推進を図る活動 (22.0)
70歳以上 (N=1,211)		身近な道路や公園の清掃活動 (53.9)	高齢者・障害者を支援する活動 (32.9)	防災や防犯、交通安全の活動 (31.5)	美化・緑化を進める活動 (27.1)	生涯学習の推進を図る活動 (18.4)

年齢別でみると、20歳未満を除く各年齢層で「身近な道路や公園の清掃活動」が最も多くなっている。また、各年齢層にわたって「美化・緑化を進める活動」が、20歳未満から50歳代では「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」が上位を占めているが、60歳代、70歳以上では「防災や防犯、交通安全の活動」が、それぞれ30.4%、31.5%を占め、第3位となっている。また、70歳以上において、「高齢者・障害者を支援する活動」が第2位となっているのが特徴的である。

地区別 まちづくりや地域活動への参加意向

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸 (N=208)		身近な道路や公園の清掃活動 (45.2)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (31.3)	美化・緑化を進める活動 (30.3)	防災や防犯、交通安全の活動 (26.9)	高齢者・障害者を支援する活動 (25.0)
五軒 (N=141)		身近な道路や公園の清掃活動 (41.1)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (31.9)	美化・緑化を進める活動 (31.2)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (23.4)	高齢者・障害者を支援する活動／生涯学習の推進を図る活動 (22.0)
新荘 (N=166)		身近な道路や公園の清掃活動 (45.8)	美化・緑化を進める活動 (28.9)	防災や防犯、交通安全の活動 (25.3)	高齢者・障害者を支援する活動 (22.3)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (19.3)
城東 (N=187)		身近な道路や公園の清掃活動 (51.3)	防災や防犯、交通安全の活動 (32.6)	美化・緑化を進める活動 (32.1)	高齢者・障害者を支援する活動 (26.2)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (23.0)
浜田 (N=263)		身近な道路や公園の清掃活動 (52.5)	美化・緑化を進める活動 (30.8)	高齢者・障害者を支援する活動 (29.3)	防災や防犯、交通安全の活動 (26.6)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (24.7)
常磐 (N=238)		身近な道路や公園の清掃活動 (38.2)	美化・緑化を進める活動 (28.6)	防災や防犯、交通安全の活動 (27.7)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (26.9)	高齢者・障害者を支援する活動 (26.1)
緑岡 (N=258)		身近な道路や公園の清掃活動 (47.3)	美化・緑化を進める活動 (33.7)	高齢者・障害者を支援する活動 (26.4)	防災や防犯、交通安全の活動 (25.6)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (24.4)
寿 (N=170)		身近な道路や公園の清掃活動 (48.8)	防災や防犯、交通安全の活動 (27.6)	美化・緑化を進める活動 (24.7)	高齢者・障害者を支援する活動 (22.9)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (20.6)
上大野 (N=52)		身近な道路や公園の清掃活動 (53.8)	高齢者・障害者を支援する活動 (36.5)	美化・緑化を進める活動 (23.1)	防災や防犯、交通安全の活動 (21.2)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動／芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (19.2)
柳河 (N=78)		身近な道路や公園の清掃活動 (50.0)	高齢者・障害者を支援する活動／芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (29.5)		防災や防犯、交通安全の活動 (28.2)	美化・緑化を進める活動／子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (25.6)
渡里 (N=260)		身近な道路や公園の清掃活動 (49.2)	美化・緑化を進める活動 (28.5)	高齢者・障害者を支援する活動 (27.7)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (26.2)	防災や防犯、交通安全の活動 (25.4)
吉田 (N=304)		身近な道路や公園の清掃活動 (46.7)	防災や防犯、交通安全の活動 (34.5)	美化・緑化を進める活動 (26.3)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (25.3)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.0)
酒門 (N=231)		身近な道路や公園の清掃活動 (51.5)	高齢者・障害者を支援する活動 (29.4)	美化・緑化を進める活動 (27.3)	防災や防犯、交通安全の活動 (26.4)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (22.9)
石川 (N=218)		身近な道路や公園の清掃活動 (45.9)	美化・緑化を進める活動 (28.4)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (27.1)	高齢者・障害者を支援する活動／子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (26.6)	
飯富 (N=77)		身近な道路や公園の清掃活動 (54.5)	美化・緑化を進める活動 (36.4)	防災や防犯、交通安全の活動／芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (31.2)		高齢者・障害者を支援する活動 (29.9)
国田 (N=66)		身近な道路や公園の清掃活動 (60.6)	防災や防犯、交通安全の活動 (37.9)	美化・緑化を進める活動 (31.8)	高齢者・障害者を支援する活動 (27.3)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動／芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (21.2)
河和田 (N=197)		身近な道路や公園の清掃活動 (49.2)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (31.0)	高齢者・障害者を支援する活動 (27.4)	防災や防犯、交通安全の活動 (25.9)	美化・緑化を進める活動 (25.4)
上中妻 (N=121)		身近な道路や公園の清掃活動 (57.0)	高齢者・障害者を支援する活動 (36.4)	防災や防犯、交通安全の活動 (32.2)	美化・緑化を進める活動 (28.9)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (19.8)
見川 (N=236)		身近な道路や公園の清掃活動 (47.9)	美化・緑化を進める活動 (33.9)	高齢者・障害者を支援する活動 (28.4)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (25.8)	防災や防犯、交通安全の活動 (25.4)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
千波	(N=440)	身近な道路や公園の清掃活動 (45.0)	美化・緑化を進める活動 (30.7)	防災や防犯，交通安全の活動／芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (26.8)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.5)	
梅が丘	(N=309)	身近な道路や公園の清掃活動 (41.7)	美化・緑化を進める活動 (35.3)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (31.7)	高齢者・障害者を支援する活動 (28.5)	防災や防犯，交通安全の活動 (27.5)
双葉台	(N=242)	身近な道路や公園の清掃活動 (47.9)	防災や防犯，交通安全の活動 (33.5)	高齢者・障害者を支援する活動 (29.3)	美化・緑化を進める活動 (23.6)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (22.7)
笠原	(N=191)	身近な道路や公園の清掃活動 (49.7)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (29.3)	防災や防犯，交通安全の活動 (28.8)	美化・緑化を進める活動 (28.3)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (27.2)
赤塚	(N=108)	身近な道路や公園の清掃活動 (47.2)	防災や防犯，交通安全の活動 (29.6)	美化・緑化を進める活動 (28.7)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (25.0)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (23.1)
吉沢	(N=178)	身近な道路や公園の清掃活動 (48.3)	美化・緑化を進める活動 (30.3)	防災や防犯，交通安全の活動／高齢者・障害者を支援する活動／芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (27.0)		
堀原	(N=146)	身近な道路や公園の清掃活動 (54.1)	美化・緑化を進める活動 (36.3)	防災や防犯，交通安全の活動 (32.2)	高齢者・障害者を支援する活動 (31.5)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (28.1)
下大野	(N=67)	身近な道路や公園の清掃活動 (56.7)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (34.3)	防災や防犯，交通安全の活動 (32.8)	美化・緑化を進める活動 (26.9)	高齢者・障害者を支援する活動／生涯学習の推進を図る活動 (23.9)
稲荷第一	(N=96)	身近な道路や公園の清掃活動 (56.3)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (25.0)	高齢者・障害者を支援する活動 (22.9)	美化・緑化を進める活動／防災や防犯，交通安全の活動 (21.9)	
稲荷第二	(N=79)	身近な道路や公園の清掃活動 (64.6)	美化・緑化を進める活動 (32.9)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (27.8)	防災や防犯，交通安全の活動／高齢者・障害者を支援する活動 (21.5)	
大場	(N=40)	身近な道路や公園の清掃活動 (60.0)	美化・緑化を進める活動 (32.5)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (30.0)	防災や防犯，交通安全の活動 (27.5)	高齢者・障害者を支援する活動 (25.0)
妻里	(N=86)	身近な道路や公園の清掃活動 (46.5)	防災や防犯，交通安全の活動 (29.1)	美化・緑化を進める活動 (27.9)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.4)	芸術文化やスポーツの振興を図る活動 (22.1)
鯉淵	(N=99)	身近な道路や公園の清掃活動 (60.6)	防災や防犯，交通安全の活動 (32.3)	美化・緑化を進める活動 (29.3)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.2)	学校教育を支援する活動 (21.2)
内原	(N=131)	身近な道路や公園の清掃活動 (56.5)	美化・緑化を進める活動 (33.6)	防災や防犯，交通安全の活動 (28.2)	子育て支援や青少年の健全育成を図る活動 (26.0)	高齢者・障害者を支援する活動 (24.4)

地区別でみると，ほとんどの地区で「身近な道路や公園の清掃活動」が最も多くなっているほか，「美化・緑化を進める活動」，「高齢者・障害者を支援する活動」，「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」が上位を占めている。また，城東地区や吉田地区をはじめとして，「防災や防犯，交通安全の活動」が第2位を占めている地区も多くなっている。

### 3-7-3 市民と行政との協働

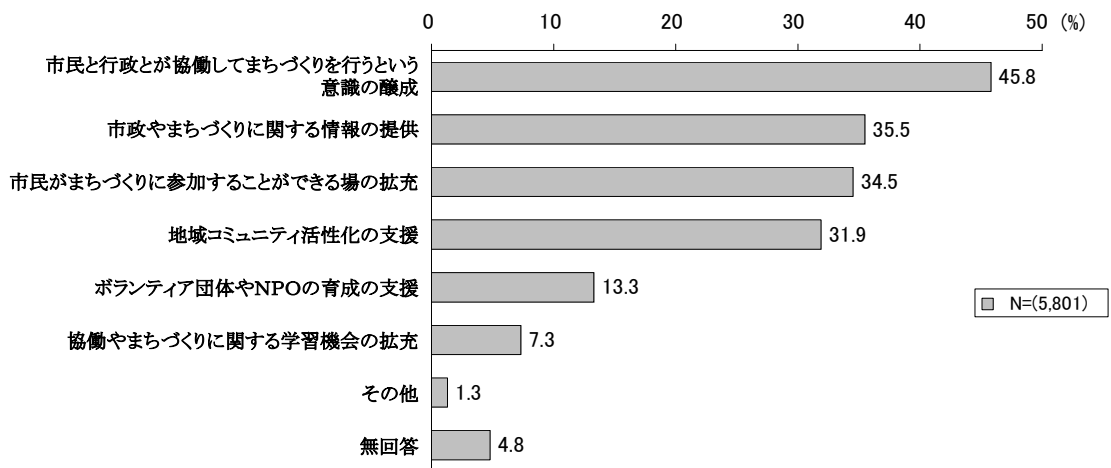
#### 「市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成」が最も多い

問20 今後、市民と行政とが協働でまちづくりを進めていくためには、水戸市はどのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇は2つまで) (N=5,801) M. A.

(単位：%)

1	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成	45.8
2	市民がまちづくりに参加することができる場（会議やイベントなど）の拡充	34.5
3	市政やまちづくりに関する情報の提供	35.5
4	地域コミュニティ（町内会・自治会など）活性化の支援	31.9
5	ボランティア団体やNPOの育成の支援	13.3
6	協働やまちづくりに関する学習機会の拡充	7.3
7	その他	1.3
	無回答	4.8

市民と行政との協働



市民と行政が協働でまちづくりを進めていくために市に力を入れてほしいことをたずねたところ、「市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成」が45.8%で最も多く、以下「市政やまちづくりに関する情報の提供」35.5%、「市民がまちづくりに参加することができる場の拡充」34.5%、「地域コミュニティ活性化の支援」31.9%、「ボランティア団体やNPOの育成の支援」13.3%の順で続いている。市民の間では、協働の意識づくりや関連情報の提供を重視する傾向があらわれている。

## 性別 市民と行政との協働

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.2)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (35.6)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (32.7)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.3)
(N=2,509)						
女性		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.4)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (35.7)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (31.6)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (14.1)
(N=3,204)						

性別で見ると、男女とも「市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成」が最も多く、次いで「市政やまちづくりに関する情報の提供」、「市民がまちづくりに参加することができる場の拡充」、「地域コミュニティ活性化の支援」、「ボランティア団体やNPOの育成の支援」の順となっており、上位5位は男女共通している。

## 年齢別 市民と行政との協働

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (43.3)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (37.8)	地域コミュニティ活性化の支援 (33.3)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (31.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (20.0)
(N=90)						
20～29歳		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (42.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (39.9)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (37.9)	地域コミュニティ活性化の支援 (29.2)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.1)
(N=496)						
30～39歳		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.0)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (41.0)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (36.6)	地域コミュニティ活性化の支援 (24.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.6)
(N=856)						
40～49歳		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (45.9)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (40.2)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (35.9)	地域コミュニティ活性化の支援 (25.5)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (15.1)
(N=952)						
50～59歳		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.8)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (36.1)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (34.5)	地域コミュニティ活性化の支援 (29.0)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (16.2)
(N=951)						
60～69歳		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.6)	地域コミュニティ活性化の支援 (39.0)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (34.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (32.7)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.1)
(N=1,163)						
70歳以上		市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.6)	地域コミュニティ活性化の支援 (39.8)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (32.9)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (27.3)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (10.4)
(N=1,211)						

年齢別で見ると、20歳未満を除く各年齢層で「市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成」が最も多くなっている。また、20歳代から70歳代の各年齢層で、「市民がまちづくりに参加することができる場の拡充」、「市政やまちづくりに関する情報の提供」、「地域コミュニティ活性化の支援」が上位を占めている。



地区別 市民と行政との協働

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸	(N=208)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (55.8)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (40.4)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (33.2)	地域コミュニティ活性化の支援 (25.5)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (9.1)
五軒	(N=141)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (47.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (35.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (33.3)	地域コミュニティ活性化の支援 (32.6)	協働やまちづくりに関する学習機会の拡充 (9.9)
新荘	(N=166)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.0)	地域コミュニティ活性化の支援 (38.6)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (34.3)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (32.5)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (9.6)
城東	(N=187)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.1)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.8)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (33.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (32.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.9)
浜田	(N=263)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (45.6)	地域コミュニティ活性化の支援 (36.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.2)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (31.6)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.9)
常磐	(N=238)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (47.1)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (40.8)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (35.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (31.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (10.9)
緑岡	(N=258)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (42.6)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (40.7)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.9)	地域コミュニティ活性化の支援 (29.8)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.8)
寿	(N=170)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.7)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (37.6)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (32.9)	地域コミュニティ活性化の支援 (27.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.4)
上大野	(N=52)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (55.8)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (32.7)	市政やまちづくりに関する情報の提供/地域コミュニティ活性化の支援 (30.8)		ボランティア団体やNPOの育成の支援 (9.6)
柳河	(N=78)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (50.0)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (38.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供/地域コミュニティ活性化の支援 (33.3)		ボランティア団体やNPOの育成の支援 (6.4)
渡里	(N=260)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.5)	地域コミュニティ活性化の支援 (33.1)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (31.9)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (31.2)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.8)
吉田	(N=304)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.0)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (37.8)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.9)	地域コミュニティ活性化の支援 (28.0)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (15.8)
酒門	(N=231)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (46.3)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (39.0)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (38.1)	地域コミュニティ活性化の支援 (34.2)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.6)
石川	(N=218)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (49.1)	市政やまちづくりに関する情報の提供/地域コミュニティ活性化の支援 (35.3)		市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (33.9)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.3)
飯富	(N=77)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.2)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (37.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (33.8)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (24.7)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (16.9)
国田	(N=66)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成/地域コミュニティ活性化の支援 (40.9)		市政やまちづくりに関する情報の提供 (27.3)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (24.2)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (16.7)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
河和田	(N=197)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (36.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (33.0)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (28.4)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (17.8)
上中妻	(N=121)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (57.0)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (34.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (33.1)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (24.8)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.2)
見川	(N=236)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (43.6)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (39.0)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (36.9)	地域コミュニティ活性化の支援 (32.2)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (14.0)
千波	(N=440)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.1)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (39.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (38.2)	地域コミュニティ活性化の支援 (26.4)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.9)
梅が丘	(N=309)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (42.7)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充／市政やまちづくりに関する情報の提供 (35.0)	地域コミュニティ活性化の支援 (33.3)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (14.9)	
双葉台	(N=242)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (40.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (38.0)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (35.1)	地域コミュニティ活性化の支援 (28.9)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (16.9)
笠原	(N=191)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.2)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充／市政やまちづくりに関する情報の提供 (35.6)	地域コミュニティ活性化の支援 (29.8)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (16.2)	
赤塚	(N=108)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (43.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (40.7)	地域コミュニティ活性化の支援 (36.1)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (32.4)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (15.7)
吉沢	(N=178)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (48.3)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充／市政やまちづくりに関する情報の提供 (34.3)	地域コミュニティ活性化の支援 (33.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.9)	
堀原	(N=146)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (43.8)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (37.0)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (35.6)	地域コミュニティ活性化の支援 (34.9)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (13.0)
下大野	(N=67)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (52.2)	地域コミュニティ活性化の支援 (41.8)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (35.8)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (29.9)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (7.5)
稲荷第一	(N=96)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (40.6)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (36.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (34.4)	地域コミュニティ活性化の支援 (27.1)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (11.5)
稲荷第二	(N=79)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (41.8)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (40.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (34.2)	地域コミュニティ活性化の支援 (30.4)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (17.7)
大場	(N=40)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (47.5)	地域コミュニティ活性化の支援 (42.5)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (37.5)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (35.0)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (10.0)
妻里	(N=86)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (44.2)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (32.6)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (29.1)	地域コミュニティ活性化の支援 (27.9)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (12.8)
鯉淵	(N=99)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成 (42.4)	市政やまちづくりに関する情報の提供 (39.4)	地域コミュニティ活性化の支援 (35.4)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充 (21.2)	ボランティア団体やNPOの育成の支援 (11.1)
内原	(N=131)	市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成／市政やまちづくりに関する情報の提供 (38.2)	市民がまちづくりに参加することができる場の拡充／地域コミュニティ活性化の支援 (37.4)			ボランティア団体やNPOの育成の支援 (10.7)

地区別で見ると、多くの地区で「市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成」が最も多くなっているが、国田地区では「地域コミュニティ活性化の支援」が、内原地区では「市政やまちづくりに関する情報の提供」が第1位で並んでいる。また、「ボランティア団体やNPOの育成の支援」は、ほぼすべての地区にわたって、1割弱から1割台半ばと低くなっている。

### 3-8 市役所本庁舎等のあり方

#### 3-8-1 市役所本庁舎等の改修又は建替えに当たっての優先事項

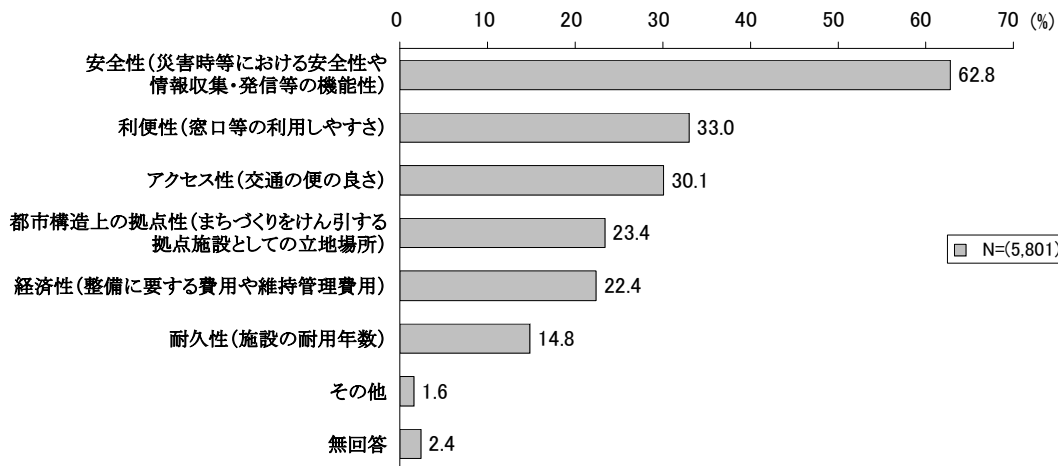
本庁舎等は「安全性」が最優先

問21 東日本大震災の被害により使用を制限している市役所本庁舎（昭和47年築）について、安全性等の調査を行ったところ、現状のままでは使用できず、大規模な改修工事又は建替え等が必要との診断でした。同じく被災した水道部庁舎、消防本部庁舎のあり方を含め、本庁舎等の今後の対応方策を検討するに当たって、どのようなことを優先すべきだと思いますか。（○は2つまで）（N=5,801）M.A.

（単位：％）

1 安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	62.8
2 経済性（整備に要する費用や維持管理費用）	22.4
3 耐久性（施設の耐用年数）	14.8
4 利便性（窓口等の利用しやすさ）	33.0
5 アクセシビリティ（交通の便の良さ）	30.1
6 都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）	23.4
7 その他	1.6
無回答	2.4

市役所本庁舎等の改修又は建替えに当たっての優先事項



東日本大震災により被害を受けた市役所の本庁舎等の改修や建替えに当たって、優先すべきことをたずねたところ、「安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）」が62.8%で最も多く、以下「利便性（窓口等の利用しやすさ）」33.0%、「アクセシビリティ（交通の便の良さ）」30.1%、「都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）」23.4%、「経済性（整備に要する費用や維持管理費用）」22.4%の順で続いている。このように、東日本大震災の経験を踏まえて、市民は庁舎に対して地震等災害時における安全性と、災害時に的確な情報を収集し、迅速に市民に発信できる機能を最優先に求めていることがわかる。

また、市民にとって身近な施設として、窓口等が利用しやすいことや行きやすいことを望んでいることがわかる。

### 性別 市役所本庁舎等の改修又は建替えに当たっての優先事項

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）
(N=2,509)		(58.5)	(32.2)	(28.7)	(26.9)	(25.2)
女性		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）
(N=3,204)		(66.3)	(33.7)	(31.7)	(21.0)	(20.3)

性別で見ると、男女とも「安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）」が最も多く、次いで「利便性（窓口等の利用しやすさ）」、「アクセス性（交通の便の良さ）」、「都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）」、「経済性（整備に要する費用や維持管理費用）」の順となっており、上位5位は共通している。特に、女性では「安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）」が66.3%と男性より約8%高くなっており、庁舎に安全性や情報発信機能を求める意見が女性に強いことがわかる。

### 年齢別 市役所本庁舎等の改修又は建替えに当たっての優先事項

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳未満		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	耐久性（施設の耐用年数）／利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）
(N=90)		(76.7)	(28.9)	(24.4)	(15.6)	
20～29歳		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）	耐久性（施設の耐用年数）
(N=496)		(65.9)	(39.3)	(27.0)	(21.4)	(20.2)
30～39歳		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）
(N=856)		(64.6)	(33.8)	(29.2)	(27.6)	(18.6)
40～49歳		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）
(N=952)		(64.7)	(32.2)	(30.3)	(27.2)	(21.1)
50～59歳		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	アクセス性（交通の便の良さ）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）
(N=951)		(57.8)	(34.5)	(32.8)	(27.0)	(25.8)
60～69歳		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）
(N=1,163)		(62.8)	(31.6)	(30.6)	(29.8)	(19.7)
70歳以上		安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）	利便性（窓口等の利用しやすさ）	アクセス性（交通の便の良さ）	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）	耐久性（施設の耐用年数）
(N=1,211)		(61.8)	(32.5)	(29.6)	(25.9)	(17.8)

年齢別で見ると、すべての年齢層を通じて、「安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）」が最も多く、次いで「利便性（窓口等の利用しやすさ）」や「アクセス性（交通の便の良さ）」が上位を占めている。

地区別 市役所本庁舎等の改修又は建替えに当たっての優先事項

(単位：%)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
三の丸	(N=208)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (59.1)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (36.5)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (33.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (29.3)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (17.3)
五軒	(N=141)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (56.7)	アクセス性（交通の便の良さ） (40.4)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (37.6)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (27.7)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (13.5)
新荘	(N=166)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (57.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (35.5)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (32.5)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (28.3)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (21.1)
城東	(N=187)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (65.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (37.4)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (34.8)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）／都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (19.3)	
浜田	(N=263)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (60.8)	アクセス性（交通の便の良さ） (34.2)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (33.8)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (23.6)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (20.2)
常磐	(N=238)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (61.3)	利便性（窓口等の利用しやすさ）／アクセス性（交通の便の良さ） (31.9)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (24.8)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (20.2)	
緑岡	(N=258)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (66.3)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (34.1)	アクセス性（交通の便の良さ） (27.9)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (27.5)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (21.3)
寿	(N=170)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (65.3)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (31.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (28.8)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (27.1)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (20.6)
上大野	(N=52)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (59.6)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (38.5)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (28.8)	耐久性（施設の耐用年数）／アクセス性（交通の便の良さ） (21.2)	
柳河	(N=78)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (61.5)	アクセス性（交通の便の良さ） (33.3)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (28.2)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (24.4)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）／耐久性（施設の耐用年数） (17.9)
渡里	(N=260)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (67.3)	アクセス性（交通の便の良さ）／都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (28.5)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (27.7)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (21.2)	
吉田	(N=304)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (64.1)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (34.5)	アクセス性（交通の便の良さ） (28.0)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (27.0)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (19.4)
酒門	(N=231)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (63.2)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (32.9)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (29.0)	アクセス性（交通の便の良さ） (24.7)	耐久性（施設の耐用年数）／都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (17.7)

区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
石川	(N=218)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (66.1)	アクセス性（交通の便の良さ） (36.7)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (31.2)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (22.5)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (18.3)
飯富	(N=77)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (66.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (33.8)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (32.5)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (22.1)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (20.8)
国田	(N=66)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (51.5)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (43.9)	アクセス性（交通の便の良さ） (30.3)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (27.3)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (18.2)
河和田	(N=197)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (60.9)	アクセス性（交通の便の良さ） (33.0)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (30.5)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (24.4)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (22.3)
上中妻	(N=121)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (53.7)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (36.4)	アクセス性（交通の便の良さ） (29.8)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (28.9)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (28.1)
見川	(N=236)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (62.7)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (34.7)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用）／ アクセス性（交通の便の良さ） (26.7)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (18.6)	
千波	(N=440)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (60.9)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (35.0)	アクセス性（交通の便の良さ） (32.5)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (24.3)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (22.0)
梅が丘	(N=309)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (65.7)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (36.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (29.1)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (25.9)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (18.8)
双葉台	(N=242)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (68.2)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (34.3)	アクセス性（交通の便の良さ） (28.1)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (22.3)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (19.4)
笠原	(N=191)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (63.9)	アクセス性（交通の便の良さ） (29.8)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (28.8)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (27.2)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (24.1)
赤塚	(N=108)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (57.4)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (38.9)	アクセス性（交通の便の良さ） (31.5)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (23.1)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (19.4)
吉沢	(N=178)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (69.1)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (30.9)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (29.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (23.6)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (19.1)
堀原	(N=146)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (61.0)	アクセス性（交通の便の良さ） (34.2)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (30.8)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (26.0)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (20.5)



区分	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
下大野	(N=67)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (67.2)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (44.8)	アクセス性（交通の便の良さ） (25.4)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (23.9)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (19.4)
稲荷第一	(N=96)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (57.3)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (40.6)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (28.1)	アクセス性（交通の便の良さ） (26.0)	耐久性（施設の耐用年数） (15.6)
稲荷第二	(N=79)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (60.8)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (34.2)	アクセス性（交通の便の良さ） (30.4)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (29.1)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (21.5)
大場	(N=40)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (62.5)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (37.5)	アクセス性（交通の便の良さ） (32.5)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (30.0)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (20.0)
妻里	(N=86)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (65.1)	アクセス性（交通の便の良さ） (30.2)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (26.7)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (17.4)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (15.1)
鯉淵	(N=99)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (74.7)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (27.3)	アクセス性（交通の便の良さ） (22.2)	耐久性（施設の耐用年数） (21.2)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） ／都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (20.2)
内原	(N=131)	安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性） (60.3)	アクセス性（交通の便の良さ） (31.3)	利便性（窓口等の利用しやすさ） (30.5)	都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所） (22.9)	経済性（整備に要する費用や維持管理費用） (16.8)

地区別でみると、すべての地区で「安全性（災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性）」が最も多くなっている。また、多くの地区において、「利便性（窓口等の利用しやすさ）」及び「アクセス性（交通の便の良さ）」が、約2割から4割を占め、第2位又は第3位となっている。

## 4 市政についての意見・要望

自由記入形式の「ご意見欄」に書かれた市政についてのアイデア・要望あるいは意見などは、延べ2,272件であった。

これらの中で最も多いものは、「行政」に関するもので487件（21.4%）となっており、このうち市役所窓口の土日開放や時間延長、窓口の対応など、市役所窓口に対する意見や要望が69件と多い。

次いで多かったのは、「道路・交通」に関するもので407件（17.9%）となっており、このうち車道、自転車道路、歩道の整備、街路灯の設置など道路に関するものが230件となっている。また、交通に関するものは177件あり、中でもバスの増便や路線の拡充、路上駐車に対する意見や要望が多い。

3番目に多かったのが幼稚園、保育園の設置など「教育・文化・地域活動」に関するもので363件（16.0%）、公園の整備、商店街の開発など「まちづくり」に関するものが350件（15.4%）、震災、原発、放射線など「災害」に関するものが253件（11.1%）となっている。また、介護や医療費助成など「保健・福祉・医療」に関するものが184件（8.1%）となっている。

「ごみ・上下水道・環境保全対策」に関するものは211件（9.3%）となっている。中でも悪臭やペットのふん害など環境保全対策に関するものが98件、ごみの出し方や分別方法、ごみのリサイクルの推進など、ごみに関する意見や要望が73件、上下水道の整備を望む意見や要望が40件となっている。

自由意見では、市政全般にわたり活発な意見が多く寄せられており、市民の市政に対する意識・期待の高さがあらわれている。こうした市民の貴重な声を今後の市政運営へ反映し、魅力あるまちづくりに向けた施策を展開していかなければならない。

### III 分析結果の概要



## 分析結果の概要

### ◎住みごころ

水戸市をどのように感じているか、市民から見た水戸市の印象は、「歴史と伝統がある」、「住居の周囲が自然に恵まれ静かである」、「災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない」、「水が豊富できれいである」などの項目で評価が高く、総合的にみた「全体として住みやすいかどうか」という間に対しては5割近くが肯定的に評価している。しかし、その一方で、「都会的な雰囲気がある」、「産業が盛んで活力を感じる」、「魅力ある職場が多い」などは評価が低くなっている。こうしたことから、歴史と伝統があり、自然にも恵まれ、比較的安全で、利便性も高い住みやすいまちと評価されている一方、都会的な雰囲気に乏しく、産業の活力や魅力的な職場には乏しいと考えられていることがわかる。

前回の調査と比較すると、最も評価の高かった「災害などが比較的少なく安全であり、公害も少ない」が、今回大きく評価を下げているのが特徴的である。

今後とも水戸市に住みたいかどうかに対しては、「住みたい」が7割台半ばを占め、「住みたくない」は5.3%となっている。

定住を希望する理由としては、「自分の家や土地があるから」、「自分が生まれ育ったところだから」、「親類や知人が近くにいるから」などの地縁・血縁に関する要因が上位を占めている。

定住を希望しない理由としては、「自分が生まれ育ったところでないから」、「買物に不便だから」、「人情など人間関係が悪いから」、「この土地に愛着がないから」、「親類や知人が近くにいないから」などが上位を占めている。

### ◎これからのまちづくり

住まいに対する意識については、「現在の住まいにこれからも住みたい」、「現在の住宅を増改築して住みたい」が多く、これらを合わせた現在の住まいに対する定住意向は6割台半ばを占めている。

市民の望む水戸市の方向性としては、「災害に強い安全なまち」が5割近くで最も多く、以下「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」、「都市中枢機能が集積した活気あふれるまち」が4割台で続いている。これらによると、これからのまちづくりの方向としては、市民の多くが災害に強く、高齢者や障害者も安心して生活できるとともに、都市の中枢機能が集積したまちづくりを希望していることがわかる。

前回の調査と比較すると、今回、新たに選択肢として加わった「災害に強い安全なまち」が最も多くなっているほか、「都市中枢機能が集積した活気あふれるまち」が約2倍に増加して、第3位となっていることが特徴的である。

水戸市の適正人口規模についてたずねたところ、「いまのままで良い」と「約30万人」と答えた人が多く、合わせると市民の約5割強が現状程度（約27万人）から30万人程度を水戸市の適正人口規模と考えていることがわかる。

生活環境の整備や行政サービスなどの現状に対する満足度について、市民から高い満足度を得ている項目は「生活用水の安定供給、品質確保」、「ごみの収集・処理や減量化・再資源化の対策」、「自然や緑に囲まれたまちづくり」、「図書館、博物館、文化教養施設などの整備」、「歴史的な資源、伝統文化の継承・保存への取組み」などとなっており、逆に、満足度の低い項目としては、「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」、「身近な生活道路の整備」、「行政への住民意向の反映」、「商業の振興」、「観光の振興」などとなっている。

こうしたことから、市民の多くは、生活用水やごみ処理などの生活環境が整い、自然にも恵まれた歴史と文化のあるまちとして、市の生活環境に満足している一方で、雇用や商業・観光などの面や道

路といった生活基盤には不満を抱いていることがわかる。

今後優先すべき施策としては、「災害に強いまちづくり」が最も多く、以下「高齢者・障害者福祉施策」、「雇用対策や勤労者福祉対策の充実」、「身近な生活道路の整備」、「総合医療対策」の順となっている。東日本大震災の経験などから災害に強いまちづくりを望む声が高くなっているほか、高齢化の進行や長期化する不況への対策が強く求められており、現在の社会状況を反映した結果となっている。

前回の調査と比較すると、今回、「災害に強いまちづくり」が前回より約2割も増加しており、市民の防災に対する危機意識が高くなっているのが特徴的である。また、前回同様、雇用対策、医療の充実を求める人が多くなっている。

住まいの周りの生活環境の評価については、評価の高い項目として、「工場のばい煙、におい」、「ごみの収集」、「日あたり」、「樹木、生垣などの緑」、「近所の下水のにおい」などが上位を占めている。一方、評価の低い項目としては、「歩道などの交通安全施設」、「子どもの遊び場」、「近所の夜道の照明」が挙げられている。

こうしたことから、工場や下水のにおいもなく、空気がきれいで日あたりがよく、緑の豊かな生活環境が高く評価されているが、その一方、歩道や夜間の照明などの生活基盤や子どもの遊び場の整備不足に対する不満が強いことがわかる。

市民を取り巻く生活環境を総合的にみた満足度については、「満足」と「やや満足」を合わせた《満足派》が7割強を占め、「やや不満」と「不満」を合わせた《不満派》の3倍以上となっている。

住んでいる地域における施設整備への要望については、「道路の拡幅や舗装」、「街路灯、防犯灯」、「歩道などの交通安全施設」、「側溝や雨水排水管」、などが高くなっている。

## ◎主要課題

### （水戸市の魅力ある資産）

水戸市の魅力ある資産としては、「偕楽園」が約9割で最も多く、以下「千波湖」、「弘道館」、「水戸の梅まつり」、「偕楽園公園（大規模公園）」の順で続いている。

### （中心市街地活性化）

中心市街地に出かける頻度としては、「月に2～3回」が2割強と最も多く、以下「月に1回」、「週3回以上」の順で続いている。一方、「ほとんどいかない」は1割台半ばとなっている。

中心市街地に出かける理由としては、「買い物」が8割強で最も多く、以下「飲食」、「公共サービス」、「通勤・通学」、「通院」の順となっており、買い物や飲食が上位を占めている。

中心市街地に出かけない理由としては、「魅力ある店舗が少ない」が6割台半ばで最も多く、以下「駐車場が少ない」、「物価が高い」、「公共交通機関が利用しづらい」、「娯楽施設が少ない」の順で続いており、魅力ある店舗の乏しさや利便性の悪さを示す声が高くなっている。

### （子育て支援）

次代を担う子どもたちを健やかに育てられるようにするために力を入れた方が良いこととしては、「保育所等の整備」、「小児医療体制の整備」、「乳幼児や児童等の医療費助成」、「放課後児童対策」、「地域における子育て支援施設の整備」、「公園、遊び場などの整備」が高くなっており、保育サービスの充実のみならず、経済的支援から医療の整備まで、幅広い取組が求められている。

### （高齢者福祉）

超高齢社会を迎えた現在、今後市に力を入れてほしい高齢者福祉施策としては、「保険や年金などの社会保障」が6割台半ばで最も多く、以下「介護をしている家族などの支援」、「介護保険や日常生活の支援などの在宅サービス」、「特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど的高齢者福祉施設

の整備」,「高齢者の移動に配慮した交通手段の整備」の順で続いている。老後の生活のための経済的支援の充実や,介護者の負担の軽減を求める声が高いほか,各種サービスや施設の整備への要望も高くなっている。

前回と比較すると,今回,「保険や年金などの社会保障」が約1割増加しており,高齢者の経済面への不安が高くなっている状況を反映した結果となっている。

#### (防災対策)

東日本大震災後,災害について家庭で備えたこととしては,「飲料水,食糧,懐中電灯,ラジオ,薬などを準備」が7割台半ばで最も多く,以下「家具,テレビ等の転落防止対策」,「家族で防災に関する話し合い」,「避難場所を確認」,「家族間の連絡方法や集合場所を確認」の順で続いている。災害時に備えて食糧の確保や,室内の防災対策のほか,避難場所や家族間での連絡方法の確認が,上位を占めている。また,「何もしていない」が8.2%にとどまり,9割以上の人が,何らかの備えをしている。

今後の防災対策として,市が重点的に取り組むべきこととしては,「飲料水,食糧,日用品などの備蓄」が5割台半ばで最も多く,以下「情報の収集や伝達体制づくり」,「避難所やライフライン施設の耐震化」,「原子力防災対策」,「救助・救急,応急医療体制づくり」の順で続いている。家庭での防災対策と同様に,飲料水や食糧の確保を望む声が増えているほか,情報収集や伝達体制づくりや避難所やライフラインの耐震化に対する要望も強くなっている。

#### (環境問題)

水戸市の環境問題対策への要望のうち力を入れてほしいこととしては,「太陽や風などの自然エネルギーの有効利用」が6割台半ばで最も多く,以下「ごみ減量化,リサイクル活動の支援」,「省エネ機器や次世代エコカー等の普及,節電対策」,「大気汚染,水質汚濁などの監視による公害対策」,「河川や湖(桜川や千波湖など)の水質浄化」の順で続いている。このように自然エネルギーの有効利用への期待が高くなっているほか,ごみ減量化やリサイクル,省エネ等の身近な取組への支援を求める声が高くなっている。

#### (市民と行政との協働)

まちづくりや地域活動への参加状況については,「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた《参加度》は約2割となっている。一方,「あまり参加したことがない」と「参加したことがない」を合わせた,参加に消極的な人が8割近くを占めている。

参加したいまちづくりや地域活動としては,「身近な道路や公園の清掃活動」が約5割で最も多く,以下「美化・緑化を進める活動」,「防災や防犯,交通安全の活動」,「高齢者・障害者を支援する活動」,「芸術文化やスポーツの振興を図る活動」の順で続いている。近年の環境問題への関心の高まりを反映して,身近な地域の清掃活動や美化活動が上位を占めているほか,高齢者や障害者への支援等福祉にかかる取組への参加意向も高くなっている。

市民と行政が協働でまちづくりを進めていくために市に力を入れてほしいこととしては,「市民と行政とが協働してまちづくりを行うという意識の醸成」が4割台半ばで最も多く,以下「市政やまちづくりに関する情報の提供」,「市民がまちづくりに参加することができる場の拡充」,「地域コミュニティ活性化の支援」,「ボランティア団体やNPOの育成の支援」の順で続いており,市民の間では,協働の意識づくりや関連情報の提供を重視する傾向があらわれている。

#### (市役所本庁舎等のあり方)

東日本大震災により被害を受けた市役所の本庁舎等の改修や建替えに当たって,優先すべきこととしては,「安全性(災害時等における安全性や情報収集・発信等の機能性)」が6割強で最も多く,以

下「利便性（窓口等の利用しやすさ）」、「アクセス性（交通の便の良さ）」、「都市構造上の拠点性（まちづくりをけん引する拠点施設としての立地場所）」、「経済性（整備に要する費用や維持管理費用）」の順で続いている。このように、東日本大震災の経験を踏まえて、市民は庁舎に対して地震等の災害に対する安全性と、災害時に情報を的確かつ迅速に市民に提供できる機能を最優先に求めていることがわかる。



資 料 編



未来の水戸をつくる市民1万人アンケート 報告書  
平成24年3月

発行 / 水戸市役所市長公室政策企画課  
水戸市中央1丁目4番1号  
電話 (029) 224-1111